258.2
101

成田山事業年報

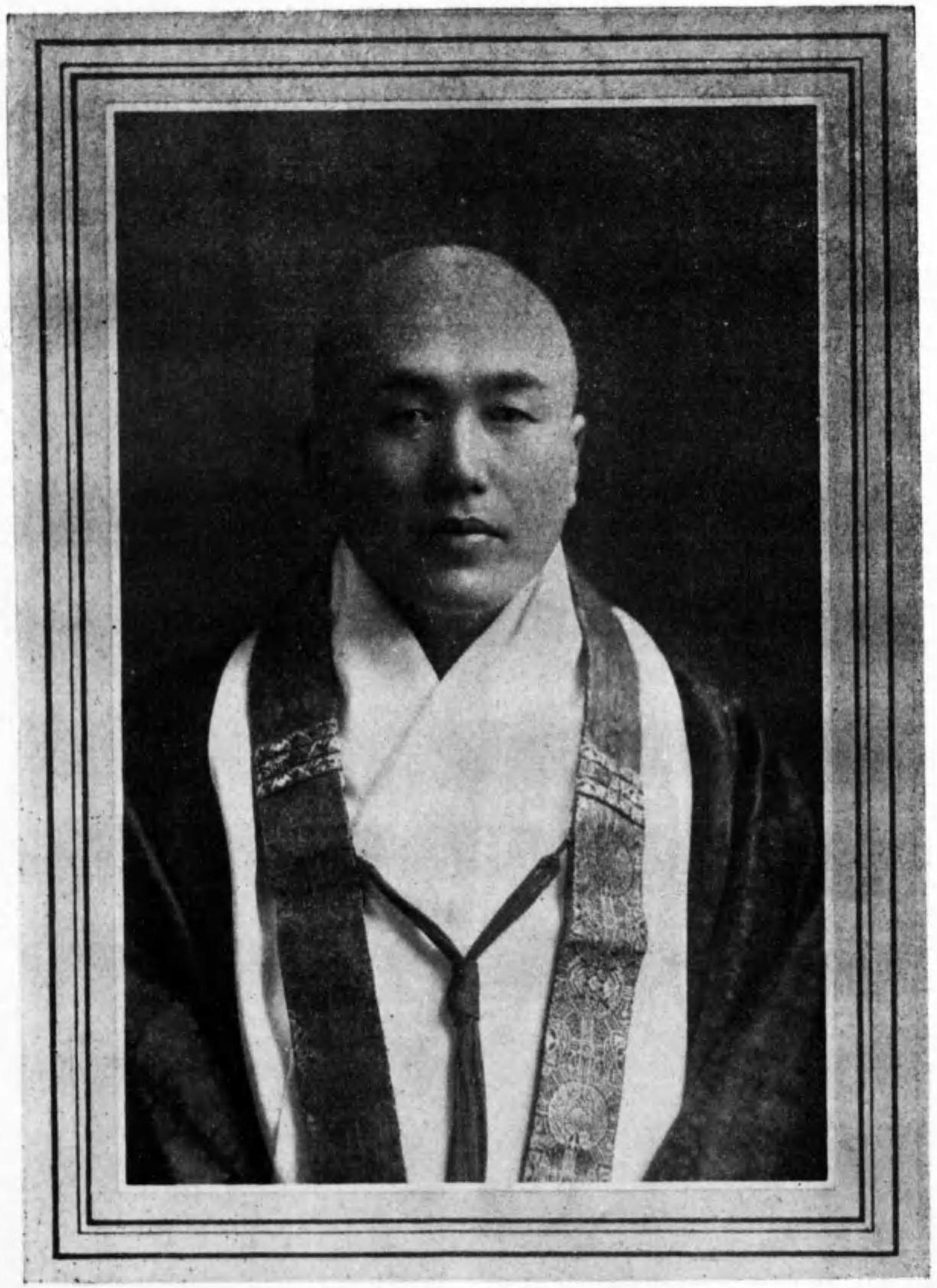
昭和四年

始

目次

成田中學校一覽……一
成田高等女學校一覽……四七
成田幼稚園一覽……七一
成田學園一覽……八一
成田圖書館一覽……九六
成田山新更會一覽……一一一

以上



荒木山主

成田山仁王門

帝國圖書館藏

成田中學校一覽

教育方針綱領……一
成田中學校自治會規約……一一
沿革大略……七
學曆……八
成田中學校々則……九
職員表……一四
生徒表……一五
英漢義塾卒業生人名……二二
卒業生人名及現況表……二三
卒業生及生徒郡別表……四六
經費……四六

發行所寄贈本

昭和四・九・一六 帝圖

露光量違いの為重複撮影

校歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴舟 尾上八郎氏作歌

學習院教官
玉巖 小松耕輔氏作曲

（一）
東の海の夜あけて
うねりよる思想の怒濤
大八洲岸をとよもす
さめよさめよ成邸の健兒

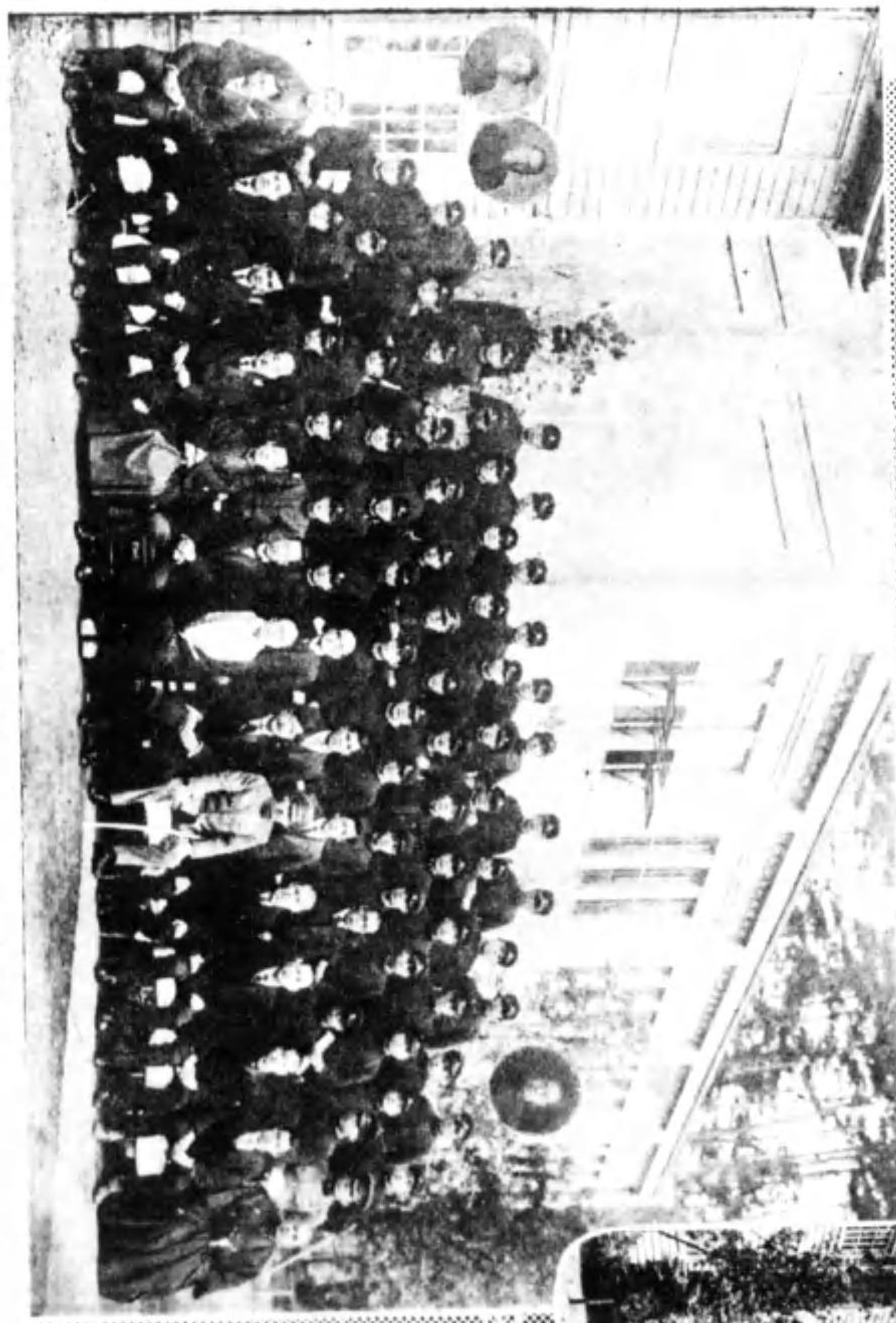
（二）
靈域は不落のとりで
御(み)すがたは降魔の守(まもり)
葉牡丹の校旗のもとに
つどへつどへ成邸の健兒

（三）
勤勉と克巳と慈悲と
忠勇と剛毅と素朴
楯となし劍(つるぎ)となして
立てよ立てよ成邸の健兒

（四）
すさまじき主義のたたかひ
おそろしき智識のいくさ
國のため勝利の冠
とれよとれよ成邸の健兒

（第十八回卒業生寄贈）

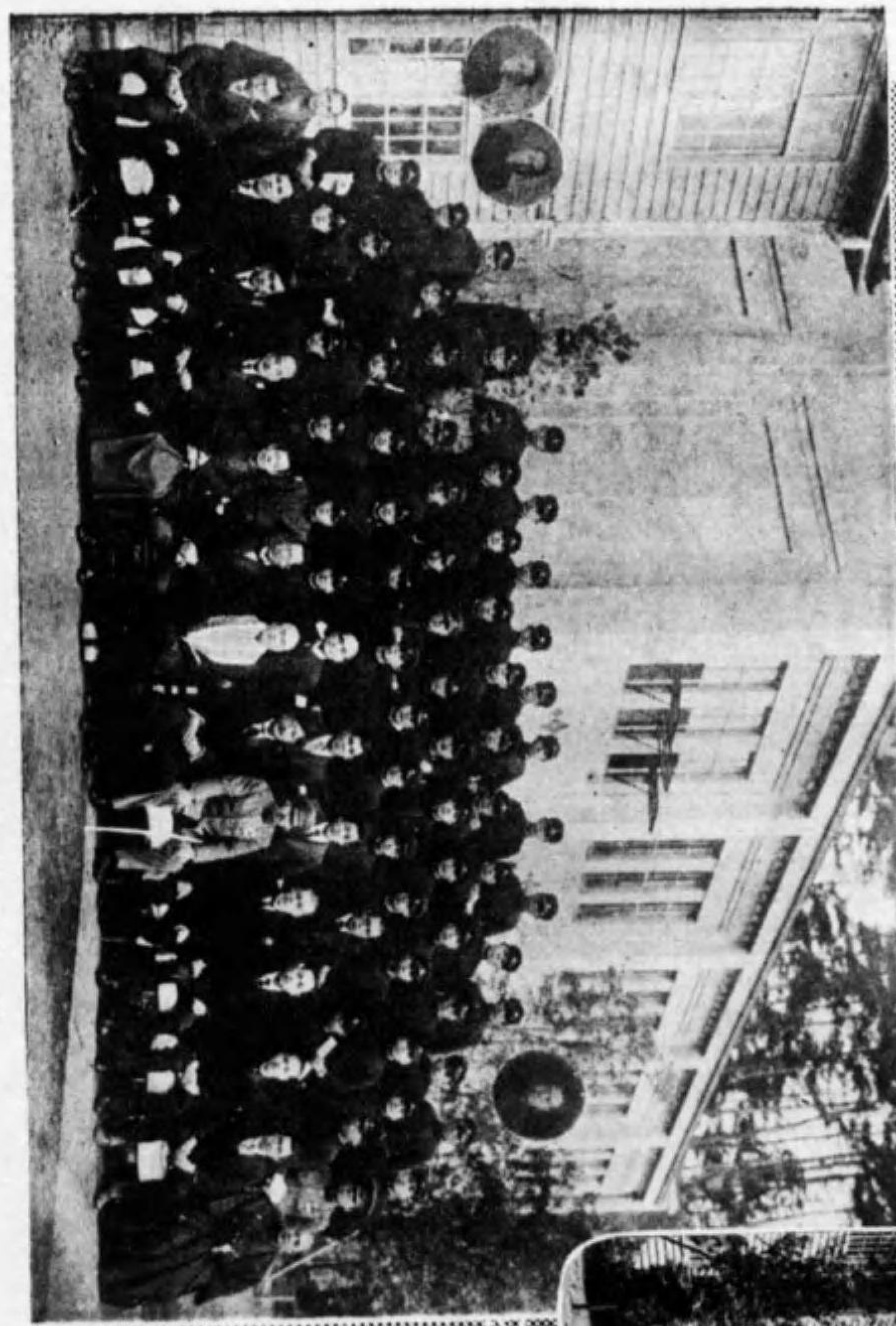
（備考 音域高き時はヘ調にて歌ふも可なり メトロノオム ♩ 84）



職員及第二十八回卒業生

成田中學校

露光量違いの為重複撮影



職員及第二十八回卒業生

成田中學校

校歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴舟 尾上八郎氏作歌
學習院教官 玉巖 小松耕輔氏作曲

(一)
東の海の夜あけて
うねりよる思想の怒濤
大八洲岸をとよもす
さめよさめよ成邱の健兒

(二)
靈域は不落のとりで
御すがたは降魔の守(まもり)
葉牡丹の校旗のもとに
つどへつどへ成邱の健兒

(三)
勤勉と克己と慈悲と
忠勇と剛毅と素朴
楯となし劍(つるぎ)となして
立てよ立てよ成邱の健兒

(四)
すさまじき主義のたたかひ
おそろしき智識のいくさ
國のため勝利の冠
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

(備考 音域高き時はヘ調にて歌ふも可なり
メトロノオム ♩=84)

258.2-101

私立成田中學校一覽

（昭和四年四月現在）

◎教育方針綱領

一切の人間は、其の個性的發展に伴ふ職業的社會參與によりて、社會の構成と發達とに貢獻する所の本質的任務を有す。

本校は、かゝる任務を果すべき基礎として、先づ、紳士たる品性を育成するを以て當面の目的とす。而して紳士教育は、その內容を、皇國固有の民族精神の躍動として現代にまでその精華を發揮せる士道の精神に基きて、特に剛毅と禮節とを重んじ、品性の核心を茲に定むる所の一大校風を樹立せんとするものなり。

惟ふに、勇往果敢に人生の第一義に生きんと熱望する事は、正しき青年の特質にして、青年自身の文化はまたこれによりて純粹道德の建設と維持とをなし得るものなり。

この遒烈にして莊重なる國民的氣魄の下に統一せられざる德操は、吾等國民としての德操に非ず。三千年間の吾等民族の中に流動發展せる人間當行の道としての士道の精神は、かくてその國民道德としての意義を發現し得たるものなり。

本校生徒は、自らを磨くに、常にこの精神を自己の內に顯現せん事を力め、精進怠るなかれ。人格の偉大さの第一義は、實にかゝる精神を發揮せんとして常に自己改善の爲めに邁進する所に存するものにして、單なる世の賞讃非難、若くは人として止むなき過失の有無等には存せざるなり。

苟も本校生徒にして、遂にこの見易き事理を解する能はず、反省自ら努むる所なきものは、速に去つて他に適從の處を求むべし。

◎成田中學校自治會規約

（昭和三年九月一日制定）
（昭和四年三月十五日改正）

第一章　總　則

第一條　本會ハ成田中學校自治會ト稱ス

第二條　本會ハ本校ノ教育方針ニ基キ生徒各自協力一致シテ風紀ノ振肅及ヒ校內ノ清潔整頓ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ成田中學校全生徒ヲ以テ組織ス

第四條　本會ノ目的ヲ遂行スルタメ左ノ部ヲ設ク

成田中學校自治會
- 全校自治會（計畫部・實行部）
- 校外自治會（實行部）
- 學級自治會（計畫部・實行部）
- 審判部

第五條　本會長トシテ學校長ヲ推戴ス

參照舊規約　第四條校外自治會及審判部無シ

會長ハ本會ヲ統轄シ計畫部及ヒ實行部ノ決議ニ對シ裁否ヲ決定シ決裁ヲ與ヘタルモノハ實行部ヲシテ之カ實行ヲ督勵セシム

第六條　本會ノ部長及ヒ副部長ハ會長之ヲ委囑ス

第七條　本會員ハ自己ノ意見ヲ學級自治會計畫部ニ提出スルコトヲ得倘全校自治會及ビ校外自治會實行部委員ハ直接各其部ノ意見ヲ全校自治會計畫部ニ提出スルコトヲ得

第八條　本會規約ヲ變更セントスルトキハ會長ノ許可ヲ受ケ全校自治會計畫部委員及ヒ各學級ヨリ互選ニ依リ選出シタル三名ノ委員ニ附托審議シ全校自治會計畫部長ノ承認ヲ仰キ會長ノ決裁ヲ受クルモノトス

參照舊規約　第七條本會員ハ自己ノ意見ヲ學級自治會計畫部ニ提出スルコトヲ得

第二章　全校自治會

一、計　畫　部

第九條　本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム

1、部　長　　一　名

全校自治會計畫部ヲ統轄シ要スレハ全校自治會計畫委員會ニ臨席シ其ノ決議ニ對シ適否ヲ判定シ承認ヲ與ヘタル事項ハ會長ノ決裁ヲ仰ク

2、副部長　　二　名

部長ヲ輔佐シ部長不在ノ場合之カ代理ヲナス

3、全校自治會計畫部委員　　三十名

(イ)各學級計畫部委員ヲ以テ全校自治會計畫部委員會ヲ組織シ各學級自治會ヨリ提出セシ事項ニ就キ首席委員ニ屆告シ過宜ノ時機ニ委員會ヲ開キテ之ヲ審議シ半數以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ部長ノ承認ヲ仰ク

(ロ)委員ハ互選ヲ以テ最上級委員中ヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スヘシ該委員ハ各委員ヲ統一シ委員會ヲ開キ部長トノ連絡ニ任ス

(ハ)全校自治會及校外自治會實行部委員ニシテ意見アル場合ハ其時ニ限リ計畫部委員ニ臨席提議スルコトヲ得

(ニ)委員ハ議決決裁セラレタル事項ヲ各自ノ學級ニ必ズ發表スベシ

參照舊規約第九條　全校自治會計畫部委員　三十名

各學級ヨリ三名宛ノ委員ヲ選出シ之ヲ以テ全校自治會計畫部委員會ヲ組織シ各學級自治會ヨリ提出セシ事項ニ就キ部長ニ屆告シ適宜ノ時機ニ委員會ヲ開キテ之ヲ審議シ半數以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ其ノ承認ヲ仰ク。(ハ)(ニ)兩項規定無シ

第十條　委員ハ必要ナル記錄ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部長之ヲ定ム

二、實　行　部

第十一條　本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム

1、部　長　　一　名

各委員ヲ指揮監督シ會長ノ決裁ヲ得タル事項ヲ實施セシム又要スレハ全校自治會實行部委員會ニ臨席シ其ノ決議ニ對シ適否ヲ判定シ承認ヲ與ヘタル事項ハ會長ノ決裁ヲ仰ク

2、副部長　　二　名

部長ヲ輔佐シ部長不在ノ場合之カ代理ヲナス

3、風紀係委員　　三　名

生徒ノ言行及ヒ服裝ノ取締

4、室內係委員　　三　名

教室及ヒ附屬廊下ノ清潔整頓ト放課後行フ各教室ノ掃除トノ點檢

5、室外係委員（風紀係委員兼任）

教室以外ノ校舍及ヒ附屬建物ノ清潔整理校庭ノ清潔整理

委員ノ任務ヲ右ノ如ク定ムト雖モ各委員ハ相互ニ密接ナル連繫ヲ保チ協力一致任務ノ遂行ニ努力スル者トス

委員ハ最上級生ヨリ六名次ノ級ヨリ四名ヲ以テ充テ互選ニヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スヘシ

參照舊規約第十一條末項　委員ハ最上級生ヲ以テ充テ互選ニヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スヘシ該委員ハ各委員ヲ統一シ部長トノ連絡ニ任ス又必要ト認ムル時ハ部長ニ屆告シテ委員會ヲ開キ之カ決議事項ヲ部長ニ報告シ承認ヲ仰ク

第十二條　委員ハ美事善行ノ助長ヲ主トシ非違ノ發見ヲ從トス故ニ善行者ヲ認メタルトキハ之ニ賞詞ヲ與ヘ部長ニ報告スヘシ

又非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノハ部長ニ報告スルト共ニ審判部ニ提出スベシ

第十三條　委員ハ非違ヲ認メタル時ハ之ニ必要ノ注意ト訓誡トヲ與フルコトヲ得然レトモ次ノ事項ヲ嚴守スヘシ

參照舊規約第十二條末項　又非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノハ部長ニ報告スベシ

1、絕對ニ暴力ヲ用フルヲ許サス

2、訓誡ニハ役員以外何人ノ參加ヲモ許サス

第十四條　委員ハ必要ナル記錄ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部長之ヲ定ム

第三章　學級自治會

第十五條　學級主任監督ノ下ニ學級自治會ヲ設ケ之ヲ計畫部及

ヒ實行部ニ分ツ

一、計畫部

第十六條　本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
學級自治會計畫部委員　三　名
每週最終日ニ學級主任臨席ノ下ニ定期委員會ヲ開催シテ生徒提出ノ意見ニツキ審議シ出席者半數以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ學級主任ノ決裁ヲ仰グ。要スレバ右決議事項ヲ全校及校外自治會實行部ニ報告スベシ
但シ全校自治ニ關スルモノハ學級主任ヲ經ルコトナク全校自治會計畫部ニ提出ス

參照舊規約第十六條　本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
學校自治會計畫部委員　二　名
學級中ノ生徒ヨリ提出セル意見ニ就キ學級主任ノ許可ヲ得テ適宜ノ時機ニ學級自治會ヲ開キ之ヲ審議シ參會者ノ半數以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ學級主任ニ報告シ決裁ヲ仰ク

第十七條　委員ハ必要ノ記錄ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ學級主任之ヲ定ム

二、實行部

第十八條　本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
學級自治會實行部委員　六　名
學級自治會ノ決議ニヨリ決裁セラレタル事項ヲ監督實施ス而シテ之ヲ左ノ如ク分ツ
1、風紀係委員　二　名（級長、副級長、計畫部係員ハ風紀係委員ヲ補助ス）
生徒ノ言行及ヒ服裝ノ取締
2、室內係委員　四　名
教室及ヒ附屬廊下ノ淸潔整頓

參照舊規約第十八條ノ風紀委員二名ノ下括弧內記事無シ

第十九條　委員ハ美事善行ノ助長ヲ主トシ非違ノ發見ヲ從トス
故ニ善行者ヲ認メタルトキハ之ニ賞詞ヲ與ヘ學級主任ニ報告スヘシ
又非違者ヲ認メタルトキハ之ニ對シ必要ノ注意ヲ與フルモノトス
非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノハ學級主任ニ報告シ要スレバ審判部ニ提出スベシ

參照舊規約第十九條末項　非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノハ學級主任ニ報告スヘシ

第二十條　委員ハ必要ノ記錄ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ學級主任之ヲ定ム

第四章　校外自治會　（以下全部昭和四年三月新制定）

第廿一條　特ニ校外ニ於ケル生徒風紀振肅ヲ圖ル爲之ヲ設ク

第廿二條　通學區域ニヨリ之ヲ左ノ若干組ニ分ツ
A組　仲町、砂田、田町、寺臺、東和田方面
B組　本町、上町、花咲町、幸町土屋方面
C組　佐原街道方面
D組　三里塚方面
E組　安食街道方面
F組　上野線方面
G組　佐原線方面
H組　宗吾線方面　七榮方面
I組　多古線方面
J組　關戶方面

第廿三條　本會ハ全校及ビ學級自治會ニ於テ議決シ決裁セラレタル事項ヲ遂行センガ爲其ノ實行部ヲ置ク

第廿四條　校外自治會實行部ニ於ケル役員、名稱、任務、人員等ヲ次ノ如ク定ム
1、部　長　一名　全校自治會實行部々長兼任、任務モ亦同ジ
2、副部長　二名　全校自治會實行部副部長兼任任務モ亦同ジ。
3、實行部委員　三十名
(イ)各組ヨリ三名宛ノ委員ヲ選出シ之ヲ以テ校外自治會實行部委員會ヲ組織シ、各學級及ビ全校自治會計畫部ニ於テ議決セシ事項ノ進行ニ關シテ審議シ部長ニ報告シテ會長ノ決裁ヲ仰グ
(ロ)委員ハ互選ヲ以テ最上級委員中ヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スベシ、該委員ハ各委員ヲ統一シ委員會ヲ開キ部長トノ連絡ニ任ズ
(ハ)必要アレバ第七條ニヨリ直接全校自治會計畫部ニ提案シ其ノ審議ヲ仰グ
(ニ)第十九條ト同樣ナル任務ヲ有ス

第二十五條　委員ハ必要ノ記錄ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部長之ヲ定ム

第五章　審判部

第二十六條　全校生徒ノ風紀維持上已ムヲ得ザル生徒ヲ反省セシムル爲訓誡スルト共ニ善行者ヲ表彰スルヲ以テ目的トス

第二十七條　自治會員ハ何學年生タルヲ問ハズ必要ニ應ジテ審判部ニ申告スルコトヲ得但シ各自學級ノ級長ヲ通ズルモノトス

第二十八條　本部ニ於ケル審判ニ對シテ尙審議ヲ希望スル者ハ學級主任ヲ通ジ自治會長ニ申シ出ヅルコトヲ得

第二十九條　本部ニ於ケル役員、名稱、任務、人員ヲ次ノ如ク定ム

1、審判部々長　一名　審判部員ヲ統轄シ要レバ審判部委員會ニ臨席シ其ノ決議ニ對シ適否ヲ判定シ承認シタル事項ハ會長ノ決裁ヲ仰グ

2、審判部委員　六名（五年　四名／四年　二名）

（イ）審判部委員ハ互選ニヨリテ首席委員ヲ定メ部長ニ報告シ必要ニ應ジテ委員會ヲ開キ原因、證據等ヲ充分調査、審議シタル後判定ヲ下シ又ハ訓誡ヲ與ヘルモノトス。必要ニ應ジテ部長ニ報告シ承認ヲ得テ會長ノ決裁ヲ仰グ

（ロ）要スレバ證據人ヲ擧ゲテ調査シ、或ハ實地見分ヲナシ、或ハ學級主任、學級自治會員、級長等ノ臨席ヲ請ヒ嚴正公平ヲ期スベキモノトス

第三十條　委員ハ美事善行ノ褒賞ヲ以テ主トシ、非違ノ處罰訓誡ヲ從トス故善行者ヲ認メタル時ハ之ガ表彰手續ヲトルニ躊躇セザルベシ。

第卅一條　委員ハ必要ナル記錄ヲ作製ス、其ノ細部ニ關シテハ部長之ヲ定ム

第六章　役員ノ任期及ビ選出法

第卅二條　役員ノ任期ヲ次ノ如ク定ム

部長及ビ副部長　一年（但シ重任ヲ妨ゲズ）

全校自治會計畫部委員　二ケ月

全校自治會實行部委員　一週間（毎土曜放課後交代ス）

學級自治會實行部委員　（室內係ハ日々交代ス）

校外自治會實行部委員　一年（但シ重任ヲ妨ゲズ）

審判部委員　一學期（但シ重任ヲ妨ゲズ）

第卅三條　役員ノ選出法ヲ次ノ如ク定ム

計畫部委員　各學級ヨリ互選ス

實行部委員　級長指名ス

但シ校外自治會實行部委員ハ各組ヨリ互選ス

審判部委員　四五年各級ヨリ互選ス

但シ部長臨席ノ下ニ記名投票ヲ以テス

但シ會長ニ報告シ其ノ承認ヲ得ルモノトス

第卅四條　各部ノ役員ハ已ムヲ得ザル事情ニヨリ其職ニ堪ヘザル時ハ其部長ニ對シ理由ヲ具シ辭職書ヲ提出シ其承認ヲ得ベキモノトス

附則

一、自治會實行部委員ハ右腕ニ腕章ヲ附ス

二、本改正規約ハ昭和四年四月八日ヨリ實施ス

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、及び感化院と共に成田山新勝寺の施設せる社會奉仕五事業の一に屬す。

（一）英漢義塾時代　明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎し、有志石川甚兵衛（先代）諸岡勝太郎（先代）其他の諸氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして、修業年限を三ケ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することゝせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむること貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和氏は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に禀請す。乃ち千葉縣知事安部浩氏の實地視察となり。遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ケ月。此間塾長の交迭は宮村三多以下濱田義雄、福田亀太郎、和田玉一の四氏に及べり。當時塾舍は成田町字東谷なる現圖書館の位置にありき。

（二）現中學校時代　明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舍の新築土工を起し、淺井造、宮田半左衛門（先代）、諸岡市郎左衛門（先代）、飯倉郁太郎諸氏及び評議員三橋金太郎氏建築委員となり。多大の努力の下に三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徴兵猶豫の特典を附與せられ。又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらるゝあり。遂に六月二十七日をトして落成式を擧行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、二十七回卒業生を送り。其數八百十四名に及べり此間文部次官奥田義人、商工局長木內重四郎、板垣退助伯文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原巳一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會奉仕の努力に深甚の同情且つは贊辭を寄せらる。回顧すれば二十一年英漢義塾創立以來年を閱すること實に四十一其中學と改稱せしより、三十一ケ年に及べり。

英漢義塾第一回の卒業なる三橋金太郎氏が本校創立以前より今尙ほ引續き評議員、理事として勤務せらるゝは多とすべし。石川甚兵衛氏亦本校理事として常に本校の爲めに盡瘁せらる今次の校舍增築校庭擴張の爲めには兩氏の盡力に負ふこと多大なり。校長及び教務主任の去就に左の如き記錄を有す。

喜田　貞吉　明治三十一年十一月校長就任

竹內 補三 明治三十二年八月喜田氏に代はる
校主 石川 照勤 明治三十四年七月竹內氏辭任に付校長兼任
粟根 鐵藏 明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる
白鳥 庫吉 明治四十一年九月本校顧問を囑托す
葛原 運次郎 明治四十一年九月粟根氏に代り校務主監として就任
佐竹 元二 大正二年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる
佐藤 禮云 大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる
濱田 丑之助 大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる
名川 彥作 大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる
笹川 種郎 大正十三年二月校長に任ぜらる
小林 力彌 大正十四年三月校長に任ぜらる
增田 榮 昭和三年五月小林氏に代りて校長に任ぜらる

◎學　歷

四　月

八日 第一學期開始、始業式、午前八時始業、
九日 入學式
下旬 身體檢査
廿九日 天長節

五　月

中旬 修學旅行
二十日 夏服着用、服裝檢査

七　月

上旬 第一學期考査事務終了
中旬 第一學期終業式
廿一日 夏季休業始

八　月

卅一日 第一學期終、武道暑中稽古

九　月

一日 第二學期開始、始業式

十　月

一日 冬服着用、服裝檢査
七日 創立記念日

十一月

三日 明治節
上旬 遠足
中旬 發火演習

十二月

中旬 第二學期考査事務終了
下旬 第二學期終業式
廿五日 大正天皇祭
廿六日 冬季休業始
卅一日 第二學期終

一　月

一日 第三學期開始、新年拜賀式
七日 冬季休業終
八日 第三學期始業式
中旬 五年級生徒志望調査
自中旬至下旬 武道寒稽古
下旬 次學年教科書選定

二　月

十一日 紀元節
下旬 五年級卒業考査

三　月

上旬 第五年級卒業式、第四年級以下考査事務終了
中旬 第四年級以下終業式
下旬 入學考査、入學考査合格者發表
卅一日 第三學期終

× × × × × ×

◎成田中學校々則

第一章 總　則

第一條 本校は男子に須要なる高等普通教育をなすを以て目的とし特に國民道德の養成に力む

第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

第三條 一學年を分ちて三學期とす左の如し
第一學期 四月一日より八月三十一日に至る
第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る
第三學期 一月一日より三月三十一日に至る

第四條 休業日左の如し
各日曜日、開校記念日（毎年十月七日）大祭日、祝日、夏季休業（七月二十一日より八月卅一日に至る）冬季休業（十二月二十五日より一月七日に至る）

第二章 學科課程及授業時間

第一條 各學科の配當並に毎週時間數は別紙に依る

學科課程每週教授時數表

學科目＼學年	第一學年 時數	第一學年	第二學年 時數	第二學年	第三學年 時數	第三學年	第四學年 時數	第四學年	第五學年 時數	第五學年
修身	一	生徒心得、教育ニ關スル勅語、作法	一	道德の要領、作法	一	同上	一	戊申詔書、道德ノ要領、我國道德ノ特質、作法	一	同上
國語及漢文	八	國語講讀、漢文講讀、作文、習字	九	同上	六	國語講讀、漢文講讀、作文、文法、習字	五	國語講讀、漢文講讀、作文、文法	五	國語講讀、漢文講讀、作文
外國語	七	發音綴字讀方及譯解、話方及作文書取習字	七	讀方及譯解、話方及作文書取、習字	七	讀方及譯解、話方及作文書取、文法	六	同上	六	讀方及譯解、話方及作文、書取
歷史 地理	三	日本歷史 日本地理	三	日本歷史 滿洲地理 世界地理	三	外國歷史 世界地理	三	同上	三	日本歷史、外國歷史、自然地理概說 人文地理概說
數學	四	算術	四	代數	五	代數、幾何	五	同上	五	代數、幾何 三角法
博物	二	植物、動物	二	同上	二	動物 生理及衛生	二	鑛物、博物通論		
物理及化學					二	物理、化學	四	同上	四	同上
法制及經濟									二	法制、經濟
圖畫	一	自在畫 用器畫	一	同上	一	同上	一	同上	一	用器畫
唱歌										
體操	五	體操（教練及遊戲、擊劍及柔術）	五	同上	五	同上	五	同上	五	同上
計	三二		三二		三二		三二		三二	

第三章　考査

第一條　考査を分ちて學期考査學年考査の二種とす

第二條　學期考査は其學期間に授業せし科目に付之れを行ふ

第三條　學年考査は學年の終に於て該學年間に授業せし全學科に付之れを行ふものとす

第四條　各學年の課程の修了又は全學年の卒業は平素の學業成績を考査して之れを定む

第九條　各教員は其の受持學科に就き平素の學業成績を考査す

第四章　入學及退學

第一條　生徒の入學は毎學年の始とす但缺員あるときは學期の始めに於て募集することあるべし

第二條　本校第一年級に入學を許すべきものは尋常小學校第六學年卒業のものは其卒業證により其他の志願者は入學檢定に合格せるものを取る但尋常小學校第六學年卒業の者と雖も志願者の數募集人員に超過するときは入學考査を執行すべし

第三條　尋常小學校第六學年を卒業せざるものゝ第一年級の入學檢定は國語算術國史地理理科に就き尋常小學校卒業程度に依りて之を行ふ

第四條　第二年級以上に入學を許可すべきものは相當年齡に達し其學級に相當する學力檢定に合格したるものに限る

第九條　他の中學校より轉學せんと欲する者ある時は缺員ある場合に限り入學を許可することあるべし但前學校と學科の配當に差異あるときは其學科に限り檢定を行ひ前學校と同年級或は一級下に編入す

第六條　凡て本校に入學せんと欲するものは體格檢査を施し合格せざるものは入學を許可せず

第七條　入學志願者は左の書式に依り入學願書に履歷書を差出すべし但尋常小學校六學年以上の課程を了へたる入學志願者は更に修業證書又は卒業證書を添へ該書なき者は校長又は首席訓導の證明書を添ふべし

第八條　入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍抄本を差出すべし

第九條　保證人は父兄親戚又は後見人中丁年以上の男子にして一家計を立つる者に限る

第十條　保證人は豫め本校長の承諾を得たるものたるべし

在學證書（用紙半紙二ツ折）

參錢
收入
印紙

印

保證人の印

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令

等堅く遵奉可仕候也

住所　　族籍

誰子弟　　姓　　名　印

生年月日

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

年　月　日　住所　族籍職業

保證人　姓　　名　印

成田中學校長　何　某　殿

右保證人は丁年以上の男子にして本町(村)内に於て一家計を立つる者に相違無之候也

年　月　日　何府何縣何郡何市何町村長

何　某　印

第十一條　保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十二條　左の場合に於ては退學を命ず

(一)　性行不良にして改善の見込なしと認めたる者

(二)　學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者

(三)　引續き一箇年以上缺席したる者

(四)　正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者

(五)　授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの

(六)　疾病事故に因り學業を履修する能はざるものと認むるもの

(七)　出席常ならざるもの

第十三條　中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第五章　授業料

第一條　授業料は一ヶ月金參圓五拾錢とす

第二條　生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず

第三條　授業料納附期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは納入濟まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ

第四條　入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得たるときは更に入學金壹圓を納むべし

第五條　左の各項に該當するものは授業料を減免す

一學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの

一戰時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟

一貧困にして資力なく學力品行中等以上なるもの但此第三の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六章　賞　罸

第一條　品行方正學術優等の者には一學年間の授業料を免除し又は賞品賞狀を授與することあるべし

第二條　規則命令に違反し又は風紀を害するものは戒飭、留置、停學、放校の罸に處す

第三條　學校の建物器具器械標本等を毀損又は亡失したるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第七章　寄宿舍

第一條　寄宿舍は本校生徒にして父兄及保證人の住宅より通學し能はざるものをして寄宿せしむる所とす但場合により下宿を命ずることあるべし

第二條　寄宿生は食費及舍費を每月五日以内に納むべし若し故なくして期間内に納めざる者は退舍を命じ未納の費額は保證人より追徵す

但食費の外電燈料の實費を徵集す

第三條　入舍の許可を得たるものは左の保證書を差出すべし

保　證　書　(用紙半紙二ツ折)

參錢
收入
印紙

御校何年生某儀今般寄宿舍へ入舍致し候上は本人入舍中金員物品の辨償は勿論本人身上に關する一切の事件負擔可仕候仍て保證如件

年　月　日　住所番地族籍

保證人　姓　　名　印

成田中學校長　何誰殿

第四條　保證人に異動あるときは直ちに屆出相當の手續をなすべし

第五條　退舍せんと欲するものは事由を記し保證人連署の上願書を差出し許可を受くべし

第八章　服　制

第一條　生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし

第二條　制服の地質は黑羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條　制服はジャケツト製ホツク止めにして地質は紺色又は黑色の小倉織を用ふべし

但し夏服は小倉の霜降とす

第四條　制服を未だ調製せざるもの若くは汚損したるものは許可を得て代用服を着用すべし

第五條　代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第六條　制服又は代用服を着用するにあらざれば教場に入るを許さず但新入學生に限り指定の期間中制服調製の間は代用服を許す

◎職員

受持學科	職名		氏名	族籍	就職年月
	校主兼名譽校長	文學博士	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
	顧問	文學博士	白鳥庫吉	千葉縣	明治四十一年九月
修身	校長兼教諭	從七位	增田榮	靜岡縣	昭和三年五月
數學	教諭		下瀬幸男	山口縣	昭和三年四月
物理化學	教諭		瀧澤榮亮	千葉縣	大正十一年二月
英語	教諭	文學士	中山議秀	福島縣	大正十五年四月
英語	教諭	文學士	帆足圖南次	大分縣	昭和四年四月
博物 地理	教諭	理學士	辻和三郎	埼玉縣	昭和四年四月
歴史	教諭	文學士	西村芳雄	佐賀縣	昭和三年四月
英語 經濟簿記	教諭	經濟學士	佐野五郎	山梨縣	昭和三年六月
國語漢文 習字	教諭	文學士	清水愛邦	山梨縣	昭和四年五月
地理 法制、國語 數學	教諭	正八位	寺内保	千葉縣	大正十四年四月
商業 國語	教諭	經濟學士	平松弘	靜岡縣	昭和三年九月
國語 漢文	教諭		三門健一	千葉縣	大正十五年四月
圖畫、唱歌	教諭		片山辰雄	長崎縣	昭和四年四月
英習字	教諭心得		石井義一	千葉縣	大正十一年四月
體操 教練	教諭心得	勳八等	細矢末吉	千葉縣	昭和三年四月
英語	教授囑託	正六位勳六等	西原鹿之助	靜岡縣	昭和四年四月
數學	教授囑託	正八位	相田喜之助	埼玉縣	昭和三年九月
漢文	教授囑託		大石雅次郎	福岡縣	昭和三年九月
柔道	教諭心得兼書記		榎田正己	千葉縣	大正七年一月
劍道	教諭心得兼書記	勳八等	南井榮助	千葉縣	明治三十四年四月
教練	配屬將校	正七位勳六等 歩兵大尉	新鄉榮次	佐賀縣	昭和四年三月
	校醫		高川直三郎	千葉縣	明治三十三年十月
理化	助手		福田廣	千葉縣	昭和二年九月

◎生徒表（昭和四年四月現在）（○印特待生 △印正副級長）（級長以下身長順）

第五學年A組（三十名）　主任　西村芳雄

△加藤進　印旛豐住	椎名勤　香取本大須賀	椎野齋　稻敷高田
勝又康　印旛成田	福田茂　稻敷金江津	大木市正　印旛中郷
飯田四郎三郎　香取滑河	小野幸　印旛成田	手島正爾　山武千代田
秋山健夫　印旛遠山	田中昇　仝成田	光木龜太郎　神奈川川崎
加勢和　愛媛宇和島	相田秀夫　埼玉南埼玉	山田武夫　印旛豐住
石橋武四郎　印旛成田	丸健　印旛公津	成瀬和　仝成田
藤崎健造　仝遠山	相川長　香取高岡	伊藤正治　仝中郷
岩澤善一郎　仝中郷	佐藤寅吉　山武緑海	山田正元　仝八生
諸岡武　仝成田	山岸林三郎　印旛木下	出山誠一　仝豐住
齋藤一郎　東京下谷	森田敏雄　仝八生	△秋葉忠　香取多古

第五學年B組（二十二名）　主任　西原鹿之助

△大島良一　印旛八生
中山芳久　千葉寒川
堀井信義　香取小御門
根本寛　印旛久住
石橋芳郎　稻敷金江津
武藤時哉　印旛永治
石原登　仝公津
鬼澤幸治　仝成田
三橋廣　仝富里
豊田利郎　仝成田
佐瀨卓　仝八生
大木忠七　仝中郷
根本正治　仝豊住
內海秋夫　仝八生
大木七繼　仝中郷
岩館正美　仝中郷
篠原重明　印旛富里
宮內榮正　匝瑳豊畑
山田勇　印旛八生
稻垣正則　仝成田
中路敬一　仝成田
△高橋孝　仝公津

第四學年A組（三十九名）　主任　中山議秀

△秋山光雄　印旛中郷
日暮充雄　仝本埜
松田保　稻敷長竿
久古一　印旛豊住
山田文太郎　仝成田
成毛敏夫　香取高岡
山田壹　印旛八生
藤倉靜雄　仝成田
藤崎忠一　仝安食
小川源衞　仝公津
島田正長　長崎北松浦
土肥輝雄　印旛公津
神崎純一　印旛成田
石原斌　仝富里
土井茂材　仝六合
荻原貢　仝成田
鹽田重雄　仝布鎌
石井秀雄　仝布鎌
杉田清　匝瑳八日市場
荒木武雄　印旛安食
瀧澤清　仝成田
小川信夫　仝八生
丸寛二　仝公津
島田照功　東京本所
三好義政　印旛公津
木村厚喜　仝本埜
椎名茂雄　香取小御門
山口一　香取多古
川崎英利　印旛公津
秋葉直次　香取中村
清水文康　山梨安都那
岡野小市　印旛安食
青野七衞　稻敷金江津
竹村安史　印旛富里
藤崎肇　仝遠山
鵜澤虎雄　仝中郷

加瀬允雄　香取多古
多田政司　印旛中郷
淸宮信之助　印旛八生

第四學年B組（二十六名）　主任　片山辰雄

△澤田良修　印旛久住
瀧崎和　仝遠山
三橋信　仝成田
小川實　仝公津
村島久四　仝公津
池田五郎　仝遠山
竹尾潮　仝八生
小川源之助　仝公津
山出衞　香取東大須賀
高塚藤利　印旛布鎌
小川三郎　仝公津
佐藤棟太郎　香取多古
三枝清亮　印旛成田
小林清　仝布鎌
根本正夫　仝豐住
武田敏夫　仝公津
齋藤秋次郎　仝布鎌
岩井正夫　仝大森
石原繁三　印旛成田
鈴木慶三　仝成田
田谷秀夫　仝成田
鈴木映亮　仝中郷
伊藤幸一　仝富里
石原文雄　仝富里
石川英一　仝遠山
△飯田實　香取滑川

第三學年A組（三十六名）　主任　辻和三郎

△長谷川秀吉　印旛成田
田中敏三　長生東浪見
諸岡新吾　印旛成田
三橋清　仝富里
飯田作藏　仝安食
藤崎昌良　仝富里
小倉富太郎　仝成田
小川仁　仝富里
日暮靜　仝成田
石井富明　山武千代田
矢村文雄　印旛公津
小倉祥男　仝久住
山崎昌平　仝公津
鹽田林太郎　仝布鎌
小泉伊之助　仝久住
加藤昌美　仝中郷
郡司佐兵衞　香取多古
南武　印旛富里
小出茂雄　仝根郷
武田武男　仝八生
戸塚元二郎　東京麹町
坂田精一　印旛富里
長谷川正道　仝久住
古矢秀男　仝成田
秋山正夫　仝成田
駒林清一　仝成田
岩澤三男　山武千代田
松田正夫　香取高岡
岩館正二　印旛遠山
鈴木福雄　仝中郷

萩原儀助 山武千代田
原正計 印旛富里
國木明 印旛富里
石井芳雄 仝公津
鈴木正二 印旛豐住
△土井義邦 仝成田

第三學年B組（三十七名） 主任 帆足圖南次

△湯淺重雄 印旛八生
野々宮茂穀 仝成田
吉祥正平 仝成田
石井茂雄 仝遠山
菅澤忠男 仝遠山
大久保喜八郎 仝布鎌
萩原孝 香取東條
伊藤彰 印旛富里
加藤傳 仝中郷
小倉八郎 仝成田
內田啓次郎 仝富里
三池豐 仝成田
藤田知義 京都笹取
田中照完 印旛志津
篠原文太郎 仝中郷
稻葉宗雄 仝布鎌
小川茂 仝成田
川崎三彌 仝公津
武田健 仝八生
櫻井芳雄 香取小御門
長谷川勝司 印旛成田
石井文雄 山武千代田
長谷川能通 印旛成田
後藤敬司 仝八生
岩館衛 仝中郷
林田實 仝富里
林光夫 印旛成田
大木勝 仝中郷
金子仁 仝中郷
寺內三郎 仝中郷
大久保廣 仝本埜
蕨愛 仝公津
高木善明 仝公津
鈴木正雄 仝公津
小川正雄 山武千代田
藤本健男 德島福原
△椎名利夫 印旛成田

第二學年A組（四十名） 主任 寺內保

△谷民藏 印旛公津
墊田俊夫 仝布鎌
石井一良 山武千代田
菅沼仁兵衛 印旛富里
日暮正市 仝安食
篠原精一 印旛富里
佐久間榮一 仝成田
一杉雅德 仝遠山
石井齋 仝富里
五十嵐貫治 香取多古
林田英雄 印旛富里
根本正夫 仝公津
蕨八郎右衛門 仝公津
富澤昊 山武二川
三橋五郎 印旛富里

三橋茂 印旛成田
石井勝衛 仝富里
石井實 仝公津
加藤健 仝成田
伊藤衛 山武二川
山本喜一 印旛安食
小泉啓二 仝久住
鈴木一 仝成田
瀧澤新介 仝成田
山下太輔 山武二川
木內武之助 印旛成田
山口宏明 仝遠山
川口源次郎 仝成田
石橋一太郎 仝安食
加藤弘 印旛成田
木川肇 山武二川
遠藤武男 印旛公津
成毛新吾 香取滑川
岩澤七郎 山武二川
神崎讓二 印旛成田
吉岡新三 仝富里
島照夫 東京本所
根本茂 印旛久住
石井秀夫 仝六合
△谷ヶ崎滿 仝成田

第貳學年B組 主任 佐野五一郎

△萩原轍郎 印旛豐住
吉岡巖 仝豐住
青柳安正 香取滑河
伊藤市郎 印旛成田
林五三郎 山武成東
石川一成 稻敷金江津
荒木武雄 山武綠海
檜垣三省 印旛久住
幡谷千尋 仝八生
潮田修一 仝成田
佐瀨德之助 仝八街
日暮茂 仝中郷
藤田勇 印旛豐住
諏訪原達衛 仝八生
大澤襄 仝八生
豐田正三 仝成田
青野延良 稻敷金江津
篠原正三 印旛中郷
大口政次 東京南葛飾
佐久間三郎 稻敷金江津
成毛利幾雄 印旛中郷
鈴木操 仝富里
小川武夫 仝中郷
加藤信之 仝中郷
小川健司 印旛中郷
池田豐己 仝富里
一鍬田芳郎 仝中郷
土井良輔 仝成田
大見川好之 仝中郷
鈴木覺祐 仝中郷
塚谷正能夫 仝成田
小川良夫 山武千代田
小川吉一 印旛遠山
澤田演男 仝中郷
宮內實 仝八生
△諏訪泰司 山武千代田

吉岡茂　印旛　成田
加瀬包男　香取　多古

第壹學年A組

△谷ヶ崎龍二　印旛　成田
石井俊次　仝　豊住
山崎恒二　千葉　睦
横田竹二郎　印旛　久住
諸岡小三郎　香取　本大須賀
野嶋武夫　印旛　豊住
行方正己　山武　二川
片山茂　印旛　成田
香取茂　仝　久住
小關義信　仝　富里
田中郭介　海上　銚子
藤崎春男　印旛　安食
宍倉精一　仝　久住
松岡顯　仝　遠山

第壹學年B組

△小林市郎　印旛　遠山
横尾優　仝　富里
根本至平　仝　豊住
岩澤初之輔　仝　遠山

石井鵬郎　印旛　八生

主任

荻原英男　印旛　豊住
安達三郎　仝　遠山
橋本謙受　香取　高岡
湯淺忠　印旛　八生
青木幸太郎　仝　安食
山田喜輝　仝　八生
山田義一郎　印旛　安食
成毛鐵二　仝　安食
高川幸夫　仝　成田
貝原塚十　仝　八生
工藤武　仝　中郷
小倉一三　仝　成田
武田智信　仝　公津
石井勝正　仝　酒々井

主任

山田豊　印旛　成田
伊藤正三　仝　豊住
海保活郎　仝　久住
山田武男　仝　富里

△河合定次　印旛　中郷

三門健一

竹木信夫　印旛　安食
藤崎義男　仝　遠山
出山良　仝　公津
宮本高雄　仝　富里
小林重一郎　仝　本埜
矢萩正司　仝　安食
生駒重雄　山武　二川
河合成訓　印旛　成田
澤田吉藏　仝　中郷
五木田紀一郎　茨城　結城
矢野豊三郎　東京　京橋
△江森巳之助　印旛　成田

平松弘

藤崎三郎　印旛　遠山
湯淺欣一　仝　安食
丸修三　仝　公津
寺嶋誠一　仝　八生

平山辰夫　山武　千代田
加藤晴己　印旛　中郷
加藤芳　仝　八生
石橋豊二　仝　成田
新橋隆雄　仝　成田
根本寛　香取　滑河
糸賀二郎　稲敷　金江津
村島守正　印旛　公津
澤田榮稔　印旛　中郷
桑原喜久治　仝　富里

石橋八郎　印旛　公津
後藤逵　仝　八生
伊豆藏増則　東京　平塚
野平靖　香取　八都
村山孝助　印旛　公津
久保庭俊男　仝　成田
淺井武男　仝　成田
成瀬仁　仝　成田
加藤巖　仝　中郷
柏木博　仝　遠山

荻原友三郎　香取　多古
山口章　印旛　八生
加藤孫策　仝　八生
小高辰夫　仝　富里
伊藤善治　仝　富里
渡邊勝正　茨城　北相馬
荻原操　山武　千代田
△櫻井貞一　香取　佐原

◎成田英漢義塾卒業生人名（×死亡）

第一回卒業生（明治二十三年三月）
法學士　北田彦三郎
三橋金太郎
高安元三郎

第二回卒業生（明治二十五年三月）
×山田兵治
吉川松太郎

第三回卒業生（明治二十六年三月）
法學士　石井佐次馬
宍倉高次郎
山田市太郎
石川英之助
岡本幸造
山田要之助

第四回卒業生（明治二十七年三月）
砲兵大佐　林政次郎
大野市太郎
湯淺眞二郎
藤崎仁三郎

第五回卒業生（明治二十八年三月）
伊藤幸次郎
林田恒藏
篠崎幸吉
惠口忠治

第六回卒業生（明治二十九年三月）
山崎傳七
根本太一
高梨盛太郎
×石川昌三
太田家績
山本喜助
多田寧
×藤崎欽哉
森寛一
篠原友之助
×林田政吉

第七回卒業生（明治三十年三月）
赤谷由助
木内民雄
米津重次郎
湯淺暉
石渡恒
林田恒三郎

第八回卒業生（明治三十一年三月）
×郡司喜太郎
並木弘
（山本改）河津金四郎
岡本保
醫師　山野制
×堀井富五郎

第九回卒業生（明治三十二年三月）
石井喜一
長谷川慶
小野寺弘
×木内啓司
玉造泰助
細田孝司

選科履修生（明治三十一年三月）
原久藏
山口要太郎
戸村喜助
香取友吉

選科履修生（明治三十二年三月）
唯謹吾

◎中學校卒業生人名及現況表（×死亡）

第一回卒業生（六名）（明治三十五年三月）

千葉縣立安房中學校長　文學士	小野寺精一郎	印旛成田
朝鮮總督府遞信局工務課長　工學士	飯倉文甫	仝　成田
	×三橋信吉	仝　成田
	×竹尾丑之助	仝　八生
弘前中學校教諭	秋山篤英	仝　富里
日本石油會社東京本社（早大商科卒業）	黒田政吉	印旛成田

第二回卒業生（八名）（明治三十六年三月）

	×京須幸	印旛成田
日本興業會社社員（早大卒業）	神崎義俱	印旛遠山
日本大學商工學校長	（藤崎改）加納金助	仝　遠山
山口縣技師（水産講習所卒業）	高橋照文	山武南郷

東京時事新報社社員(歩兵中尉)	小川克己	印旛八生
實業	吉岡猛	仝酒々井
渡米實業	加藤芳之助	香取大須賀
大成火災保險株式會社員(早大商科卒業)	黒川信	印旛成田

第三回卒業生(十八名)(明治三十七年三月)

	×渡邊政助	印旛成田
實業	小川源一郎	仝公津
	×額賀清右衛門	鹿島白島
海軍中佐艦政本部出仕技術本部員 大學校教官	飯倉貞造	印旛成田
官吏(慶大卒業)	寺内一夫	印旛成田
實業 歩兵中尉	後藤七郎	仝八生
	×瀧澤德治郎	仝成田
實業	遠藤與惣平	仝公津
實業(早大商科卒業)	木内茂助	仝成田
實業	小川利太郎	仝公津
	×藤倉精助	仝成田
大阪商船紅丸機關士	佐々木收治	千葉南喜多
慶大卒業	田中重衛	埼玉北足立
東海銀行本所支店長	加藤右二	印旛中郷
日章火災海上再保險株式會社員	神崎庄助	仝成田
渡米實業	那須文治	香取佐田
(田中改)	×山本煕順	印旛成田
實業	多田亨	仝公津

第四回卒業生(廿二名)(明治三十八年三月)

芝浦製作所技師(東京高工卒業)(加藤改)	伊藤昇	君津八重原
大日本農會在勤 農學士	荻原義重	山武千代田
大日本紡績株式會社在職 工學士	宮野源一郎	仝千代田
醫師(千葉醫專卒業)(椎名改)	野村竹男	茨城北相馬
金澤醫科大學教授 醫學博士	泉仙助	香取滑川
東京赤坂三聯隊歩兵少佐	秋山三省	印旛中郷
實業(伊藤改)	吉岡保	仝富里
(早大卒業)	大木榮次郎	仝中郷
	×坪井節爾	千葉千葉
實業	秋葉有一郎	山武千代田
醫師(千葉醫專卒業)	小幡久	石川金澤
小學校教師(鈴木改)	安藤胤治	山武千代田
千葉縣々會議員	鈴木亮	印旛公津
	×辻英吉	東京荏原
兵庫縣兵庫製繩株式會社員	高仲喜代松	印旛遠山
小學校教師	湯淺儀三郎	印旛八生
實業(早稲田大學卒業)	藤崎倭一	仝富里
	藤崎宗平	仝遠山

實業	小川明	印旛中郷
實業	黒川傳	仝成田
	×石原泰次郎	仝成田
實業(在朝鮮)	松本保	大分宇佐

第五回卒業生(廿二名)(明治三十九年三月)

	×小倉榮二郎	印旛成田
實業	長谷川治吉	仝成田
公吏(藤川改)	土肥多助	仝富里
東京高商卒業	三橋英治	仝成田
	×土屋圓	山武瑞穂
醫師(慈恵醫學士)(繁藏改)	佐藤重俊	安房由基
日本生命保險會社々醫(京都醫專卒業)	山野衿三	印旛成田
	×澤田信三	仝久住
樺太大泊高等女學校教諭(京都高等工藝卒業)	小野寺英二郎	仝成田
北海道藤田組加比宇牧場技師(東京農大卒業)	仁科一	靜岡靜岡
鐵道省新宿驛員(日本大學卒業)(小川改)	鈴木七郎	印旛八生
	×山野隆治	仝成田
實業	荻原長三	山武千代田
實業	丸良輔	印旛公津
南滿鐵道本社在勤	石原清泉	仝成田
實業(歩兵少尉)	作田紋平	山武鳴濱
東京瓦斯會社芝營業所(慶大卒業)	淺井信之	印旛成田
	×石橋堯之助	仝成田
第三銀行本店員(加藤改)	松本頼三	東京京橋
實業	古矢誠助	印旛成田
東京國府商店勤務	宮田七右衛門	仝八生
實業	清宮俊平	仝八生

第六回卒業生(廿二名)(明治四十年三月)

香川縣木田農學校長 農學士	大塚靜	印旛成田
北海道警察部長 法學士	石川芳太郎	仝安食
	×石井金次郎	仝安食
小御門農學校教諭(伊藤改)	櫻井重助	香取遠山
ハルビン駐在副領事	泉顯藏	茨城行方
小學校教師	黒川孝	印旛成田
小學校教師	石橋昇	仝豊住
小學校教師	石井孝司	仝豊住
實業(歩兵少尉)(石井改)	篠田憲次郎	仝八生
實業(小倉改)	葛生孝作	仝八生
	×川島芳夫	市原濕津
小學校教師	藤崎源一郎	印旛遠山

實　業　加藤光太郎　印旛成田
東京不動銀行在職（慶大卒業）　吉田　新　仝　成田
小學校教師　（廣瀬改）　勝田海治　印旛木下
小學校教師　（小川改）　大木義德　山武千代田
實　業　（成毛改）　鈴木啓次郎　印旛安食
實　業　丸　善助　仝　公津
小學校教師　（山口改）　鈴木忠治　仝　遠山
千葉縣農業技手　橋爪石民　茨城稻敷
實　業　長谷川利吉　印旛成田
官　吏　藤崎勇三郎　仝　遠山

第七回卒業生（廿二名）（明治四十一年三月）

（長谷川改）　×五木田康吉　印旛成田
×石井延太郎　仝　遠山
實　業　三橋治平　仝　富里
小學校教師　竹村克之　仝　富里
實　業（早大卒業）　×飯島貞雄　東京芝
實　業（工兵中尉）　土井彌一　印旛公津
藤崎犂　仝　遠山
×稻生恭平　仝　木下
東京鐵道郵便局員　三浦照芳　仝　佐倉
實　業（歩兵少尉）　丸　武夫　印旛公津
水產講習所技手　藤田正巳　仝　八生
×三橋達也　仝　富里
實　業　龍崎　源　仝　酒々井
東勝寺貫主（國學院大學卒業）　三好照嘉　山武千代田
×香取　實　仝　二川
×石橋　淸　印旛富里
北滿洲哈爾賓東省實業支店長（東京農大卒業）　飯倉汎三　仝　成田
下總御料牧場在勤　鈴木三郎　東京品川
×稻垣保治　印旛成田
僧　侶　三好照正　仝　酒々井
（榊原改）　×大島愼三　仝　成田
現代公論社（騎兵大尉）　（大島改）　織原三郎　仝　八生
×林　正四郎　仝　八生
齒科醫　篠原　昇　仝　富里
僧　侶（智山勸學院卒業）　高野照寶　仝　成田
實　業　木内喜右衛門　仝　成田
×松木修一　高知安藝
實　業　山田逸作　印旛八生
實　業　石原岩治　仝　成田

第八回卒業生（廿二名）（明治四十二年三月）

步兵第二十六聯隊附陸軍一等主計　蛭田玄美　印旛豊住
×金澤光雄　香取多古
×加藤　保　印旛八生
小學校教師　邊田金次郎　印旛滑川
×櫻井千太郎　仝　佐倉
東京復興事業局第四出張在勤　（小倉改）　藪崎久太郎　仝　中郷
實　業　土肥忠衛　仝　公津
公　吏　平山勘一　印旛遠山
實　業　（川崎改）　齋藤金吾　印旛公津
實　業　（新行寺改）　秋葉義之　山武二川
成田山新勝寺貫主（東洋大學文學士）　荒木照定　山武綠海
實　業　（野平改）　永瀬謙吉　印旛八生
實　業　鈴木五兵衛　仝　成田
芝鏡照院住職（東洋大學卒業）　志田照猛　東京京橋
小學校教師　秋葉　昇　印旛富里
小學校教師　（遠藤改）　村島隆治郎　仝　公津
小學校教師　（大助改）　藤崎大八　仝　富里
實　業　石橋茂夫　仝　久住
實　業　（本多改）　藤崎　靜　仝　遠山
明治大學卒業　×小川　潔　印旛八生
野平　與　仝　豊住
實　業　橋本修造　仝　公津

第九回卒業生（廿二名）（明治四十三年三月）

實　業　（加藤改）　×竹村　健　印旛中郷
實　業　（土肥改）　諏訪原克己　印旛公津
實　業（大阪高工卒業）　大塚篤三　仝　成田
日本製粉會社馬關支店（東京高商卒業）　（加藤改）　竹下淸吉　仝　成田
陸軍輜重兵大尉（目黑）　石井榮治　山武千代田
鐵道省青函連絡船乘組（東京商船卒業）　坂宮　浩　印旛八生
印西農學校教諭　加勢　胖　愛媛宇和島
東京市役所勤務　高橋毅一　印旛公津
實　業　椎名憲三　仝　久住
齒科醫（東京齒科醫專卒業）　（三橋改）　鈴木重五郎　仝　中郷
實業（松戸高等園藝學校卒業）　（中村改）　小川　保　仝　彌富
小學校教師　（和田改）　卯之木照文　仝　公津
小學校教師　平野淸司　市原高瀧
日光清瀧製錮所在職　廣瀬　保　印旛豊住
實　業　小倉茜四郎　仝　成田

小御門農學校敎諭（松戸高等園藝學校卒業）　小倉英次　印旛八生
實業　吉岡米吉　仝酒々井
齒科醫　宮島昇　仝成田
東京日々新聞社販賣部次長　下村保　仝八生
（渡邊改）×櫻井昇　仝成田
×黑川幹　仝成田
×澤邊保　仝八生

第十回卒業生（廿三名）（明治四十四年三月）

千葉井上病院（千葉醫專卒業）醫學博士　椎名泰三　印旛久住
法學士　石原貞三　仝成田
日本鋼管株式會社在勤（千葉醫專卒業）　山口清　仝八生
醫師（千葉醫專卒業）（平三郎改）　藤崎公道　仝遠山
海軍機關大尉（呂號潜水艦乘組）　藤田精一　仝八生
醫師（千葉醫專卒業）　織田貞　市原菊間
實業（丸改）　內田省吾　印旛公津
商船學校機關科卒業　小倉壯五郎　仝中郷
×林松之助　仝八生
大阪商船會社在職（商船學校機關科卒業）　鈴木雄一　山武山邊
×川島勝信　印旛富里
×三橋衞　仝成田
小學校敎師　額賀誠司　茨城白鳥
朝鮮銀行浦鹽支店在職（東洋協會專門學校朝鮮語科卒業）　小川清　山武二川
實業　河野毅一　長生東鄕
臺灣豐南大倉組合在職（阿部改）　吉武秀澄　印旛遠山
實業（石井改）　小出清　仝富里
×野平四郎次　仝豊住
東京市道路橋梁課在職（攻玉社工學校高等研究科卒業）（右馬之助改）　秋葉昌巳　仝富里
×額賀忠孝　茨城白鳥
小學校敎師　蛭田眞民　印旛豊住
實業（衞改）　吉岡七郎兵衞　仝中郷
東洋拓殖會社朝鮮大邱支店在職　小川新　仝成田

第十一回卒業生（卅二名）（明治四十五年三月）

內務事務官警保局在職　法學士　三橋孝一郎　印旛成田
齒科醫（日本齒科醫專卒業）（秋山改）　鈴木靜　仝中郷
成田學園主任（東洋大學文學士）（本宮改）　大友惟誠　宮城志田
實業（循一改）　梶谷光之助　印旛安食
大阪市技師　工學士（小野寺改）　瀧川俊雄　仝成田
實業（歩兵少尉）　渡邊和一　仝成田
醫師（新潟醫專卒業）　渡邊由松　仝成田

實業　河合清　印旛成田
×蕨曙　仝公津
（外國語學校支那語科卒業）　篠田保　茨城稻敷
僧侶　小山正義　仝東茨城
國際汽船株式會社ケープタウン號機關長　織田順　印旛成田
仙臺税務署監督局技師（大阪高等工業學校卒業）　小池嘉之　千葉東葛飾
×池田榮助　山武千代田
×染谷恒次郎　印旛成田
實業　石橋稔　香取滑川
實業　稻垣恒藏　印旛成田
實業　長谷川桂　印旛成田
東京信託所在職　新橋旭　仝豊住
×江副節藏　東京京橋
小學校敎師（須田改）　長谷川興仁　安房田原
東京瓦斯會社社員　河野和起　長生東鄕
×日暮太一郎　印旛中郷
實業　岩館昌美　香取滑川
日本畜產株式會社岩瀬牧場在職　山崎秋平　印旛飯高
×綿貫新作　仝酒々井
×大塚七郎　仝成田
×青柳公　仝公津
實業　山田章吾　印旛安食
東京赤坂區役所在勤（中村改）　萩原廣　仝宗像
僧侶　栗原照宣　東京八王子
實業　鈴木廣雄　東京品川

第十二回卒業生（廿八名）（大正二年三月）

實業　齋藤義秀　印旛遠山
天龍川電燈會社（商船學校航海科卒業）（加藤改）　澤崎英一郎　仝成田
日興證券株式會社在職（法學士）　石井鼎　仝遠山
實業　鈴木佐太郎　仝富里
實業　小川浩平　山武千代田
小學校敎師　內田毅　茨城行方
成田中學校敎諭（大阪高工卒業）　瀧澤榮亮　印旛成田
×東美義照　東京淺草
實業　鈴木明　印旛富里
×辻愛吉　仝遠山
實業　內海嘉男　仝八生
小學校敎師（塚本改）　葛生清三郎　香取滑川
實業　三橋有方　印旛富里
×小椰秀吉　仝成田
日本棉花株式會社外國課在勤（東京外國語學校英語科卒業）　岩澤忠二　山武二川

實　業　塚本憲一郎　香取滑河
僧　侶（智山大學卒業）　青木榮俊　匝瑳八日市場
早稻田大學專門部在學　新橋榮　印旛豊住
實　業（並木改）　櫻井和　印旛富里
實　業　池田一介　東京日本橋
小學校教師　大木喜三郎　匝瑳野田
小學校教師　竹村和　印旛富里
實　業　飯塚英夫　香取多古
北海道大學病院　醫學博士　淺岡惠太郎　印旛成田
實　業　鈴木高治　仝　公津
實　業　菅澤忠爲　仝　遠山
實　業　三橋仙次　印旛富里
實　業　戸村正夫　印旛川上

第十三回卒業生（廿七名）（大正三年三月）

鹽水港製糖株式會社在職（東京高商卒業）　早川重雄　印旛成田
實　業（東京帝大農科卒業）　藤崎源之助　印旛富里
警視廳保安部建築課內（蛭田改）　平松白民　仝　豊住
實　業（歩兵少尉）　山田要　仝　八生
東京地方裁判所檢事　法學士　丸才司　仝　公津
實　業（東亞同文書院工科卒業）　清水長陽　高知高知

報知新聞社在職（東京外國語學校露語科卒業）　竹尾弌　印旛八生
實　業　山田進　仝　公津
僧　侶（智山大學卒業）（石崎改）　三枝照光　君津中郷
僧　侶（智山大學卒業）　福島照瑞　神奈川横須賀
千葉縣農事試驗場技師（東京帝大農科卒業）　日暮與一　印旛中郷
實　業　大木顯一郎　仝　中郷
朝鮮全羅南道光州原蠶種試驗所在職（上田蠶糸專門學校卒業）　藤崎鑽　仝　遠山
商科醫（東京商科醫專卒業）　稻川義雄　愛媛松山
東京不動銀行在職（早大商科卒業）　長竹彥次郎　印旛成田
實　業　大木健　仝　成田
實　業　椿利一　香取滑川
鐵道省東部經理局在職　出山博　印旛成田
實　業　貝原塚豊　仝　八生
實　業　瀧澤誠　仝　成田
多古町星華學校教化主任　瓜生勘之亟　香取多古
廣島蠶業試驗所在職（上田蠶糸專門學校卒業）　佐瀬旭　印旛八生
商科醫　田島俊一　埼玉北足立
大阪天王寺師範學校教諭（箕倫平三改）　平澤道雄　茨城鹿島
小學校教師　椎名勝美　印旛富里
實　業　多田喜平　仝　公津

實　業（宮內改）　清宮忠雄　印旛八生
實　業　石井順　仝　成田

第十四回卒業生（卅二名）（大正四年三月）

海軍經理學校高等科學生（海軍主計大尉）　岡部美磨　印旛遠山
宇都宮工業學校教諭　工學士　三橋藤太郎　仝　成田
千葉醫科大學生理學教室在職（千葉醫專卒業）　木川浩逸　香取東篠
東京商船株式會社在勤（拓殖大學卒業）　藤崎總三郎　印旛遠山
公　吏　小倉要　印旛成田
帝國電燈株式會社員　石井操　仝　遠山
商科醫（歩兵少尉）　戸村晋　山武千代田
實　業　大木嘉平　印旛中郷
小學校教師（齋藤改）　茂手木篤三郎　印旛遠山
僧　侶（智山大學卒業）　黑羽順敎　栃木那須
實　業　丸善一　印旛公津
小學校教師（吉岡改）　大須賀清光　仝　酒々井
實　業　荻原正雄　香取多古
東北帝大農科大學卒業　農學士　吉岡博　印旛中郷
東北帝國大學農學部畜産教室助手　農學士　加藤浩　印旛八生
實　業　藤崎源一郎　仝　遠山
小學校教師　所晃一　香取多古
小學校教師　石井與四郎　印旛成田

實　業　長谷川英一　印旛成田
實　業（石橋改）　加藤暢　仝　公津
東京富澤町川崎銀行支店在職（早大商科卒業）　齋藤健雄　仝　公津
內務省土木監督署河川工事務所　京須芳雄　仝　成田
八生農學校教諭（歩兵少尉）　高柳榮三郎　仝　豊住
實　業（歩兵少尉）　鈴木金候　山武二川
實　業（歩兵少尉）　岩井儀太郎　印旛富里
南滿洲鐵道株式會社京城管理局工務課　片野純三　岐阜大垣
實　業　鈴木秀之輔　印旛成田
小學校教師　柳澤吉藏　仝　成田
成田中學校教師兼書記　榎田正巳　印旛成田
慈惠病院助手（東京慈惠醫專卒業）　高安盈仁　印旛成田
小學校教師（麻布獸醫學校卒業）（大沼改）　藤波潔　印旛成田
僧　侶　若月義宏　安房西條

第十五回卒業生（卅五名）（大正五年三月）

×伊藤茂　香取飯高
醫　師（東北帝國大學醫學部卒業）（大木改）　醫學士　藤澤武雄　印旛成田
栗林商船株式會社在勤（小樽高商卒業）　板倉誠　長生茂原
小學校教師（石井改）　木村亮都　印旛遠山
佐倉中學校教諭（歩兵少尉）（東洋大學卒業）（大三川改）　小川團次　印旛安食

實業(歩兵少尉)　湯淺健一　印旛八生
醫師(日本醫專卒業)　戸村達郎　山武二川
佐原川崎第百銀行支店在職　藤崎穣　印旛遠山
醫師(千葉醫專卒業)　木多傳　印旛遠山
實業　內田信一　山武二川
商船學校機關科卒業　(渡邊改)　柏原富吉　印旛成田
富山房編輯部在職(國學院大學卒業)　石川富士雄　仝　成田
小學校教師　安達國一　埼玉大宮
實業　(小川改)　八角彌　山武千代田
實業　手島徹　仝千代田
小學校教師　大竹茂　香取滑川
古河電氣工業會社在職(外國語學校支那語科卒業)　瀧澤榮一　印旛成田
都留中學校教諭(早稲田大學卒業)　河野八郎　印旛八生
實業　秋葉一吉　山武蓮沼
醫學研究中(京都醫學專門學校卒業)　熊切儀一　夷隅古澤
千葉縣道路技手兼土木技手　片野春吉　岐阜大垣
實業　齋藤七司　印旛公津
×阿部良策　仝　豐住
小學校教師　(木內改)　伊藤功　仝　富里
醫師　山內誠　仝　成田

實業　伊藤保次　印旛成田
實業　(篠崎改)　紺谷旭　仝　遠山
實業　小川吉之助　仝　成田
實業　鈴木治郎　仝　公津
實業　池田喜一　仝　富里
實業　(鈴木改)　萩原賢治　仝　富里
官吏　宇賀近治　仝　白井
實業　岩井平男　仝　大社
實業　平山久一郎　仝　成田
實業　飯高多一郎　香取大須賀

第十六回卒業生(卅六名)　(大正六年三月)

千葉醫科大學附屬病院醫員(千葉醫專卒業)　秋山寅雄　香取多古
×堀田彌太郎　印旛久住
實業　(照保改)　諸岡市郎左エ門　仝　成田
東京蠶絲專門學校卒業　(仲改)　秋葉英世　仝　富里
實業　齋藤陽一　仝　成田
大日本赤十字社病院產婦人科醫局在職(新潟醫專卒業)　深山浩一　仝　旭
鐵道省東部經理局員　長竹達三　仝　成田
實業(歩兵大尉)　(能勢改)　鵜澤邦藏　千葉犢橋
明治生命保險株式會社在職(早稲田大學卒業)　神山雅一　印旛成田

日本電線株式會社在職(早稲田大學卒業)　竹尾剛　印旛八生
匝瑳中學校教諭(東京物理學校卒業)　內藤達夫　茨城稻敷
小學校教師　渡邊陸三　印旛成田
實業　池田義夫　仝　富里
實業　大島文吉　仝　八生
ジャパンメヂカルワールド社在職(拓殖大學卒業)　堀越誠　山武二川
×池田伊重郎　仝千代田
齒科醫(東京齒科醫專卒業)　(姉崎改)　永田令藏　山形新庄
小學校教師　石橋保　印旛富里
×小川斌　仝　公津
小學校教師　加藤久次郎　香取本大須賀
×大木康　印旛成田
三井鑛山株式會社東京本店勤務　(日暮改)　湯淺彥治　仝　成田
南滿鐵道株式會社在職(中央大學卒業)　檜垣達也　仝　久住
實業　本多義　仝　遠山
實業　土井平重　仝　公津
實業　靑柳忍　印旛公津
僧侶　長谷川祐元　安房西條
實業(歩兵少尉)　(多田改)　森田元二　印旛公津
小學校教師　根木東海男　仝　公津

小學校教師　篠田欣吾　印旛豐住
實業　石橋健二　仝　豐住
實業　土肥卓　仝　公津
早大政治科卒業　方波見仲男　茨城鹿島
實業　秋葉三省　市原市東
實業　(鈴木改)　櫻井斌敏　印旛公津
實業　櫻井一郎　香取小御門
實業　宇井龍雄　印旛成田

第十七回卒業生(卅五名)　(大正七年三月)

(宍倉改)×木內貫一　印旛久住
東京帝國大學工科在學(東京帝國大學理科卒業)　野平忠　仝　豐住
慶應義塾普通部教諭(慶應義塾大學卒業)　西谷謙堂　仝　豐住
×吉田善四郎　東京神田
櫻組製靴會社在職　飯塚忠　香取多古
慶應義塾大學卒業　中野圭讓　東京豐多摩
東京高等師範學校在學　山內卯之助　印旛成田
遞信省遞信技手　鈴木豐　仝　成田
醫師(千葉醫專卒業)　淸水東四郎　仝　成田
實業　鈴木德治　仝　成田
奈良縣畝傍中學校教諭　日色四郎　香取滑河
東神倉庫株式會社在職(慶應義塾大學卒業)　神戸隆太郎　印旛成田

實業(歩兵中尉)　(後藤改)　大野浩次　印旛安食

實業(早稲田大學商科卒業)　(豐田改)　小野寺謹悟　仝　成田

名古屋鐵道局運輸課在職　山田好助　仝　富里

千葉合同銀行在職(早稲田大學卒業)　石井勝男　仝　成田

小學校敎諭　(越川改)　松岡明　仝　遠山

實業　伊藤七右衛門　仝　久住

成田中學校敎諭(日本大學卒業)(砲兵少尉)　寺內保　仝　成田

×高橋嚴　仝　成田

早稲田大學商科卒業　田中藤治　香取小御門

實業(歩兵中尉)　小川總良　山武千代田

實業　古川廣　山武片貝

×土井規矩藏　印旛公津

耕地整理技手　長谷川藤市　仝　成田

實業　武士田胖　仝　成田

實業　寶川和男　山武千代田

實業　(藤崎改)　吉岡英亮　印旛遠山

南滿洲鐵道會社在職　安藤俊行　仝　久住

第一生命保險會社在職(農業大學卒業)　(林　改)　谷口一郎　印旛八生

×日暮輝雄　仝　豊住

實業　伊藤文亮　仝　遠山

實業　宮原三郎　印旛久住

實業　(藤崎改)　神崎忍　仝　遠山

實業　鈴木茂喜　仝　久住

第拾八回卒業生(卅七名)　(大正八年三月)

東京三菱銀行在職(慶應義塾大學卒業)　湯淺三吾　印旛八生

×湯淺武之助　仝　八生

臺灣守備隊司令部附二等獸醫　千脇晟　千葉更科

×篠原岩次郎　印旛成田

東京日々新聞外國課在職(東亞同文書院卒業)　石川順　仝　成田

實業　糸川平　仝　久住

川崎銀行丸ノ內支店在職　石橋正也　仝　成田

實業　葛生幸吉　仝　安食

野田醬油株式會社勤務(慶應義塾大學卒業)　藤崎信助　仝　富里

×根本新一　茨城稻敷

洋行中(明治學院卒業)　林正雄　印旛成田

大阪日本生命保險株式會社會計課在職　(澤田改)　平井武　仝　中郷

小學校敎師　(小川改)　長坂了介　山武千代田

(國學院大學卒業)　(廣瀬改)　鈴木光亮　印旛豊住

×香取舜治　山武二川

實業　石橋孝三郎　印旛成田

桐生高等工業學校卒業　丸善衛　印旛公津

實業　福田直四郎　東京本郷

實業　(藤崎改)　飯泉隆二郎　印旛遠山

成田高等女學校敎諭　(日暮改)　山內貞　仝　中郷

實業　(池田改)　山田春之助　仝　富里

千葉高等女學校敎諭　伊藤公平　仝　八生

小學校敎師　椎名操　香取本須賀

東京鐵道局國府津保線事務所在職　小川太郎　印旛八生

千葉九十八銀行在職　大三川弘之　香取多古

鐵道省東部管理局在職　瀧澤德治　印旛成田

接骨醫　小倉仁　仝　成田

小學校敎師　猪瀬堯澄　仝　布鎌

小學校敎師　武藤行敬　仝　永治

實業　山崎信男　香取高岡

實業　檜垣省吾　印旛久住

實業　四宮操　仝　富里

實業　吉川嚴　仝　中郷

實業　神崎俊之助　仝　遠山

實業　相原理三郎　仝　公津

實業　石橋進　印旛富里

實業(歩兵少尉)　伊藤源右　仝　中郷

第十九回卒業生(卅四名)　(大正九年三月)

京成電氣會社在職　福田郁次郎　茨城金江津

新潟醫科大學助手　深山陽　印旛旭

法學士　若命富郎　横濱吉田町

東京日本橋郵便局在勤　岩立源一郎　香取滑川

實業　高橋勇雄　印旛公津

海軍機關中尉出雲乘組　加藤武夫　仝　成田

醫師　山崎一雄　仝　永治

醫師(千葉醫專卒業)　鈴木藤吉　仝　安食

實業　木內芳雄　仝　成田

帝國電燈會社在職　大野龜之助　仝　酒々井

神職(法政大學卒業)　宮崎廣則　仝　成田

早稲田大學卒業兵役　藤崎章　仝　遠山

實業　伊藤豐　仝　久住

實業　(小川改)　中臺俊一　仝　公津

東京齒科醫專卒業　竹村秀壽　仝　成田

實業　下村好一　仝　八生

實業　石井標之尉　仝　遠山

實業　石井庄平　仝　酒々井

齒科醫　萩原英一　仝　成田

實業　(甲田改)　小倉與市　仝　遠山

神奈川縣小田原高等女學校敎諭（早稻田大學卒業）	千葉實乘	茨城五箇
成田新更會在職（早稻田大學卒業）	林稜二	印旛八生
實業（步兵中尉）	平山榮昌	香取多古
實業	石井美雄	印旛富里
明治大學卒業	山崎守	仝木下
日本大學醫學部在職（日本齒科醫專卒業）	阿部規矩治	仝豊住
小學校敎師	竹村利雄	仝富里
安田銀行芝支店在勤（篠崎改）	稻村忠男	仝遠山
神奈川縣藤澤時宗宗學林卒業（大貫平吉改）	吉江淨光	神奈川縣海老名
實業	磯山儀一	印旛公津
實業（步兵少尉）	寺內五市	仝中郷
×	吉岡彰	仝中郷
日本齒科醫專在學	藤崎慶司	仝成田
實業	飯田榮亮	香取大須賀

第二十回卒業生（卅六名）（大正十年三月）

東京高等工業學校卒業	荻原良作	印旛豊住
東北帝國大學農學部在學	原義雄	仝富里
成田圖書館司書（文部省圖書館講習所卒業）（青柳改）	高田定吉	仝成田
東京商科大學專門部在學	安達一郎	仝遠山
慶應醫科大學在學	齋藤光治	仝成田
小學校敎師（松岡改）	日暮勝重	仝遠山
早稻田大學在學	鈴木徐人	印旛大森
海軍少尉	高野照典	仝成田
實業（大宮改）	木村竹雄	仝遠山
	菅澤英	香取高岡
僧侶（　山大學卒業）	松田照應	印旛成田
實業	內藤榮	茨城金江津
小學校敎師	和田英	仝酒々井
官吏	大貫貞吉	仝安食
明治大學卒業	泉瑞敏正	夷隅古澤
實業	小倉良太郎	印旛八生
小學校敎師	椎名永良	仝安食
中央大學在學	小海川昌則	仝久住
小學校敎師	手島英	山武千代田
小學校敎師	秋山榮吉	印旛八生
實業	齋藤貞雄	仝公津
千葉醫科大學附屬藥學科在學	荻原道三	海上銚子
小學校敎師	後藤愼平	印旛安食
實業	山崎信夫	仝遠山
小學校敎師	磯山宣	仝公津
實業	福田登	仝酒々井
實業	藤崎巖	仝遠山

實業	寺內彌茂	印旛中郷
實業	宇井聖	仝成田
實業（慶應義塾卒業）（石川改）	山本秀雄	仝成田
實業	丸善兵	仝公津
實業	山倉文雄	仝久住
實業	關川雅司	仝成田
接骨醫	小倉桂	仝成田
小學校敎師	小川勳	仝富里
僧侶	永山徹榮	福島縣豊岡

第二十一回卒業生（卅八名）（大正十一年三月）

東京帝國大學醫學部在學	大島仁	印旛成田
北海道三重園北海製罐株式會社（水產講習所卒業）	根本五郎	仝富里
慈惠會醫科大學在學	竹村猛壽	仝成田
法政大學在學	石橋廣吉	香取滑川
九州帝國大學法文科卒業　九州嘉穗中學校敎諭　文學士（榎田改）	羽方章	仝成田
東北帝國大學理科在學	平山諦	仝成田
早稻田大學在學	關谷重雄	仝公津
不動銀行大阪心齋橋支店在職（大阪高等商業卒業）	淺井義一	仝成田
銚子合資會社勝味屋本店在職	島村治助	仝成田
小學校敎師	太田家倚	印旛公津
實業	飯高治夫	山武二川
早稻田大學在學	岩澤丈夫	印旛遠山
實業	藤崎昇	仝和田
東京商船學校在學	野平統一	仝中郷
實業	岩澤多門	仝遠山
實業	小林博	仝成田
明治大學卒業	高橋清	仝成田
小學校敎師（相川改）	坂田已一郎	仝富里
千葉醫科大學在學	關川安正	仝成田
日本火災保險會社在職	木內正夫	仝成田
小學校敎師	渡邊三郎	仝成田
明治大學卒業	桑原啓次郎	仝安食
小學校敎師	伊藤巖	仝富里
無線電信講習所卒業	根本克己	仝八生
實業	本多巳代治	仝遠山
明治大學在學	諸岡一次	仝成田
×	加藤曉治	仝成田
小學校敎師	藤崎勘司	仝遠山
小學校敎師	石木晃	廣島縣竹仁
樺太小學校敎師	丸山正臣	長野縣明盛
實業	萩原喜知太郎	印旛豊住
明治大學卒業	湯淺八郎	仝八生

實業　山田　忍　印旛公津
朝鮮水原道高等農林學校在學　加藤北一郎　仝八生
實業　伊能春夫　山武二川
實業　吉岡　順　印旛中郷
小學校教師　吉田義法　安房田原
實業　竹田正吉　印旛成田

第二十二回卒業生（卅八名）（大正十二年三月）

東京帝國大學醫科在學　熊切修二　夷隅古澤
東京農業大學在學　檜垣兼二　印旛久住
小學校教師　戸村照學　匝瑳八日市場
×齋藤　操　印旛公津
三門健一　仝木下
慶應義塾卒業　小泉國衛　仝成田
東京帝國大學在學　三橋監物　仝成田
東京帝國大學在學　大澤麟太郎　仝八生
慶應義塾大學在學　大塚謹三　仝成田
福島高等商業學校在學　石井俶男　山武千代田
東京市役所在職　山口　忠　印旛八生
南洋興業株式會社在職（大倉高等商業卒業）　大須賀誠　仝安食
實業　（小川改）香取忠裕　山武千代田
小學校教師　香取利雄　印旛久住
實業　加藤文一　仝成田
公吏（東京外國語學校卒業）　石橋三郎　仝安食
實業　多田　清　仝公津
大阪大森組本店設計部在職（橫濱高等工業卒業）　長澤　博　仝布鎌
鈴木三郎　仝公津
小學校教師　松崎正重　仝八生
安田銀行在職　篠崎　操　仝遠山
實業　平山正夫　香取多古
中央大學在學　新村新助　山武二川
小學校教師　原　公　印旛富里
（東洋大學卒業）智山大學在學　島　照康　東京市本所
小學校教師　（青柳改）大木信雄　印旛公津
×篠原幸次郎　仝成田
小學校教師　平山　祝　香取吉田
小學校教師　（渡邊改）飯塚泰亮　印旛成田
東京齒科醫專在學　平山幸一　香取多古
日本大學校附屬中學教諭（日本大學高等師範科卒業）　片岡　勇　印旛遠山
×桑名善雄　茨城那珂郡
實業　小川重雄　印旛中郷
日本大學在學　石川　明　印旛遠山

實業　竹尾　隆　印旛酒々井
遞信省官吏　石渡四郎　山武南郷
實業　石山　堯　山武二川
實業　鈴木　平　印旛公津

第二十三回卒業生（三十三名）（大正十三年三月）

三井銀行名古屋支店在職（明治大學卒業）　藤崎浦治　印旛遠山
東京帝國大學法科在學　水野岩雄　仝成田
北海道大學農學部在學　牧野佐次郎　仝成田
日露漁業株式會社在職（日露協會學校卒業）　遠藤與惣次　仝公津
北海道大學農學部在學　加藤韓三　仝八生
小樽高等商業卒業　諏訪原四郎　仝八生
神戸商船學校在學　渡邊進一　仝成田
日本大學豫科　山内康夫　仝成田
小學校教師　土屋　清　山武二川
實業　篠田光治　茨城金江津
海軍兵役　神崎謙三　印旛遠山
日本大學在學　岩内　貢　仝遠山
東京鐵道局千葉運輸事務所在職　加藤岡武　仝成田
國學院大學卒業　谷上勝太郎　仝成田
×三橋　新　仝成田
新勝寺事務員（東京主計學校卒業）　行方喜一　山武大總
實業　木内基治　香取滑河
林　貞一　山武日向
實業　高橋忠司　印旛公津
日本大學在學　佐藤　寛　香取大須賀
中央大學在學　（未壽雄改）武田有信　印旛八生
東京鐵道局千葉運輸事務所在職　鳴田　滿　仝富里
川崎銀行佐原支店在職　藤崎正義　仝遠山
南洋瓜哇島マラン市佐伯商會在職　吉川克巳　仝中郷
福井縣高岡高等商業學校在學　手島　寛　山武千代田
實業　日暮秀明　印旛本埜
大阪合同紡績株式會社天滿支店在職（米澤高等工業卒業）　小川貞助　仝豊住
小學校教師　伊藤　清　仝富里
青柳晴美　香取滑河
實業　佐伯忠夫　長生土睦
大三川雄啓　香取多古
實業　湯淺義雄　印旛公津
實業　黑川富夫　仝成田
拓殖大學在學（四年終了者）　×安達次郎

第二拾四回卒業生（四拾五名）（大正十四年三月）（いろは順）

實業　生駒靜雄　山武二川
小學校教師　伊藤　馨　印旛久住

伊藤汎　山武松尾　小學教師
石川仁一郎　印旛成田　早稲田大學卒業
石川豊　仝　遠山　米澤高等工業學校在學
石田亨　香取高岡　實業
石井雅衛　印旛富里　東京商科醫專在學
圓城寺次郎　仝　公津　早稲田高等學院在學
林田武雄　仝　富里　東京高等師範學校在學
林清風　仝　遠山　川崎第百銀行千葉支店在職
大友廣高　宮城縣仙臺　小學校教師
岡野秋夫　印旛安食　中央大學商科專門部在學
大木丈夫　匝瑳須賀　法政大學在學
渡邊市左衛門　印旛成田　小學校教師
金子忠治　仝　中郷　第一高等學校在學
神崎廸太郎　茨城金江津　實業
海保芳郎　印旛久住　實業
海保香苗　茨城金江津　小學校教師
神崎武夫　印旛遠山　實業
勝又勝伊　香取多古　東洋大學在學
海瀬健爾　安房稻都　成田圖書館々員（文部省圖書館講習所卒業）
高川俊夫　印旛成田　日本大學商科在學
高安愛之助　仝　成田　明治大學在學

×田中純一郎　茨城龍崎　日本商科醫學專門學校在學
中村賢爾　印旛白井　朝鮮小學校教師
内海門磨　仝　八生　實業兵役
山木愛　仝　安食　實業
山田彌　仝　安食　實業
武士田讓　仝　成田　實業
神戸剛　仝　成田　慶應義塾在學
寺内一郎　仝　成田　明治大學商科在學
寺内秀雄　仝　成田　帝國電燈會社在職
淺井銳次　仝　成田　東京商科大學在學
淺井隆　仝　成田　早稲田大學商科在學
相田重義　埼玉粕壁　明治大學商科在學
秋山貔虎一　印旛富里　實業
秋山寛　仝　遠山　小學校教師
櫻井泰　仝　安食　實業
木内浩　仝　成田　帝國電燈會社在職
湯淺栽樹　仝　安食　實業
宮内喜夫　仝　八生　早稲田大學商科專門部在學
清水文治　山梨縣安都　物理學校在學
新橋重三　仝　豊住　早稲田大學專門部在學
關川安世　印旛成田　弘前高等學校卒業

清宮博　印旛八生　實業

第二拾五回卒業生（四拾四名）（大正拾五年三月）

石橋浩　印旛安食　兵役
丸芳洋　仝　富里　（池田改）
磯部貫　仝　久住
石橋與七　仝　成田　東洋大學在學
石井昌治　山武千代田　實業
萩原章　山武大里
大竹清　香取本大須賀　日本商科醫專在學
大木普市郎　印旛中郷
大木得三　仝　八生　物理學校在學
大久保貞治　仝　安食　實業
小川茂　仝　遠山　長野縣松本片倉製絲紡績株式會社在職（上田蠶絲專門學校卒業）
小川忠雄　仝　八生　小學校教師
小海川重雄　仝　久住
小川進　仝　豊住　中央大學在學
大須賀信乃　仝　六合　中央大學商科卒業
海保三千三　仝　久住　東京鐵道局千葉運輸事務所在職
×川島千秋　香取本大須賀
金澤俊亮　茨城金江津　小學校教師
加藤正則　印旛中郷　實業

田村義教　安房天津　僧侶
塚本克巳　香取滑河　小學校教師
鶴岡大中　石川輪島　小學校教師
根本菊次　印旛豊住　小學校教師
中村一　山武睦岡　小學校教師
村山信次　印旛公津　實業
内田榮　山武千代田
黒田正信　香取多古　日本醫學專門學校在學
久保田潔　印旛成田　新勝寺事務員
山崎博　香取高岡　早稲田高等學院在學
山田一雄　印旛八生
丸三郎　仝　公津　大阪高等學校在學
松本重雄　君津久留里　官吏
福田廣　印旛安食　成田中學校理化學室助手
藤崎廣夫　仝　遠山　川崎第百銀行佐原支店在職
藤崎一傳　仝　遠山　實業
佐久間誠一　仝　豊住　實業
佐藤智雄　香取大須賀　小學校教師
齋藤仲次　印旛八生　臺灣臺中第三中學校教諭（東京高等師範臨時教員養成所卒業）
吉祥照芳　東京四谷　僧侶
密島和一　東京神田　小學校教師

平山岩雄	香取多古	早稻田高等學院在學
森谷義正	山形縣東郷	京都智山大學在學
諸岡薫	印旛成田	實業
鈴木照澄	仝　志津	京都智山大學在學
諏訪原貞夫	印旛成田	中央大學在學
三橋誠一	仝　成田	四年終了者（水戸高等學校在學）

第二拾六回卒業生（四拾八名）（昭和二年三月）

石井竹松	印旛遠山	小學校教師
石井章	仝　富里	攻玉社高等工業學校在學
今關忠三	香取多古	實業
伊藤倉三	印旛遠山	神戸商船學校在學
伊井與助	仝　富里	實業
石井三郎	仝　豊住	
石橋瑞穂	仝　成田	小學校教師
幡谷有吉	仝　成田	米澤高等工業學校在學
萩原治房	香取多古	實業
萬來親	印旛八街	鐵道從業員
大木賢三	仝　成田	成田役場吏員
小倉敏夫	仝　中郷	實業
大野正	仝　豐住	早稻田高等學院在學
小川德英	山武千代田	實業
大三川正	印旛中郷	山梨高等工業學校在學
小川政巳	仝　中郷	實業
渡邊操	仝　成田	明治大學在學
渡邊昇司	香取滑河	實業
吉岡一二	印旛中郷	小學校教師
横田四郎	仝　久住	鐵道從業員
吉岡俊男	仝　中郷	小學校教師
多田實（藤崎改）	仝　公津	小學校教師
高橋忠	仝　成田	法政大學在學
高橋健吉	仝　成田	臺灣高等學校在學
高橋重雄	仝　成田	明治大學在學
武田利良	仝　成田	
武田豊	仝　八生	實業
瀧澤利一	仝　成田	實業
村田榮量	安房豊房	京都智山大學在學
上野賴榮	福島縣苅野	京都智山大學在學
×鵜澤廣吉	印旛公津	
葛生幸常	仝　安食	慶應義塾文科在學
郡司辰二	香取日吉	日本歯科醫學專門學校在學
山室勝身	山武千代田	小學校教師

山崎巖	香取飯高	
福田茂重郎	群馬縣日野	實業
後藤愛	印旛八生	實業
後藤重司	仝　安食	實業
芦田菊治郎	仝　成田	實業
秋山禎康	仝　中郷	小學校教師
秋山正	仝　中郷	國學院大學在學
南井重	仝　成田	東洋大學在學
實川賢雄	仝　成田	東京高等工業專門部在學
清水定雄	香取多古	日本歯科醫學專門學校在學
平野新藏	香取神崎	東京安田銀行在職
泉水淳	仝　公津	東洋大學在學
清宮清介	仝　八生	實業
鈴木善照	仝　中郷	第一高等學校在學

第二拾七回卒業生（参拾九名）（昭和三年三月）

石井保	印旛遠山	實業
石川薫	仝　遠山	
飯田清太郎	香取滑河	
磯山茂	印旛公津	
岩舘英亮	仝　遠山	實業
林俊吾	仝　八生	實業
堀井克已	香取小御門	實業
堀川和	仝　滑河	
富澤章治	仝　滑河	實業
戸村正作	印旛遠山	實業
小川貫	仝　公津	實業
小川英一	仝　中郷	實業
小川晃	仝　中郷	實業
小倉信輔	仝　成田	横濱高等工業學校在學
大須賀仁	仝　安食	東京高等蠶絲學校在學
大竹久直	香取本大須賀	
大野政治	印旛成田	京成電車事務所在職
大竹惠司	仝　富里	
川村三郎	仝　木下	東京外國語學校在學
香取不二夫	仝　久住	
根本茜三	印旛豊住	實業
中村三樹	仝　白井	
武藤文哉	仝　永治	
黒川正雄	仝　成田	實業
矢萩俊一郎	仝　安食	
×山田勳	仝　八生	
福田一太郎	稲敷金江津	茨城縣師範學校二部在學

小學校教師	藤崎光治	印旛遠山
	小窪　仁	仝　本埜
	寺內賢治	仝　成田
實業	秋葉武夫	仝　富里
小學校教師	青柳　亮	仝　公津
	齋藤吉三	仝　成田
大阪高等學校在學	佐藤芳雄	仝　成田
實業	木川　忠	山武二川
實業	日暮　眞	印旛本埜
	平間輝男	宮城縣槻木
法政大學在學	砂山謙一	石川縣植川
實業	鈴木準一	栃木縣南大衡

第二十八回卒業生（六拾貳名）（昭和四年三月）

	伊藤武雄	印旛遠山
	伊藤久四郎	印旛安食
	池田大輔	山武千代田
	石橋　白	印旛公津
東京齒科醫專在學	飯塚金次	香取多古
橫濱高等工業學校在學	羽入一男	印旛成田
	萩本　和	茨城金江津
東京市々電早稻田車庫在職	細野　彰	印旛富里
千葉鐵道運輸事務所從業員養成所	細矢三郎	印旛成田
巣鴨高等商業學校在學	戸塚四一郎	東京麹町
	戸村一作	印旛遠山
	土井平治	印旛公津
	小川利明	印旛中郷
	小川貞雄	印旛成田
	小川　茂	印旛遠山
	小倉格司	印旛成田
	小澤文治郎	印旛成田
鐵道省千葉運輸事務所在職	若海　登	印旛遠山
	川崎　茂	印旛公津
	金子孝道	印旛中郷
	吉田松年	印旛成田
實業	谷　貞悟	印旛公津
	高橋　薫	印旛公津
	高橋亥年生	印旛成田
	瀧澤　昇	印旛成田
	高橋　仁	印旛公津
	高橋　浩	千葉更科
電機學校內高等工業學校在學	根本　誠	印旛成田
	鵜澤幸雄	山武千代田

	大野　孝	印旛安食
	大澤新吾	印旛八生
	大木春基	印旛中郷
	大木一夫	印旛中郷
	大木勤吾	印旛成田
	大島　卓	印旛成田
	山田　保	印旛成田
法政大學豫科在學	山田正美	印旛八生
	山崎　要	印旛公津
	丸　盛一	印旛公津
	松田晴源	印旛成田
	藤崎末夫	印旛遠山
	古郷　清	匝瑳南條
農業大學在學	小柳謙治	印旛永治
	寺內良則	印旛成田
	笹川克巳	山武千代田
	木村秀明	香取小御門
	木內憲一	印旛成田
	木內喜久雄	印旛成田
	木內季男	香取滑川
	宮內德次郎	茨城鹿島
	宮本庫二	印旛富里
	篠田惣壽	印旛豊住
	平野伸次	印旛八生
盛岡高　農林學校	諸岡　胖	印旛成田
	諸岡新一	印旛成田
	關川順道	印旛成田
	諏訪原民雄	印旛八生
	菅　孝一	印旛遠山
成田電燈會社在職	菅谷嘉夫	印旛成田
	鈴木　覺	印旛遠山
實業	鈴木順吉	印旛成田
	鈴木照汎	印旛公津

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學　曆……
教育方針及施設概要……四七
沿革略……四七
昭和三年度重要記事……四九
學　則……五〇
職員表……五二
成田山女學校卒業生人名……五三
卒業生人名及現況……五四
經費統計概表……七〇

卒業生及生徒郡別表

（昭和四年四月現在）

郡別	五學年A組	五學年B組	四學年A組	四學年B組	三學年A組	三學年B組	二學年A組	二學年B組	一學年A組	一學年B組	計	卒業生
印旛	一八	一八	二九	二三	二九	三〇	三二	三〇	三三	三二	二七二	六四六
香取	四	一	四	三	二	二	二	二	二	四	二六	六五
山武	二				三	三	六	四	二	二	二二	三六
千葉		一							一		二	四
市原												四
東葛飾												二
匝瑳		一	一								二	四
海上									一		一	一
長生												五
夷隅												三
君津												三
安房												七
他府縣	六	一	五		二	二	一	四	二	三	二六	七五
計	三〇	二二	三九	二六	三六	三七	四〇	四〇	四〇	四〇	三五〇	八七五

經費

年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞與	營繕費	手當金	豫備金	合計
昭和三年度決算	二六〇二七、一〇〇	三〇七九、三四〇	一四一九、四四〇	二八二三、二七〇	八三〇二、八〇〇	一九四九、六一〇	—	—	四六六〇一、五六〇

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學曆……
教育方針及施設概要……四七
沿革略……四七
昭和三年度重要記事……四九
學則……五〇
職員表……五二
成田山女學校卒業生人名……五三
卒業生人名及現況……五四
經費統計概表……七〇

卒業生及生徒郡別表

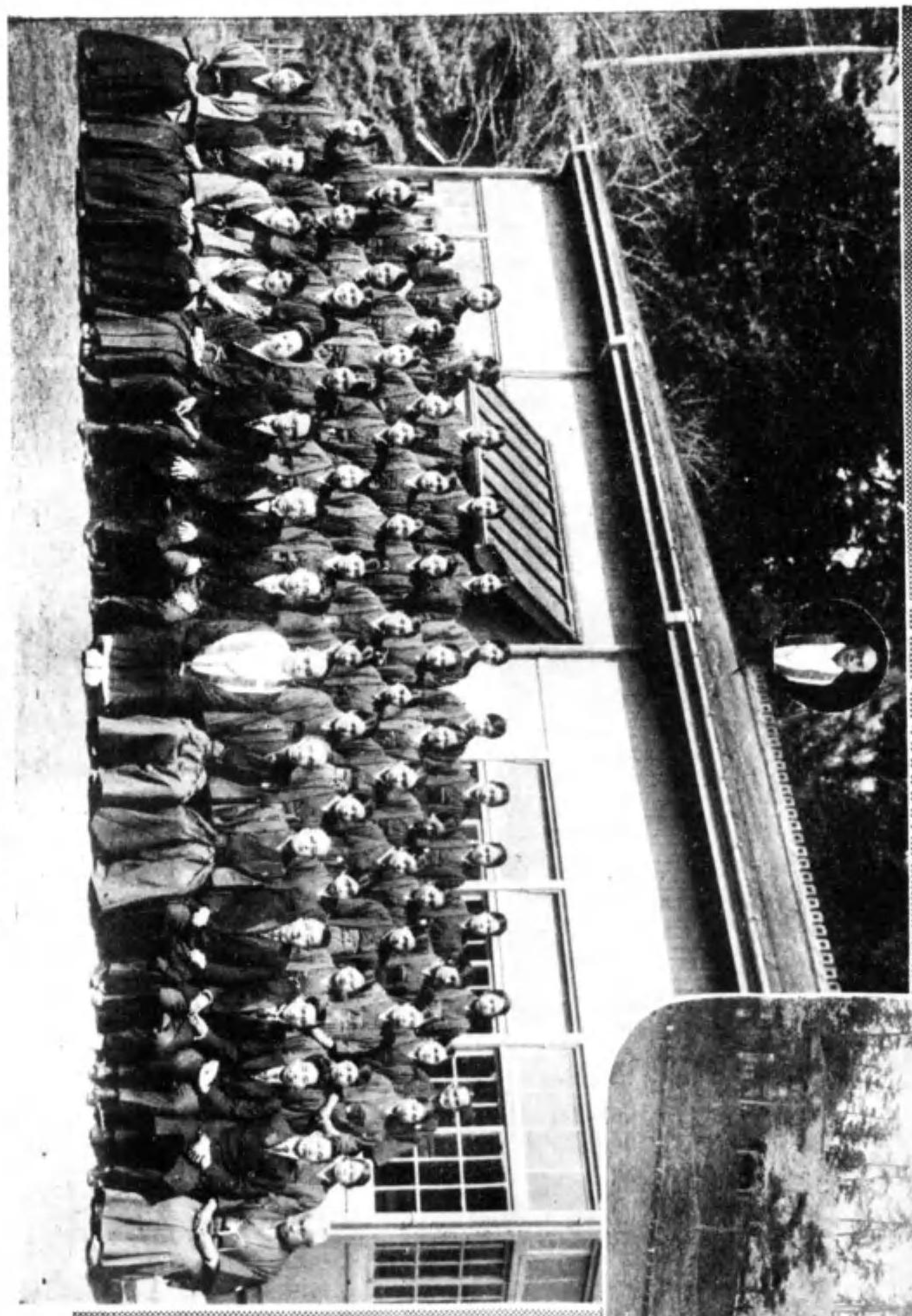
（昭和四年四月現在）

郡別＼區別	五學年A組	五學年B組	四學年A組	四學年B組	三學年A組	三學年B組	二學年A組	二學年B組	一學年A組	一學年B組	計	卒業生
印旛	一八	一八	二九	二三	二九	三〇	三一	三〇	三二	三一	二七一	六四六
香取	四	一	四	三	二	二	二	二	二	四	二六	六五
山武	二				三	三	六	四	二	二	二二	五六
千葉		一							一		二	四
市原												四
東葛飾												二
匝瑳		一	一								二	四
海上									一		一	一
長生												五
夷隅												三
君津												三
安房												七
他府縣	六	一	五		二	二	一	四	二	三	二六	七五
計	三〇	二二	三九	二六	三六	三七	四〇	四〇	四〇	四〇	三五〇	八七五

經費

年度	昭和三年度決算
俸給	二六〇二七、一〇〇
雜給	三〇七九、三四〇
需用費	一四九、四四〇
雜費	二六二三、二七〇
賞與	八三〇二、八〇〇
營繕費	一九四九、六一〇
手當金	—
豫備金	—
合計	四二六〇一、三六〇

露光量違いの為重複撮影



職員及第十八回卒業生

成田高等女學校

昭和四年度

學歴

第一學期　自四月一日至八月三十一日
第二學期　自九月一日至十二月三十一日
第三學期　自一月一日至三月三十一日
毎月　第二第四土曜日大掃除

四月

五日　始業式、入學式、新入生父兄會
六日　午前八時十分始業
中旬　教授豫定記入
廿九日　天長節祝賀式
下旬　身體檢查

五月

中旬　修學旅行四、三、二學年
廿七日　海軍記念日

六月

上旬　一學年遠足

七月

十七日　第一期授業終
廿日　成績發表、終業式

九月

二日　始業式
上旬　授業豫定記入
下旬　四學年志望調査

十月

中旬　校友會學藝部會

十一月

三日　體育デー
上旬　縣下中等學校女子競技會

十二月

廿日　第二學期授業終
廿四日　成績發表終業式
同　校友會雜誌原稿募集
廿五日　大正天皇祭

一月

一日　新年祝賀式
八日　始業式
中旬　教授豫定記入
中旬　來學年度教科書選定

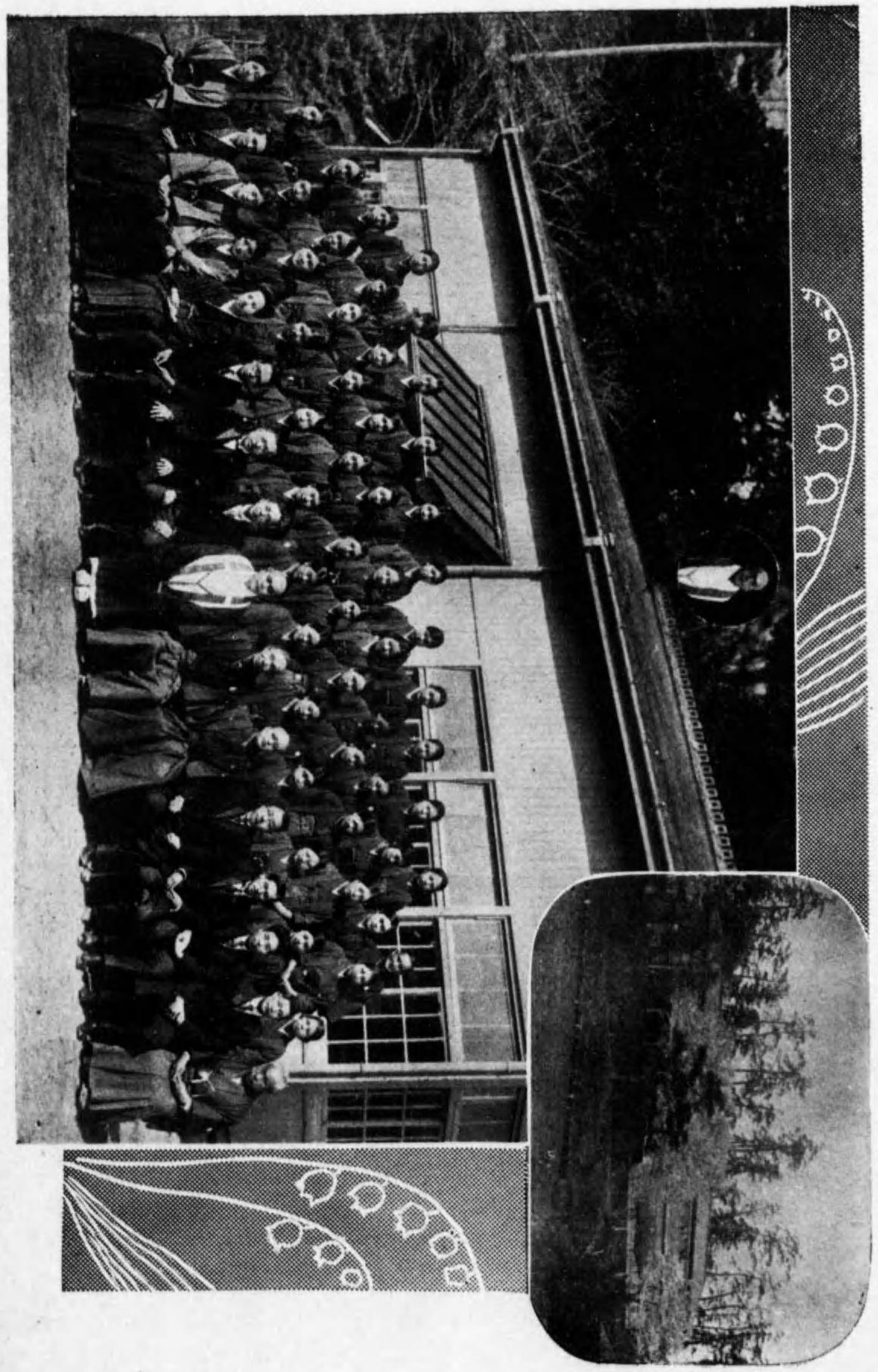
二月

十一日　紀元節祝賀式
十三日　創立記念祝賀式
同日　校友會學藝部會

三月

六日　地久節祝賀式
十日　陸軍記念日
十二日　第三學期授業終
十五日　成績發表、終業式
十八日　證書授與式
未定　入學考査及成績發表

露光量違いの為重複撮影



職員及第十八回卒業生

成田高等女學校

昭和四年度

學歴

第一學期 自四月一日至八月三十一日
第二學期 自九月一日至十二月三十一日
第三學期 自一月一日至三月三十一日
毎月 第二第四土曜日大掃除

四月

五日 始業式、入學式、新入生父兄會
六日 午前八時十分始業
中旬 教授豫定記入
廿九日 天長節祝賀式
下旬 身體檢査

五月

中旬 修學旅行四、三、二學年
廿七日 海軍記念日

六月

上旬 一學年遠足

七月

十七日 第一期授業終
廿日 成績發表、終業式

九月

二日 始業式
上旬 授業豫定記入
下旬 四學年志望調査

十月

中旬 校友會學藝部會

十一月

三日 體育デー
上旬 縣下中等學校女子競技會

十二月

廿日 第二學期授業終
廿四日 成績發表終業式
同 校友會雜誌原稿募集
廿五日 大正天皇祭

一月

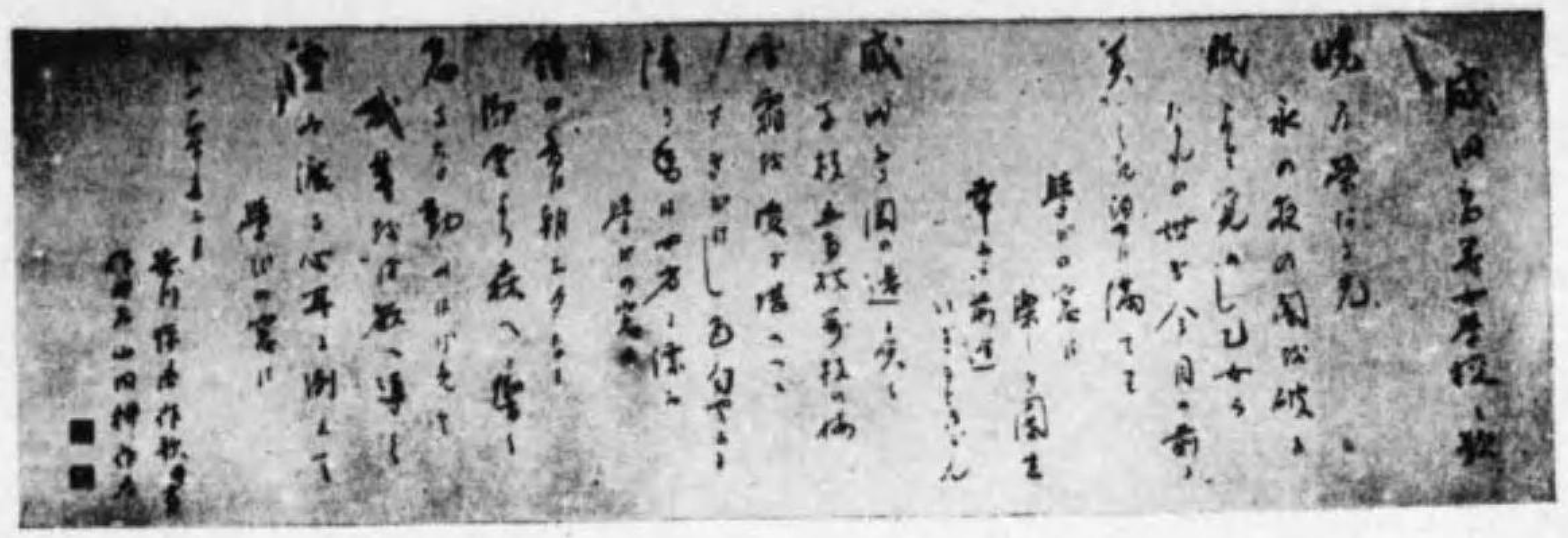
一日 新年祝賀式
八日 始業式
中旬 教授豫定記入
中旬 來學年度教科書選定

二月

十一日 紀元節祝賀式
十三日 創立記念祝賀式
同日 校友會學藝部會

三月

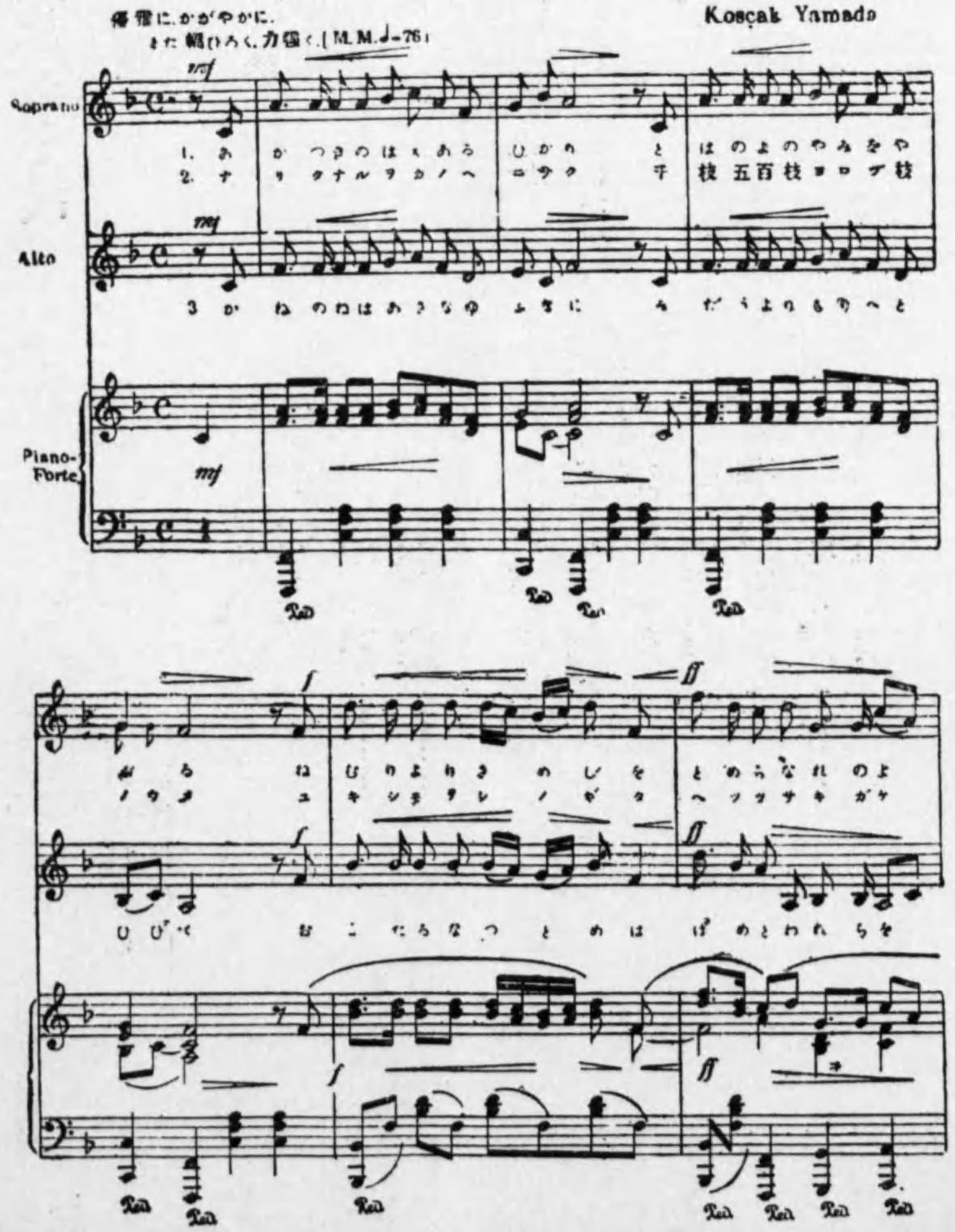
六日 地久節祝賀式
十日 陸軍記念日
十二日 第三學期授業終
十五日 成績發表、終業式
十八日 證書授與式
未定 入學考査及成績發表

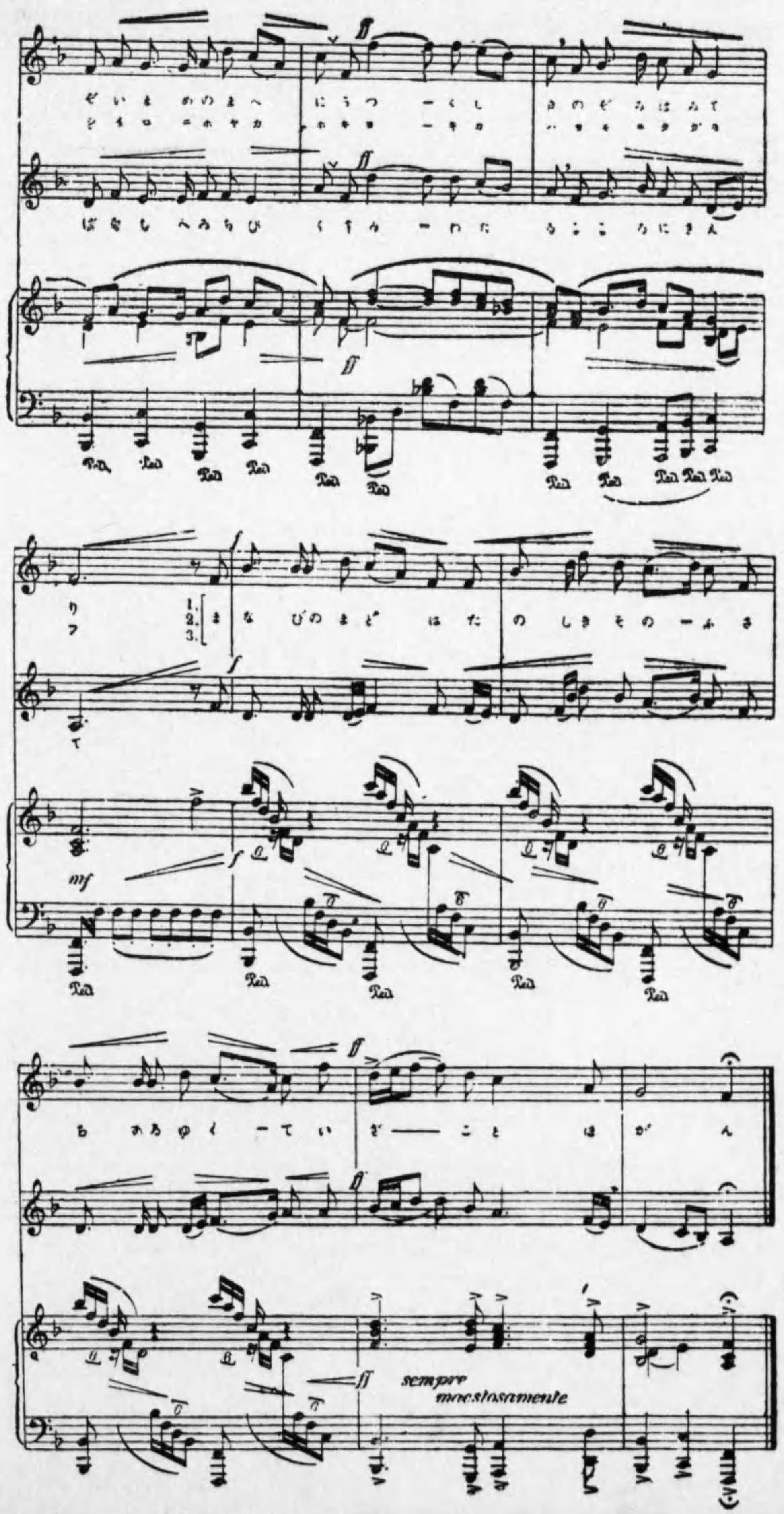


第十三回卒業生寄贈

成田高等女學校校歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲





成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲

曉の榮ある光
　永の夜の闇を破る
眠より覺めし乙女ら
　なれの世ぞ今目の前に
美しき望は滿てり
　學びの窓は樂しき園生
　幸ある前途いざことほがん

成田なる岡の邊に咲く
　千枝五百枝萬枝の梅
雪霜を凌ぎ堪へつゝ
　さきがけし色匂やかに
淸き香は四方に漂ふ
　學びの窓は……
　幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに
　御堂より森へと響く
怠るな勤めはげめと
　我等をば敎へ導く
澄み渡る心耳に冴えて
　學びの窓は……
　幸ある前途

私立成田高等女學校一覽

（昭和四年四月現在）

◎敎育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すと雖も確實に高等女學校令に準據し、絕對に宗教的布敎宣傳の機關に供せず。專ら社會奉仕を目的として、國民敎育の一部を負擔するものなり。

本校の敎育方針は、敎育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで共の實行を期し。學業を勵み、淑德を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山五事業の精神に鑑み質實勤儉を旨とし、他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を輕減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、奬學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として編物挿花、茶の湯、按摩を課し。音樂科にもオルガン數基の外、ピヤノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて溫雅優美の思想を涵養するに勉む。

大正十四年度よりは更に校服を制定し、尙ほ體操科に薙刀を加へ、第四學年課外に、救急療法を課し千葉醫科大學に講師を委屬せり。

◎沿　革　畧

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山五事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫首石川僧正の慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衞、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に專務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大畧左の如し

一明治四十四年三月廿一日本校々則を制定す
一同　四月一日成田中學校敎諭中島喜一（高等師範學校出身）校務主監兼敎諭に任ぜらる。
一同　四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入試驗を行ふ。
一同　四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の各學年に分編し、同日始業式を行ふ。
一明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席

す

一明治四十四年十二月增築に着手せし雨中體操場、理科教室及普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
一大正二年三月第二回卒業生出づ
一大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
一同　十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正三年三月第三回卒業生を出す
一大正四年三月第四回卒業生を出せり
一大正五年三月第五回卒業生を出す
一大正六年三月第六回卒業生を出せり
一同　十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
一同　十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正七年第七回卒業生を出せり
一大正八年三月第八回卒業生を出せり
一大正八年十月中村校務主監死去
一大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
一大正九年三月第九回卒業生を出し
一大正十年三月第十回卒業生を出せり
一大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
一大正十二年三月第十二回卒業生を出す
一大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命ぜらる
一大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
一大正十三年二月成田山貫首荒木僧正校主の認可を受く
一大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
一大正十三年三月第十三回卒業生を出す
一大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正十四年三月第十四回卒業生を出す
一大正十四年三月笹川文學士校長辭任
一大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
一大正十四年四月校務主監佐藤國二校長に任ぜらる
一大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
一大正十五年三月第十五回卒業生を出す
一昭和二年三月第十六回卒業生を出す
一昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
一昭和二年四月理事三橋重郎兵衞病氣の爲隱退す
一昭和三年三月第十七回卒業生を出す
一昭和四年三月第十八回卒業生を出す

昭和三年度重要記事

四月五日　入學式、始業式、擧行
四月廿九日　天長節祝賀式擧行
五月十三日　四學年生關西方面に修學旅行の爲め出發
五月十七日　二學年生は日光に三學年生は箱根各方面に修學旅行
五月廿三日　谷本博士の講話
五月廿五日　佐藤校長縣下高等女學校長會議の爲め佐原高等女學校に出張
五月三十日　小倉教諭縣下中等學校體操科主任會に千葉中學校に出張
六月一日　大木、青木兩教諭千葉高等女學校に開催の上級主任會に出席
六月四日　佐藤校長修身科打合會の爲め銚子高等女學校に出張
六月十五日　佐藤校長、青木教諭佐倉高等女學校に國語指導教授の爲め出張
六月廿二日　本縣學務部長鈴木登氏視察
六月廿九日　武教諭木更津中學校に歴史科研究會の爲め出張
七月十四日　佐藤校長、青木、小倉、白鳥、三教諭引率一學年生谷津海岸に遠足
九月一日　震災九週年の記念講話
九月九日　同窓會開催
十月六日　武、日暮兩教諭安房高等女學校に庭球大會の爲め選手五名引率
十月十三日　一府八縣教育會代議員四百名餘視察
十月十五日　山内教諭千葉に展覽會出品物の件にて出張
十一月三日　明治節祝賀式擧行
十一月十日　御大禮祝賀式擧行
十二月十日　佐藤校長、大木主任四學年生六名御親閲豫行練習の爲め千葉に出張
十二月十五日　御親閲參列、佐藤校長、島田首席教諭、大木主任教諭、四學年生、小山マス、新橋千代、池田いく、山口精、郡司秀、高川春野
一月一日　祝賀式擧行
一月廿九日　佐藤校長鴻臺高等女學校に校長會議の爲め出張
二月二日　督學官佐藤禮云氏視察
二月十一日　祝賀式擧行
二月十三日　創立記念式、學藝部大會開催
二月廿二日　吉田文俊先生の講話

三月　三日　佐藤校長東京横濱各學校視察
三月　六日　地久節祝賀式擧行
三月十八日　第十八回卒業式擧行
三月廿二日
三月廿三日　入學考査五十名に對し入學を許可す

◎學　則

第一章　總　則

第一條　本校の修業年限は本科四箇年とす
第二條　生徒定員は二百人とす
第三條　休業日左の如し
一、祝日、大祭日
二、日曜日
三、皇后陛下御誕辰
四、記念日、二月十三日
五、夏季休業七月廿一日より八月卅一日に至る
六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

第二章　學科課程教授時數

第四條　本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす
第五條　學科課程及び教授時數は左の如し

學科目＼學年	第一學年 每週時數	第一學年	第二學年 每週時數	第二學年	第三學年 每週時數	第三學年	第四學年 每週時數	第四學年
修身	二	人倫道德ノ要旨、作法	二	同上	一	同上	一	同上法制大意
國語	六	講讀、習字作文、文法	六	同上	五	同上	五	講讀、作文漢文
英語	三	讀方、譯解書取、習字	三	同上	三	讀方、譯解、書取、文法、作文	三	同上
歷史地理	三	本邦歷史本邦地理	三	同上外國地理	二	同上外國歷史	二	同上地理通論
數學	二	整數、小數、諸等數、珠算	二	約數、倍數、分數比例、代數初步	三	比例、步合、代數初步、珠算	三	開平、幾何初步、珠算
理科	二	植物、動物	二	前學年ノ續、生理衞生、鑛物	三	化學、物理	三	物理
圖畫	一	自在畫	一	同上幾何畫	一	同上		
家事					二	衣食住	四	家政、看病育兒等
裁縫	四	縫方、裁方	四	同上、繕方	四	同上	四	同上
音樂	二	單音唱歌	二	同上	一	同上複音唱歌		
體操	三	普通體操遊戲	三	同上	三	同上	三	同上
教育							一	理論ノ大要
計	廿八		廿八		廿八		廿九	
編物袋物	(一)	編物	(一)	同上	(一)	袋物	(一)	同上
挿花茶湯	(一)	挿花	(一)	同上	(一)	同上茶湯	(一)	同上
按摩					(一)	按摩	(一)	同上

備考　編物袋物挿花茶湯按摩ハ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章　入學及退學

第六條　生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし
第七條　入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし
第八條　第一學年入學志願者に就きては小學校長の内申に基づき試問及身體檢査に依りて之を檢定す
第九條　前條の試問は尋常小學校卒業程度に依り之を行ふ
第十條　第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齡に達し學力檢定に合格したるものたるべし
第十一條　入學を許可せられたる者は在學證書に戶籍謄本を添へて差出すべし
（在學證書は別に印刷しあるを以て省略す）
第十二條　保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし
第十三條　保證人の住所學校所在地より一里以內に在らざるときは一里以內に在所を有し一家計を立つるものを以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に屆出つべし
第十四條　學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし
第十五條　保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に屆出つべし
第十六條　生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出づべし
第十七條　生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難きときは期間を定め休學を願出つることを得但し期間は一ヶ年を超ゆることを得ず

第四章　修了及卒業

第十八條　各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考査して之を定むべし
第十九條　卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章　授業料及入學料

第二十條　一、授業料は月額金三圓とし每月十日迄に之を納め特に其期日を指定したるときは其當日之を納むべし
二、入學志願者は入學考査料金壹圓を納附すべし
但每年八月は之を徵收せず
第廿一條　入學料は金一圓とし入學許可の際之を徵收す

第六章　賞　罰

第廿二條　品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒狀を與ふ

第廿三條　學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず
　一、性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
　二、成業の見込なしと認めたる者
　三、出席常ならざる者
第廿四條　規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第七章　寄宿舍及生徒取締

第廿五條　生徒は自宅より通學する者及び學校長の許可を受けたる者の外總て學校の指定する場所に寄宿せしむ
第廿六條　寄宿は自治自炊制とし舍生をして輪番に之を處理せしむ
第廿七條　生徒取締に關する規程は學校長之を定む

第八章　附則

第廿八條　本校則施行に關する細則及び其の他必要なる內規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
	校主　名譽校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
	顧問　文學博士	笹川種郎	東京府	大正十三年二月
修身、國語、歷史	校長兼教諭	佐藤國二	新潟縣	大正十三年五月
化學、博物、地理、歷史、薙刀	教諭	島田正香	長崎縣	大正十四年五月
數學、物理	教諭	小川源三郎	高知縣	大正十五年四月
英語、歷史	教諭	武仙嶺	滋賀縣	大正十三年四月
國語、習字	教諭	青木三井子	京都府	大正七年一月
教育、作法、家事、國語	教諭	白鳥光子	千葉縣	大正十五年四月
裁縫	教諭	大木とし	千葉縣	昭和二年四月
圖畫、習字、國語	教諭	山內貞	千葉縣	昭和三年二月
裁縫、編物、作法	教諭	小倉治子	千葉縣	昭和四年一月
裁縫	教諭心得	山內春枝	東京府	大正九年十一月
地理	教諭心得	日暮充之助	千葉縣	昭和三年二月
體操	囑託教師	林芙朩	愛知縣	昭和四年四月
音樂	仝	小山滿壽	東京府	昭和四年四月
挿花	仝	櫻井文吉	千葉縣	大正十五年四月
按摩	仝	酒井泰作	福島縣	大正十四年三月
	書記	伊藤總平	千葉縣	明治四十五年四月
	學校醫	山內平治郎	千葉縣	明治四十四年四月

◎成田山女學校卒業生人名（明治四十四年三月 いろは順）（○は結婚の印）

(舊岩瀨)
○藤崎好
○伊藤きよ（舊吉岡）
○石原みや
○幡谷もと
○長谷川りう（舊上原）
○長谷川きみ
戸塚ひさ
○小川とし（舊　丸）
○小田垣近
○泉とみ
吉田とよ
田中あい
○杉山あい
大塚とく
○大木りう
○山野かよ

（舊　丸）
○若林きよ
○香取てい
○深栖喜久
○秋葉ふさ
櫻井ハナ
木内けい
本内欣
三橋タイ
○菅澤いち
鈴木せき

◎卒業生人名現況表 （いろは順）（○は結婚の印×死亡の印）

第一回卒業生 （明治四十五年三月）（一〇）

（岩瀨改）藤崎好　印旛成田
小學校教員　（幡谷改）○平井もと　仝　成田
×由中あい　仝　成田
（上原改）○杉山かね　仝　成田
小學校教員　○大木りう　仝　中郷
（丸　改）○香取てい　仝　公津
○山野かよ代　仝　成田
（木内改）○生田欣　仝　成田
×木内けい　仝　成田
三橋タイ　仝　中郷

第二回卒業生 （大正二年三月）（一二）

（池田改）○勝田ゆき　印旛中郷
松戸高等女學校教諭　池田みち　印旛成田
○石原靜　仝　成田
（林　改）○川村くに　仝　八生
（渡邊改）○林清喜　安房　湊
小學校教員　（加藤改）○竹村きん　印旛中郷
（田中改）○横山菊子　仝　成田
小學校教員　○竹村きく　仝　富里
（中島改）○齋藤朝　君津青堀
（大友改）○石井光子　宮城仙臺
（小林改）○武津キン　東京牛込
（秋葉改）○土屋ふて　山武城東

第三回卒業生 （大正三年三月）（二一）

（伊藤改）○澤田ひさ　印旛八生

×○飯泉しげ　印旛成田
○石原ひろ　仝　成田
（林　改）○谷田部ゆき　仝　成田
（幡谷改）○師岡幸　印旛成田
（土井改）○永塚わき　仝　埜原
○加藤あい　仝　成田
（吉岡改）○鈴木てい　仝　公津
（吉岡改）○鈴木とし　仝　公津
（谷平改）○平山かね　仝　久住
（露崎改）○荒木キク子　長生五郷
（成田改）○綿貫きよ　印旛佐倉
（武藤改）○渡邊さだ　仝　永治
（大島改）○石橋のぶ　仝　八生
小學校教員　○大須賀ゆう　仝　安食
東京和洋裁縫學校卒業　（桑原改）○加藤くに　仝　安食
小學校教員　（山下改）○藤崎たか　仝　成田
（藤崎改）○茂木包　仝　富里
○佐竹和歌子　東京下谷
（宮崎改）○土屋けい　印旛成田
（鹽田改）×○北村菊代　仝　布鎌

第四回卒業生 （大正四年三月）（二八）

（岩井改）○大木美津　印旛安食
×○土井わか　仝　公津
×○蕨くに　仝　公津
（綿貫改）○青柳うめ　茨城取手
（加藤改）○安田もと　印旛成田
神戸もと　仝　成田
×川島フサ　仝　富里
小學校教員　竹村しげ　仝　富里
根本菊　千葉椎名
（並木改）○打木すづ　印旛遠山
武藤きみ　茨城　文
（猪野改）○松戸その　山武　源
戸板裁縫女學校卒業　（平山改）○伊藤ゐい　印旛成田
小學校教員　○大竹たい　香取小御門
（犬木改）○鈴木あやめ　印旛中郷
小學校教員　（黑川改）○行方りき　仝　成田
（桑原改）○岩井なみ　仝　安食
○山野いく　仝　成田
（山田改）○土井滿喜　仝　安食

(山田改)○柴宮よし　印旛八生
(山田改)○齋藤わか　仝　豊住
小學校教員
增岡りき　埼玉藤田
○秋山うめ　印旛八生
東京高等師範學校保育科卒業
天野眞知　夷隅大多喜
×淺倉みつ　印旛安食
湯村とよ　宮城仙臺
(宮内改)○篠原みや　印旛八生
○谷とく　仝　公津

第五回卒業生　(大正五年三月)（二六）

(磯部改)○大野イク　印旛久住
石原ゆう　仝　成田
飯倉きく　仝　成田
○馬場ちよ　仝　宗像
(土井改)○佐羽内とし　仝　六合
小學校教員
小川敬　仝　志津
○高橋きく　香取滑河
×上原こう　印旛成田
小學校教員
野平吉野　仝　豊住
(野平改)○横堀ゆき　仝　豊住

東京裁縫女學校卒業
(大三川改)○尾形木子　香取多古
(大木改)○廣澤てい　印旛成田
(奥澤改)○染谷春野　仝　白井
(山内改)○土肥德子　仝　成田
○山本くに　仝　安食
京增たか　仝酒々井
(藤崎改)○相京くに　仝　遠山
和洋裁縫女學校卒業
小坂ひめ　仝酒々井
日本女子大學卒業
四城寺てい　仝　公津
○齋藤こう　仝　成田
○湯淺うら　仝　八生
○三橋みち　仝　富里
(三橋改)○東たか　仝　成田
平野香根　市原高瀧
(鬪川改)○藤崎鳳　印旛成田
東京共立女子職業學校卒業
鈴木けい　東葛飾明

第六回卒業生　(大正六年三月)（二九）

×岩館かね　印旛遠山
○石原やす　仝　成田
(小川改)○吉原晃　仝　八生

戸板裁縫女學校卒業
萩原美子　印旛千代田
渡貫はる　仝　根津
(川口改)○森田コウ　仝　佐倉
(川崎改)○齋藤よし　仝　公津
○吉岡豊子　仝　木下
○高川綾子　仝　成田
(露崎改)○上原君子　長生五郷
(夏海改)○岩井千代　印旛遠山
○大友らく　宮城仙臺
(武藤改)○井口ミヤ　印旛永治
×大木道子　仝　成田
○大野千代　仝　旭
(國本改)×佐久間とし　仝　富里
(山本改)○鈴木せき　仝　豊住
○山本米　仝　成田
戸板裁縫女學校卒業
山崎たけ　仝　阿蘇
東京女子高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保姆
(淺井改)○瀧澤よし　仝　成田
○相京ひな　仝　公津
齋藤ヨシ　仝　遠山
○京須菊江　仝　成田

佐倉大石裁縫女學校卒業
○水野しま　印旛成田
(宮川改)○寺口きよ　新潟源
(篠田改)○石井喜久重　茨城金江津
女子醫學專門學校卒業
千駄ヶ谷鐵道病院在勤
廣瀬てい　印旛成田
○諸岡米　仝　成田
(須藤改)○五十嵐けよ　仝　六合

第七回卒業生　(大正七年三月)（二七）

日本女子大學卒業
(岩井改)○石野ふち　印旛本埜
(岩井改)○近藤こう　印旛大森
(石井改)○杉野ゐい　仝　豊住
○石川てい　仝　成田
土井きく　千葉大和田
(土肥改)×○鈴木はな　印旛公津
○土肥なつ　仝　公津
○神崎りん　仝　遠山
○加瀬千代　香取多古
○大德三枝　印旛久住
○谷よし　仝　公津
(玉村改)○三橋千代　茨城布川
○山口ふじ　印旛成田

小學校教員 ・山田よし 印旛豊住
○藤崎いし 仝遠山
○小林とし 仝阿蘇
小坂てる 仝酒々井
(後藤改)○高橋とき 仝安食
(遠藤改)○石井はる 仝公津
○茚慶子 仝酒々井
(深山改)○押尾とく 仝六合
(宮内改)○丸きよ 仝八生
小學校教員 (宮内改)○石橋三千江 長生一松
○檜垣千代 印旛久住
×關川利子 仝成田
○諏訪原てる 仝久住
○鈴木きよ 仝成田

第八回卒業生 (大正八年三月) (三二)

五十嵐ゆき 東葛飾布佐
石原つや 印旛四街道
小學校教員 (石上改)●梶谷圭 海上瀧郷
(池田改)○北村喜代 福岡城内
長谷川よし 埼玉小林

・岡部雪子 三重補田
(小川改)○伊藤はつ 印旛八生
×小川喜美 東京淺草
小學校教員 小川きい 印旛八生
×勝田ふみ 仝安食
吉田貤 仝公津
○瀧澤喜久 仝成田
東京共立女子職業學校卒業 ○高川種子 安房北三原
中村はる 印旛成田
(中島改)○加瀬清子 長野四寺尾
女子美術學校卒業 上野なをゑ 東京麻布
大久保しけ 印旛本埜
小學校教員 (大川改)○石橋さい 仝成田
(山田改)○加藤みつ 仝豊住
○山田滿壽 仝安食
○山内とわ 仝成田
(山内改)○佐野泰子 仝成田
小學校教員 (藤崎改)○小倉三代 千葉更科
福田とら 印旛成田
東京共立女子職業學校卒業 (淺井改)○石岡いし 仝成田

(坂本改)○伊藤はま 茨城文間
○湯淺達 印旛八生
東京女子高等師範學校卒業 島田惠 仝酒々井
○日暮てい 仝中郷
○清宮いつ 仝八生
埼玉縣本庄高等女學校教諭(本橋改) ○小島こう 仝本埜
(關川改)○原都 仝成田

第九回卒業生 (大正九年三月) (三一)

女子醫學專門學校卒業 岩館やす 印旛成田
○石井やす 仝酒々井
(石井改)○鶴岡タケ 仝遠山
○伊藤喜代 印旛富里
○伊藤てる 仝成田
飯田敏子 茨城八原
(池田改)○菊地きよ 印旛富里
(土井改)○小出とみ 印旛公津
○土井とし 仝公津
成田高等女學校教諭 ○大木とし 仝成田
小川きよ 仝公津

×小川かく 印旛公津
(小川改)○山田靜 仝八生
和洋裁縫女學校卒業 ○香取操 仝船穗
○川上きく 仝白井
小學校教員 ○谷川はな 仝酒々井
小學校教員 竹村きみ 仝富里
○根木テル 仝豊住
○仲山千代 仝公津
○宇井幾久子 仝成田
小學校教員 ○山田喜代 仝八生
山木ふう 山武日向
○山内貞子 印旛成田
○山本しげ 仝和田
福田光子 仝酒々井
(小林改)○伊藤せい 仝白井
○寺内三枝 仝成田
小學校教員 ○坂田コウ 仝富里
東京津田英學塾卒業 ○宮島賴子 仝大森
大阪府立原尾高女教諭 (三須改)○高知衣 仝川上
○杉田はな 仝安食

第十回卒業生　（大正十年三月）（二六）

		石川婦久	印旛成田
小學校教員		○伊東とも	山武上堺
東京共立女子職業學校卒業	（林　改）	○湯淺君代	印旛八生
東京裁縫女學校卒業		○尾崎サト	山武松尾
	（小川改）	○根本てい	印旛公津
		○小野寺千代子	仝　成田
東京女子高等師範學校保育科卒業 成田幼稚園保姆	（海瀬改）	○高田よしえ	安房稻都
	（神崎改）	○遠藤あい	印旛遠山
		吉岡珙子	仝　木下
	（谷　改）	○檜垣うめ	仝　公津
		中山たつ	仝　成田
		●中越加津子	仝　成田
小學校教員		○葛生かつ	仝　安食
帝國女子專門學校卒業		○山田布知	印旛八生
	（山田改）	○藤崎勢い	仝　八生
		中野哲子	香取高岡
		×○松田さだ	印旛成田
		×丸みち	仝　公津
	（吉田改）	○湯淺千代	東葛飾布佐
		○高川興子	安房北三原
		○谷すい	印旛公津
小學校教員		竹村嘉代	仝　富里
		×増淵才	印旛安食
		小倉松	仝　成田
小學校教員		黒田くに	仝　成田
		山木たか	仝　安食
	（山田改）	○小倉てい	仝　八生
東京女子高等師範學校專攻科卒業		矢野敬	愛媛久米
		○藤崎シン	印旛遠山
東京女子職業學校卒業		藤崎鈴	仝　遠山
東京裁縫女學校卒業		藤崎たい	仝酒々井
		藤崎ふみ	仝　遠山
女子醫學專門學校卒業		小坂とめ	仝酒々井
千葉女子師範二部卒業		○寺木きみ	仝　八生
		○齋藤ゑけ	市原八幡
		×齋藤てい	印旛遠山
		○佐瀬より	仝　八生
	（湯淺改）	●神崎はな	仝　八生
小學校教員		宮崎秀子	長生八積

女子醫學專門學校卒業		兒島愛	茨城金江津
		後藤たま	印旛安食
		○篠田みつ	仝　遠山
	（遠藤改）	○石井ゆう	仝　公津
	（須藤改）	○富井靜子	仝　六合
		○鈴木好枝	茨城布川
	（鈴木改）	○佐山いく	印旛六合

第十一回卒業生　（大正十一年三月）（三八）

	（石橋改）	○伊藤喜代	印旛成田
		○飯倉ひさ	仝　成田
		×秦野とく	仝　公津
		○堀千代	東京大久保
		○堀内三鶴	高知津呂
		大木みつ	印旛八生
		○加藤くに	仝　八生
		○神崎やす	印旛遠山
		×川村長子	仝　成田
		川島まつ	仝酒々井
		田中はな	茨城龍崎
小學校教員		高橋こと	印旛大森
		○篠原芳枝	印旛木下
東京女子美術學校卒業	（日暮改）	○西谷トミ	仝　中郷
		○泉對ヒロ	千葉豊富
小學校教員		萱壽美	匝瑳椿海
		○鈴木とし	印旛成田
		○鈴木錦	秋田本莊

第十二回卒業生　（大正十二年三月）（三九）

		伊藤きわ	印旛中郷
		○岩井きく	仝　大森
保姆		井浦多美	香取小見川
		○石橋なか	印旛成田
		×飯沼つね	仝酒々井
		石原とみ	仝　富里
東京共立女子職業學校卒業	（林　改）	○腰川八千代	仝　八生
		原えつ	仝　佐倉
小學校教員		細川喜與	仝　遠山
		○土井ゑい	仝　公津
	（土井改）	○野平きい	印旛公津
		×土井よゑ	仝　公津
		岡田はな	東葛飾布佐

。大澤しけの　印旛本埜
。大木美代　仝　八街
×小野寺シゲ　仝　成田
小倉茂子　仝　成田　小學校教員
太田鹿子　仝　公津　和洋裁縫速成科卒業
勝田俊　仝　八生
海保けい　茨城金江津
。吉橋きん　印旛　旭
椿たき　香取滑川
並木菊子　印旛遠山　小學校教員
鶴澤喜代　山武蓮沼
。山木くに　印旛八生　小學校教員
山本佐多　仝　和田
増田温子　仝　成田
。京増はる　仝酒々井
藤崎まつ　仝　安食
。後藤瑞子　仝　八生
小池よし　仝　遠山
安達靖子　印旛遠山　小學校教員
相京いく　仝酒々井

秋山ツヤ　印旛中郷　小學校教員
櫻井けい　香取小見川
×島田輝代　印旛酒々井
平野江榮　仝　八生
。平山まさ　仝　成田　京都同志社在學
平山とつ　仝　成田

第十三回卒業生（大正十三年三月）（四七）

石川あけ　印旛成田
岩田ゑ美　仝　布鎌
石原節　印旛安食
。豐田登代　仝　成田
。土井てい　仝　公津
及川ナカ　匝瑳　榮　女子職業學校在學
岡田けん　印旛本埜
大木まつ　仝　中郷　小學校教員
大久保ちか　仝　本埜
小川貞女　仝　八生
小川ふじ　仝　八生　小學校教員
綿貫綾子　仝酒々井　小學校教員
片岡とよ　印旛成田

吉岡誠　印旛中郷
玉村ハナ　茨城布川
。高槻洋子　福島木幡　小學校教員
高橋しのぶ　香取滑川　小學校教員
瀧澤喜代　印旛成田
中島さき　仝　安食　小學校教員
仲山勢い　仝　公津
野口とき　仝　豊住
山田かつ　仝　成田　小學校教員
山内總江　仝　成田
。山口ひで　仝　八生
。松田ふく　仝　成田
増田とき　香取加藤洲
。藤原せつ　仝小御門
船橋ツネ　印旛成田　日本女子大學校家政科卒業
紺谷満枝　仝　成田
小泉繁子　仝　成田
秋山みつ　仝　八生　小學校教員
青野むつ　香取高岡
相京タク　印旛公津

齋藤あい　印旛遠山
齋藤きよ　仝酒々井
×佐伯とみ　長生土睦
湯淺ゆう　印旛八生
湯淺つね　仝　八生　女子職業學校卒業
×三橋孝子　仝　成田
。宮川幾子　仝酒々井
宮内はる　仝　八生
島田清　仝酒々井　東京女子大學校在學
。平山とし　香取多古　和洋裁縫學校卒業
關川昭　印旛成田
鈴木トシ　仝　公津
鈴木つる　茨城布川
菅谷とし　仝　白鳥

第十四回卒業生（大正十四年三月）（四四）

×石井かつ　印旛富里
岩館はる　仝　成田　實踐女學校專攻科在學
飯田ちよ　茨城金江津
•伊藤みつ　印旛八生
石橋あき　仝　中郷　小學校教員

林〆子	印旛成田	
長谷川のぶ	仝 成田	
大澤敦	仝 八生	體操學校卒業
岡田喜美	埼玉與野	女子藥學校在學
小倉治子	印旛成田	女子職業學校卒業
小倉まさ	仝 富里	
大木ヤヰ	印旛中郷	小學校教員
大木ゆき	仝 八生	
小川春子	仝 八生	小學校教員
大竹かね	仝 富里	
竹尾きよ	印旛和田	
中野美津子	香取高岡	實踐女學校專攻科在學
永田順子	印旛成田	小學校教員
○野島律	仝 豊住	
牧野とし	仝 成田	
○丸よし	仝 公津	
○京須八重	仝 成田	
藤崎けい	仝 遠山	
○藤倉しげ	仝 成田	
（文屋改）○吉川壽	仝 成田	
小林ハル	茨城金江津	櫻井女塾卒業
越川富美子	印旛木下	
後藤てる	印旛八生	
○後藤歌	仝 安食	
遠藤ゆき	仝 公津	
手島せつ	仝 遠山	和洋裁縫學校卒業
○秋山ふさ	仝 八生	
相川とく	仝 公津	小學校教員
×青柳のぶ	仝 公津	
齋藤きよ	仝 公津	
坂田信	仝 富里	
木内つね	仝 酒々井	
湯淺てい	仝 八生	
莊司つる	仝 成田	
諸岡ます	仝 成田	
○諸岡以喜子	仝 成田	
關口しげ	仝 久住	
鈴木こと	仝 富里	小學校教員
齋藤いと	仝 木下	

第十五回卒業生　（大正十五年三月）（四五）

石橋たみ	印旛成田	
石橋つたい	香取滑川	千葉高女補習科卒業
石橋とよ	印旛中郷	
石原せつ	印旛富里	土岐裁縫女學校在學
石川せつ	仝 富里	
○伊藤千代	仝 白井	
池田穎子	山武千代田	
今井春子	印旛成田	和洋裁縫女學校卒業
堀江智惠	仝 成田	
戸村千代	仝 和田	土岐裁縫女學校卒業
小川つぎ	仝 八生	小學校教員
小川みち	仝 公津	臨時教員養成所
小倉梅	仝 成田	
小野寺アイ	仝 成田	女子高等學園卒業
小倉とり	仝 成田	
渡邊愛	仝 成田	女子師範二部卒業小學校教員
加藤きん	仝 成田	
勝田倭	仝 安食	
吉岡たか	仝 北須賀	
多田喜代	仝 公津	
高橋さゆり	香取滑河	女子師範專攻科卒業
高橋さだ	茨城金江津	
野々宮みつ	印旛成田	
葛生ちよ	仝 久住	
柳木喜惠子	印旛成田	
山崎きく	仝 豊住	
淺井壽	仝 成田	女高師保育科卒業
麻生菊枝	山武千代田	小學校教員
青木こう	印旛木埜	
青山ま津	茨城金江津	茨城女子師範二部卒業
佐久間かつ	印旛成田	
佐伯智惠子	仝 成田	
○木村よし	香取多古	
木下けい	印旛成田	日本女子大學校在學
龍崎しつ	仝 遠山	
湯淺公己	仝 八生	
湯淺みつ	仝 八生	
椎名靜	仝 大森	女子高等學院在學
柴崎ゆき	仝 大森	
●平山いち	仝 成田	

檜垣穎	印旛久住	
森谷ミネ	仝成田	
菅谷幾世	仝成田	
鈴木とみ	仝成田	家政學院在學
鈴木喜惠	仝船穗	

第十六回卒業生（昭和二年三月）（四六）

石井イワ	印旛豐住	
石原あや子	仝富里	
岩澤利子	仝遠山	女子美術學校在學
岩瀬かつ	仝成田	
伊藤登美	仝永治	小學校教員
林田まさ	仝成田	
豐田喜美	仝成田	和洋裁縫女學校卒業
大竹さと	仝富里	
大久原節	仝成田	女子高師保育科卒業
勝田よし	仝八生	
梶谷ミツ	仝安食	
吉岡薫	香取滑河	
高橋あゑ	印旛公津	女子職業學校在學
高橋よね	仝成田	千葉高女家庭科卒業
瀧澤由子	仝成田	千葉高女家庭科卒業
中島こう	印旛成田	小學校教員
中野雪子	香取大榮田	實踐女學校專門部在學
桑原米	印旛豐住	
古矢春子	仝成田	
◦藤倉さだ	仝成田	和洋裁縫女學校卒業
荻原あい	仝豐住	
小倉みち	仝八生	
小倉タケ子	仝成田	小學校教員
渡邊すま	仝成田	
渡邊よし	仝成田	小學校教員
渡邊ゆき	仝成田	
加藤淑	仝八生	
片岡てる	香取多古	大妻裁縫女學校在學
片岡れく	印旛遠山	
神崎榮	仝遠山	
福田やす	茨城金江津	
秋山テル	印旛中郷	
秋山とる	仝八生	
手島愛	仝千代田	土岐裁縫女學校卒業
寺內八重	仝成田	
堺けい	仝成田	

坂田リウ	印旛富里	
齋藤よし	仝公津	
齋藤なみ江	仝公津	
木內ふじ	香取多古	
湯淺とし	印旛八生	
水野愛子	仝成田	土岐裁縫女學校卒業
宮田節	仝成田	
平山しづ	香取多古	女子美術學校在學
（諸岡改）◦藤倉貞子	印旛成田	
諸岡琴子	仝成田	千葉高女家庭科卒業

第十七回卒業生（昭和三年三月）（四九）

石川きく	印旛成田	
石川ちか	仝遠山	
石川文枝	仝成田	
伊藤ハル	仝遠山	
飯塚まつ	仝成田	
林花子	仝成田	
土肥みさほ	仝公津	
鳥居薫	仝成田	渡邊裁縫學校在學
小川そに	仝公津	
小川のぶ	印旛中郷	
小倉豐	仝成田	
小倉えい	仝成田	
太田愛知夫	仝公津	
◦大島春江	仝八生	
荻原とみ	仝豐住	大阪女子藥學校在學
渡邊つる	仝成田	
神戸光子	仝成田	
加藤カツヱ	仝公津	障蔽女學校在學
加瀬な美	仝遠山	
海保富美代	茨城金江津	山脇高女、家政科在學
多田光子	印旛公津	
大德愛子	仝成田	
竹尾ます	仝酒々井	
長竹勅子	仝成田	東京女子高等學院在學
野口七五三	仝豐住	
葛生つる	仝安食	
久保庭菊江	仝成田	小學校教員
郡司和歌子	仝遠田	
矢村仁枝	仝公津	
矢村美都江	仝公津	小學校教員

山田とよ　印旛八生
幼稚園保姆見習
山木雅子　仝　成田
山木幸　仝　安食
丸千代　仝　公津
増淵英子　仝　成田
藤江和子　仝　安食
藤崎コト　仝　遠山
圓城寺つね　仝　公津
青木トク　仝　本埜
弘前和洋裁縫女學校
秋山弘　仝　富里
師範二部
佐久間ふみ　仝　成田
木内しげ　仝　成田
湯淺ちい　仝　八生
湯淺つる　仝　八生
清水文代　仝　遠山
島田治子　仝　成田
鈴木志津　仝　成田
鈴木隆子　仝　木下
鈴木ぎん　茨城布川

第十八回卒業生（昭和四年三月）（四七）

千葉縣女子師範第二部在學
池田いく　印旛安食

石橋はつ　仝　成田
伊藤千代　仝　八生
稻葉文子　仝　公津
遠藤ゝに　仝　公津
細川喜美　仝　遠山
木多ちよ　仝　遠山
堀井正子　仝　成田
小野寺キク　仝　成田
小山マス　仝　六合
大木貞子　仝　成田
佐倉大石裁縫女學校在學
渡邊もと　仝　成田
勝田まさ　仝　安食
勝又千代　仝　遠山
千葉縣女子師範第二部在學
吉岡きみ　仝　公津
高久繁　仝　安食
高川春野　仝　成田
谷信　仝　公津
根本敏子　仝　豊住
松戸高等女學校補習科
成島きい　仝　大森
宇島みさを　夷隅國吉
和洋裁縫女學校在學
郡司秀　香取日吉

黒川ト喬　印旛成田
山田包子　印旛公津
山口精　仝　公津
藤崎きく　仝　成田
藤崎のぶ　仝　安食
佐倉伊藤裁縫女學校在學
藤崎千代　仝　成田
越川春江　仝　遠山
日本女子大學校在學
小林富子　仝　成田
千葉女子師範學校二部在學
安達有年子　仝　遠山
荒井たまほ　仝　布鎌
秋山節　仝　中郷
坂本富美代　香取滑河
坂田米　印旛富里
戸板裁縫女學校在學
菊地喜代　印旛公津
木内とよ　香取滑河
佐倉伊藤裁縫女學校在學
湯淺きよ　印旛公津
三橋壽子　仝　公津
新橋千代　仝　成田
白田キワ　山形大谷
日暮環　印旛成田
瀬尾ふく　仝　安食

鈴木きい　印旛公津
鈴木秋江　仝　公津
鈴木ふち　仝　成田
佐倉高等女學校補習科
鈴木君江　仝　公津

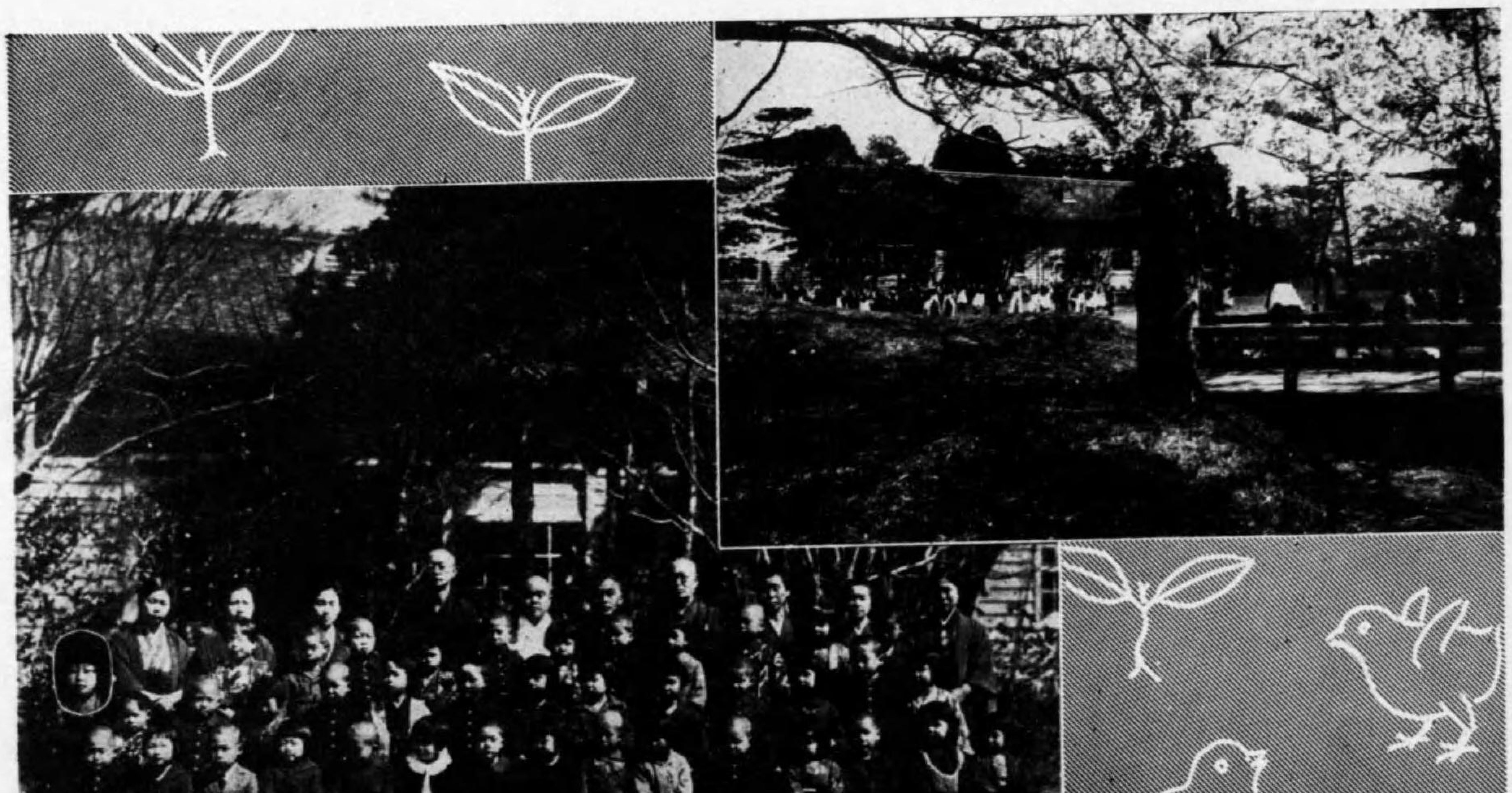
◎經費統計概表

年度	俸給	傭給	手當	賞與	旅費	需用費	營繕費	雜費	準備費	合計
四十四年度決算	二六三三、八四〇	一〇八、〇〇〇	七二、〇〇〇	二二三、六九〇	四五、六〇〇	六二三、八二〇	二八三、六八二	二七七、一六〇		四四四七、七九二
四十五年度決算	二六五二、三七〇	一〇八、〇〇〇	六二、〇〇〇	二一九、六〇〇	一〇〇、八〇〇	八八三、〇三〇	八〇、八三二	二八三、八八五		四八九二、五七六
大正二年度決算	四一〇五、一九〇	一〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	五八二、三九〇	六八、三二〇	九四四、七七五	九一八、四二五	四三二、五三〇		七二九五、五一〇
大正三年度決算	四三二四、二二〇	一二四、二〇〇	三六、〇〇〇	二二五、四〇〇	九三、〇〇〇	九三七、七二五	五〇一、八六五	四五〇、五一〇		六七〇三、一八〇
大正四年度決算	四五二〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇	三六、〇〇〇	三七〇、〇六〇	一一〇、一五〇	一三〇六、六一五	四五二、八一三	七四五、〇五四		七五六三、六九二
大正五年度決算	四七七八、九二〇	一三二、〇〇〇	三六、〇〇〇	二七七、四九〇	一四七、一一〇	八三五、八三七	二四三、五〇〇	五七二、五〇〇		六六三二、三三七
大正六年度決算	四八五四、六八〇	一四六、〇〇〇	三六、〇〇〇	九七二、九二〇	二三〇、八二〇	七二四、〇〇〇	一六一、七三〇	三五七、七〇六		七四八四、〇〇六
大正七年度決算	五一五八、七五〇	一九六、〇〇〇	三六、〇〇〇	五六八、六九〇	九七、四三〇	六八一、一五五	三一四、一七〇	五三五、九四八		七五七八、一四三
大正八年度決算	八三三二、六七〇	三〇二、〇〇〇	三六、〇〇〇	四〇〇、一〇〇	二三〇、四九〇	一七六九、四六〇	五七三、二〇六	一〇八九、五四〇		一三九三三、五六六
大正九年度決算	一〇一七二、六七〇	四〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	一一七五、六二〇	二六八、五五〇	一〇七六、一四〇	五二五、七七五	一四三六、九六四		一五一二八、六一九
大正十年度決算	六六三五、四四〇	四二〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	一三九四、四五〇	二四一、三六〇	一六九二、四三九	五九四、一六七	一三三四、五一〇		一五三四八、三六六
大正十一年度決算	九六六八、四一〇	四五六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一九二二、二〇〇	四三九、一二〇	一八三一、七三〇	八七二、九九五	一八七五、六三五		一六〇七一、一六〇
大正十二年度決算	九七六六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇六八、六六〇	一三七、〇〇〇	二三七七、七六三	六八九、一八五	二〇九一、七七五		一五八五六、三八三
大正十三年度決算	一一七三三、三六〇	四五六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一六七三、五五〇	五三四、〇八〇	二九四〇、五〇五	四六九八、三〇五	二〇八三、一九五		二四一〇七、九四五
大正十四年度決算	一一二四〇、六〇〇	四五六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二〇四八、五〇〇	七〇七、一三〇	三五四〇、五四三	二七四七、七五〇	二四七二、六〇六		二三一七三、一三九
昭和元年大正十五年度決算	一二〇一五、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二二四三、〇〇〇	七一九、〇〇〇	三五〇七、八五〇	二二六〇、〇七一	三四八八、二四〇		二五六一三、一六〇
昭和二年度決算	一二三六一、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二三九三、〇〇〇	五三七、九七〇	一八八七、六六〇	六六三一、六三〇	三三七七、六二〇		三三四六八、八八〇
昭和三年度決算	一五二八三、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二三八六、〇〇〇	五六一、三七〇	一五四九、七一〇	一〇一五、五五〇	二三二三、七〇〇		二三五八九、三三〇

成田幼稚園一覽

園歌……………七一
沿革略……………七三
設備の狀況……………七三
職員……………七三
經費……………七三
入退園及年度末現員調……………七四
保育修了幼兒數……………七六
保育料……………七六
保育の狀況……………七六
年中行事……………七六
規則……………七六
保護者心得……………七八

遊園

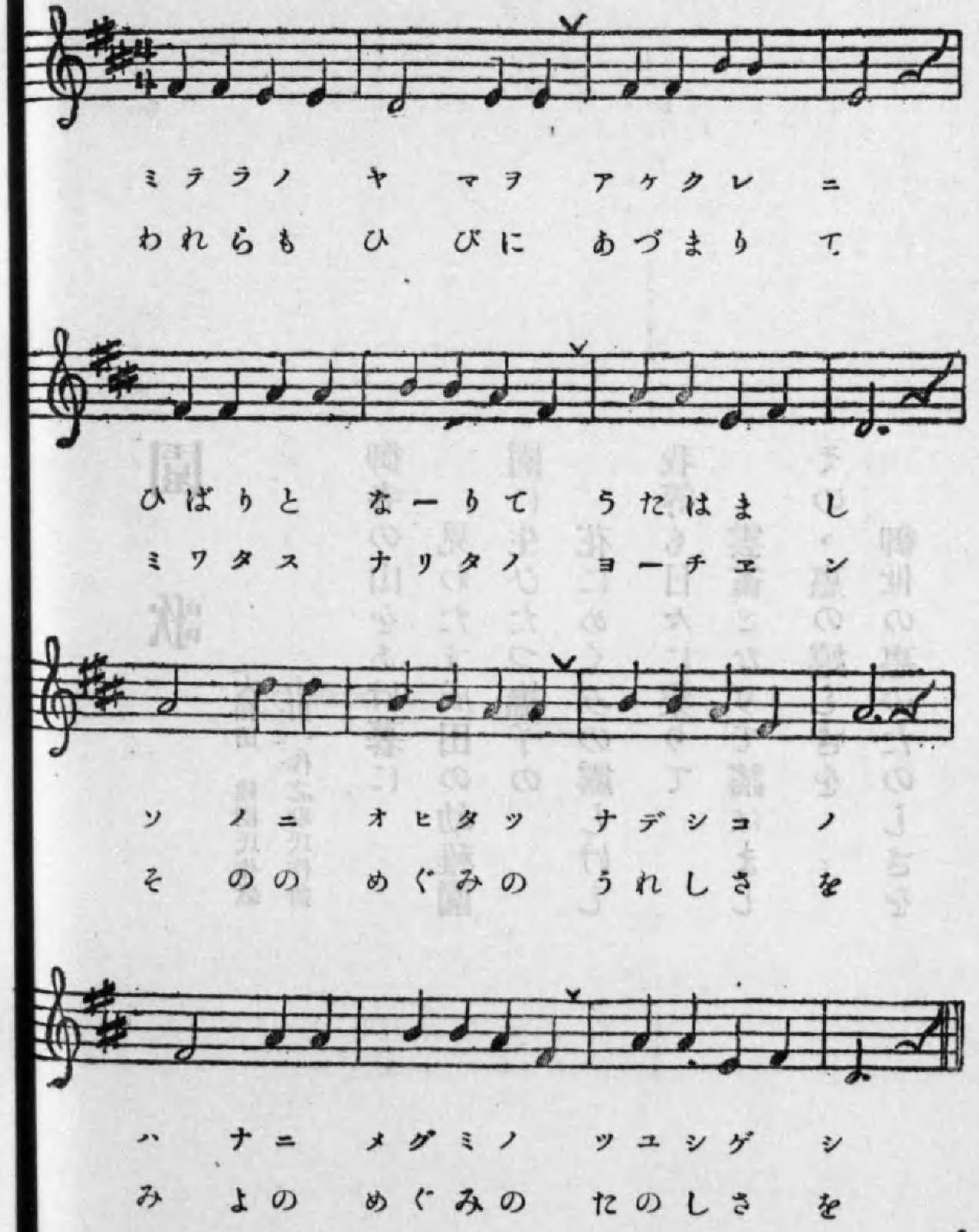


職員及第二十四回保育修了者

園歌

大和田　建樹氏作歌
小山　作之助氏作曲

御寺の山をあけ暮に
　見わたす成田の幼稚園
園に生ひたつ撫子の
　花にめくみの露しけし
我等も日々に集りて
　雲雀となりて謡はまし
そのゝ恵の嬉しさを
　御世の恵のたのしさを



私立成田幼稚園一覽

◎沿革略

創立　本園は明治三十八年五月成田小學校内に假保育を開始し同六月一日同校内に開園式を擧行同三十九年六月現在の新築園舍に移る

位置　成田町小字向臺と稱する綠の森に包まれた高燥な地域にして四方の眺望又四季の風光に富む

◎設備の狀況

一總坪數　參千百八拾九坪　　一遊園貳千八百餘坪

一建坪　貳百五拾餘坪

園舍及附屬建物は皆平家建とし保育室三。園長室兼。圖書室應接室。靜養室。準備室。職員室の拾室。小使室附屬建物職員住宅二棟とす

園舍の設計は斯道に名ある服部文部省技手之に當る

園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして理事石川甚兵衞關川博道淺井儀助の三理事之を補佐し淺井儀助專務理事兼會計主任關川博道園醫を兼ぬ

職員は六名にして保姆專ら保育の任に當り主任指導監督す

◎職員

職名	姓名	原籍	就職年月日
主任	山口政子	德島縣	大正三年十月十四日
保姆	若命喜美	神奈川縣	大正十年三月一日
保姆	瀧澤よし	千葉縣	大正七年十一月一日
保姆	高田よしゑ	千葉縣	大正十年五月一日
保姆	那須幸子	千葉縣	大正十五年十月一日
代保	山本雅子	千葉縣	昭和三年四月一日

◎經費

一金壹萬四百七拾壹圓八拾五錢　　敷地買入及新築費、落成式費（自三十八年六月至四十年三月）

一金參千五百八圓八拾五錢　（四十年度）

一金壹千八百八圓拾七錢　（四十一年度）

一金壹千九百四十圓四十錢　（四十二年度）

一金壹千五百二十七圓三錢　（四十三年度）

一金壹千七百二十五圓四十三錢　（四十四年度）

一金壹千九百三十五圓七十錢　（大正元年度）

一金壹千九百二圓九十五錢

一金貳千壹百四十圓十五錢　（大正二年度）
一金貳千參百四十一圓十五錢　（大正三年度）
一金參千百四十六圓五十一錢　（大正四年度）
一金壹千九百九十壹圓三十五錢　（大正五年度）
一金壹千九百五十四圓七十九錢　（大正六年度）
一金貳千四百五十九圓七十三錢　（大正七年度）
一金三千四百九十五圓九十七錢　（大正八年度）
一金三千六百九十五圓二十六錢　（大正九年度）
一金四千九百四十九圓九十錢　（大正十年度）
一金六千六十九圓九十八錢　（大正十一年度）
一金五千百五十一圓八十錢　（大正十二年度）
一金五千六百五十八圓二十四錢　（大正十三年度）
一金五千三百九十八圓八十九錢　（大正十四年度）
一金五千八百三十二圓九錢　（昭和元年度）
一金五千七百六十二圓三十七錢　（昭和二年度）
一金六千八百參拾貳圓參拾壹錢　（昭和三年度）

合計　金九萬壹千七百圓八十七錢

最近三箇年經費平均額
金六千百四十二圓二十八錢

◎入退園及年末現員調

年度		入園	卒業	中途退園	死亡	年度末現員
明治三十八年度	男	四二	一三	四	〇	二五
	女	三九	九	六	一	二三
明治三十九年度	男	二三	一五	九	〇	二四
	女	三〇	二三	七	一	二二
明治四十年度	男	二六	二二	一〇	〇	一八
	女	二六	二〇	四	〇	二四
明治四十一年度	男	二六	一二	六	〇	二六
	女	二四	一五	七	〇	二六
明治四十二年度	男	三一	二〇	一一	一	二五
	女	三一	一九	五	〇	三三
明治四十三年度	男	二九	一七	七	〇	三〇
	女	二二	二〇	九	〇	二六
明治四十四年度	男	四九	二三	一七	〇	三九
	女	四一	一七	一〇	〇	四〇

年度		入園	卒業	中途退園	死亡	年度末現員
大正元年度	男	二五	一九	二	〇	四三
	女	二五	一九	四	〇	四二
大正二年度	男	二〇	二九	九	〇	二五
	女	三〇	二六	六	二	三八
大正三年度	男	二〇	一三	六	三	二三
	女	二六	一六	九	〇	三六
大正四年度	男	二六	九	九	〇	三一
	女	三二	一八	一三	〇	三八
大正五年度	男	二五	一五	一二	〇	三〇
	女	二四	二〇	九	〇	三二
大正六年度	男	三〇	二二	一	一	三五
	女	二八	一八	六	〇	三六
大正七年度	男	二五	二一	〇	四	三六
	女	二八	二〇	四	一	三九
大正八年度	男	二六	二一	四	〇	三七
	女	二一	二四	六	一	二九

年度		入園	卒業	中途退園	死亡	年度末現員
大正九年度	男	二二	二一	二	一	三四
	女	一九	一六	七	〇	二七
大正十年度	男	三一	二三	七	一	三四
	女	二六	一九	七	〇	二七
大正十一年度	男	二五	二〇	一一	〇	二九
	女	一九	一二	四	〇	二九
大正十二年度	男	四〇	一八	一六	〇	三五
	女	三二	一七	九	〇	三四
大正十三年度	男	二八	二六	七	〇	三〇
	女	二一	二四	三	〇	二八
大正十四年度	男	三〇	二一	六	一	三二
	女	二一	二一	〇	三	二五
大正十五年度 昭和元年度	男	三二	二〇	七	〇	三七
	女	二五	一七	五	一	二七
昭和二年度	男	一九	二一	七	〇	二八
	女	二八	一六	五	一	三三
昭和三年度	男	一八	一八	一	〇	二七
	女	二三	二三	二	〇	三一

右の外昭和四年四月末日調査現在園兒數
男 四十八人 女 五十二人 計一〇〇人

◎昭和三年度保育修了幼兒數 一八 二三 計四一

保育期間	修了兒姓名	保育期間	修了兒姓名	保育期間	修了兒姓名
三年	川口峯作	仝	石橋咸一郎	仝	久保田かつ子
仝	小倉信雄	仝	森春	仝	大阪すみ子
仝	杉山芳枝	仝	秋山ふみ子	仝	川名部俊子
仝	坂本益男	仝	小田垣美代子	仝	石井啓助
仝	三橋博雄	仝	大木禮二	仝	大塚清三
仝	大沼新一	仝	飯田孝子	仝	京須久雄
仝	山内八重子	仝	淺岡仲江	仝	宮内すみ
仝	石崎喜與氏	仝	藏重貞子	仝	櫻井克衞
二年六ヶ月	石渡達藏	二年	石井リラ子	仝	潮田精三
仝	大川セツ	仝	渡邊よね子	仝	伊藤友巳
仝	森谷忠正	仝	田中靜枝	仝	加藤みち子
仝	島村貞雄	仝	山田繁	仝	清宮谷枝子
仝	堺明子	一年六ヶ月	佐久間かね	仝	瀧澤カツ子
一年	及川有朋				

◎保育料

明治三十八年開園當時より數年前迄全額五拾錢半額貳拾五錢なりしも其後全額壹圓、半額五拾錢に變更し昭和四年四月より全額二圓半額壹圓に變更す

◎保育の状況

幼兒は滿三歳より學齡までを收容三年保育とす
園兒九十五名を定員とし之を三組又は四組に編成し保育時間は季節に依り長きは四時間短きは二時間とす
保育課目は唱歌・遊嬉。談話。觀察。手技とす
幼兒の身體檢査は五月十月の兩度に行ふ
遊園の貳千八百餘坪は全部芝生にして幼兒一人につき約三十坪の遊園を有す庭は年經たる樹木繁茂し幼兒を喜ばす雜草は嵤生し幼兒はこの惠まれた自然の庭園で觀察資料は豊富に身體は益々强健に育くまれゆく又植物發育狀況觀察のため十坪程の畑地を備へ幼兒自ら種を下して發芽より結實までを親しく觀察す

年中の行事

一月八日 新年始業式　二月十一日 紀元節
三月三日 雛の節句　三月二十日 保育修了式
四月七日 入園式　四月廿九日 天長節
五月五日 端午の節句　六月一日 創立記念日

◎私立成田幼稚園規則

第一條 本園は滿三年より學齡までの幼兒を收容し滿二年以上在園の者に限り入園を許す
但他の園より轉ずるものは臨時入園を許すことあり

第二條 入園は四月九月の兩度とす
第三條 保育課目は唱歌。遊嬉。觀察。談話。手技とす
第四條 保育時間五時間以内とす
第五條 本園收容幼兒の定員は九十五名とし年少の組は二十名を限度にして他を三組に編成す
第六條 休業日を左の如く定む
一祝日 大祭日及日曜日
一皇后陛下御誕辰日
一春期休業 自三月二十日至三十一日
一記念日 六月一日
一夏季休業 自八月一日至三十一日
一冬期休業 自十二月二十五日至一月七日
第七條 入園希望のものは本園規定の書式に依り其旨申出許可を受くべし（但書式は本園より交付す）
第八條 退園は其理由を申出づべし入園後二ケ月無屆欠席の場合は退園者と認め名簿より除く
第九條 二年以上在園の幼兒にして保育修了の際保育修了證書を與ふ 但二年以内にても特に入園を許可されし者にも證書を與ふ
第十條 幼兒及保護者に於て轉居の場合は屆出づべし
第十一條 保育料は一人一ケ月金二圓とし一家族にして二人以上なるときは一名を二圓とし其他を半減とす欠席全月に亘る時は徵收せず毎月五日迄に保育料は納付すべし

入園證書　何の誰

右は今般貴園に入園御許可相成候に付ては本人に關する一切の事件拙者引受可申候也

右幼兒保護者
千葉縣印旛郡成田町大字何番地
何の誰

昭和　年　月　日
私立成田幼稚園長 荒木照定殿

經歷書項目

生父健否年齡
生母健否年齡
兄　人　姉　人
弟　人　妹　人
生母ノ乳　乳母ノ乳
牛乳　里子

一生來重キ病ニ
カヽリタルコトノ有無
一性質習慣ノ
著シキモノ

右御報告申上候也

昭和　年　月　日　幼兒　保護者

私立成田幼稚園御中

◎私立成田幼稚園幼兒保護者心得

一家庭と幼稚園の連絡に關する事
幼兒の保育に關しては幼稚園と家庭と相待ちて協力するにあらざれば効果を得ること能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應じて保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關して當園の冀望する所を擧げんに概ね左の如し

一家庭より當園の事に付疑義あるか或は幼兒の事に關して擔任保姆に問合せ又は協議せられたき事あらば何事にても遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし

二父母兄姉並に直接に幼兒の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭の保育に參考せられんこと當園の最も冀望する所也又毎年春秋二回特に保育懇話會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり是一は實地保育の模樣を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其都度通知すべければ成べく來會ありたし

一幼兒付添人に關する事
當園に於ては幼兒付添人を要せず
但往復途中の送迎は隨意たるべし

一幼兒の遊戲に關する事
遊戲は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものなれば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂暴に涉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付きても亦能く其良否を甄別せられたし又幼兒の記憶に任せ讀書等を授けらるゝ向もまゝあるよしなれども是等は幼兒の發育に害あるも益なかるべければ注意せられたし

一幼兒服裝に關する事
幼兒の服裝は成るべく質素にして遊戲運動等に便利なる者を用ひ從つて地質は綿布麻布の類とし仕立方を筒袖とせられたし

一幼兒の携帶品に關する事

幼兒在園中に用ふべき器具等は總て當園にて貸與すべきが故に手拭鼻紙等必要なる物品の外に幼兒に携帶せしめざる樣致したし
帽子辨當傘の携帶品には一々氏名を記し置かれたし

一幼兒の往復に關する事
幼兒の往復は充分に保護せらるべきは勿論なれども風雨其他疾病遠路特別の事情ある時の外は成るべく徒步せしめられたし

一幼兒の缺席並に家庭の疾病等に關する事
幼兒の缺席一週を越ゆるときは口頭或は書面にて詳に其事由を届出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は惡疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼兒の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して届出でらるべし
但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、虎列剌、赤痢、ジフテリア、ペスト等を云ふ

一保護者の異動に關する事
保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直に届出でらるべし

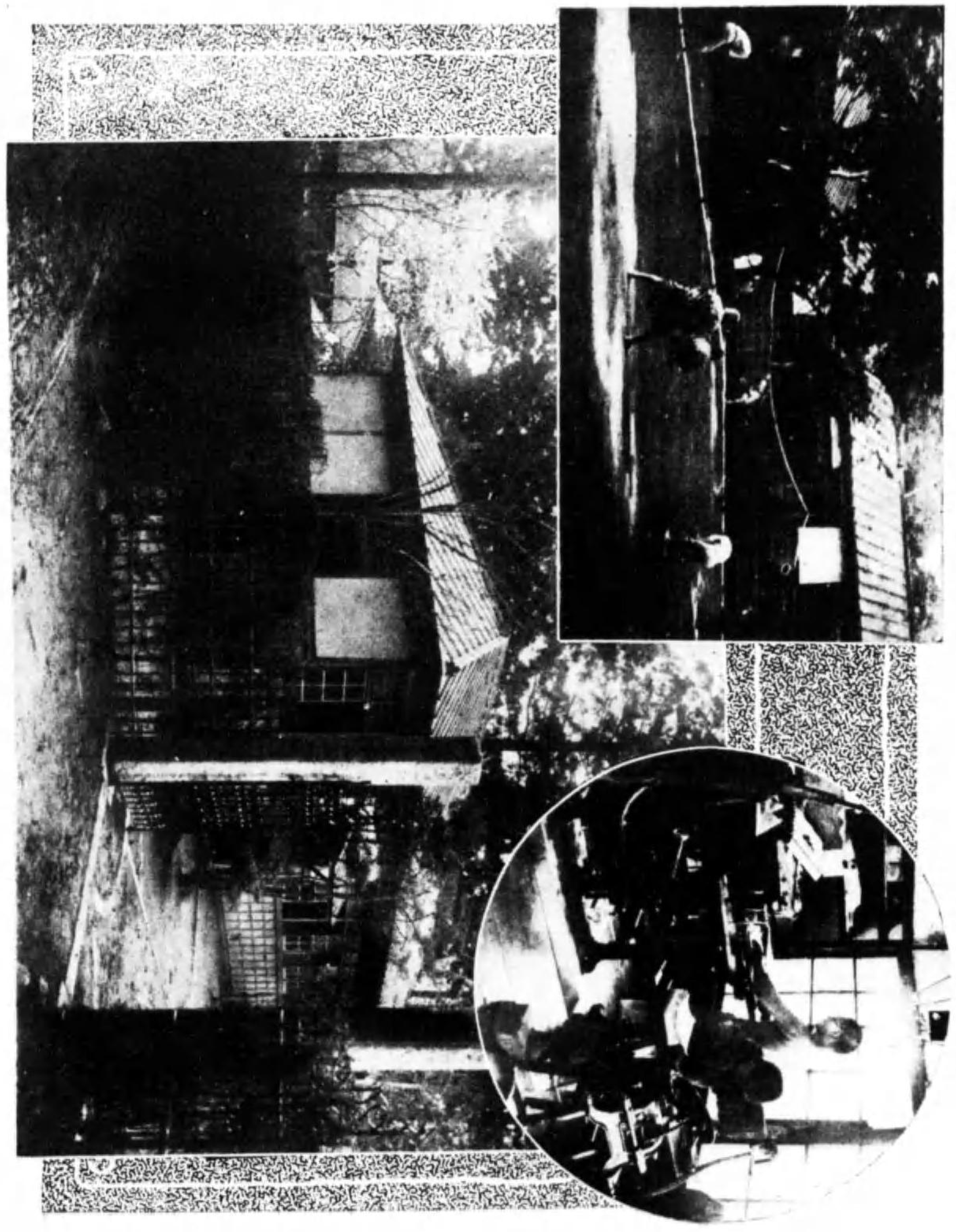
成田學園一覽

今日一日の務
平面圖……八一
沿革要項……八二
位置……八三
建物……八三
職員……八三
主要事項……八四
生活……八六
入園……九〇
退園……九一
成績……九一
經費……九三
基本金の蓄積……九四
感謝錄……九四

露光量違いの為重複撮影

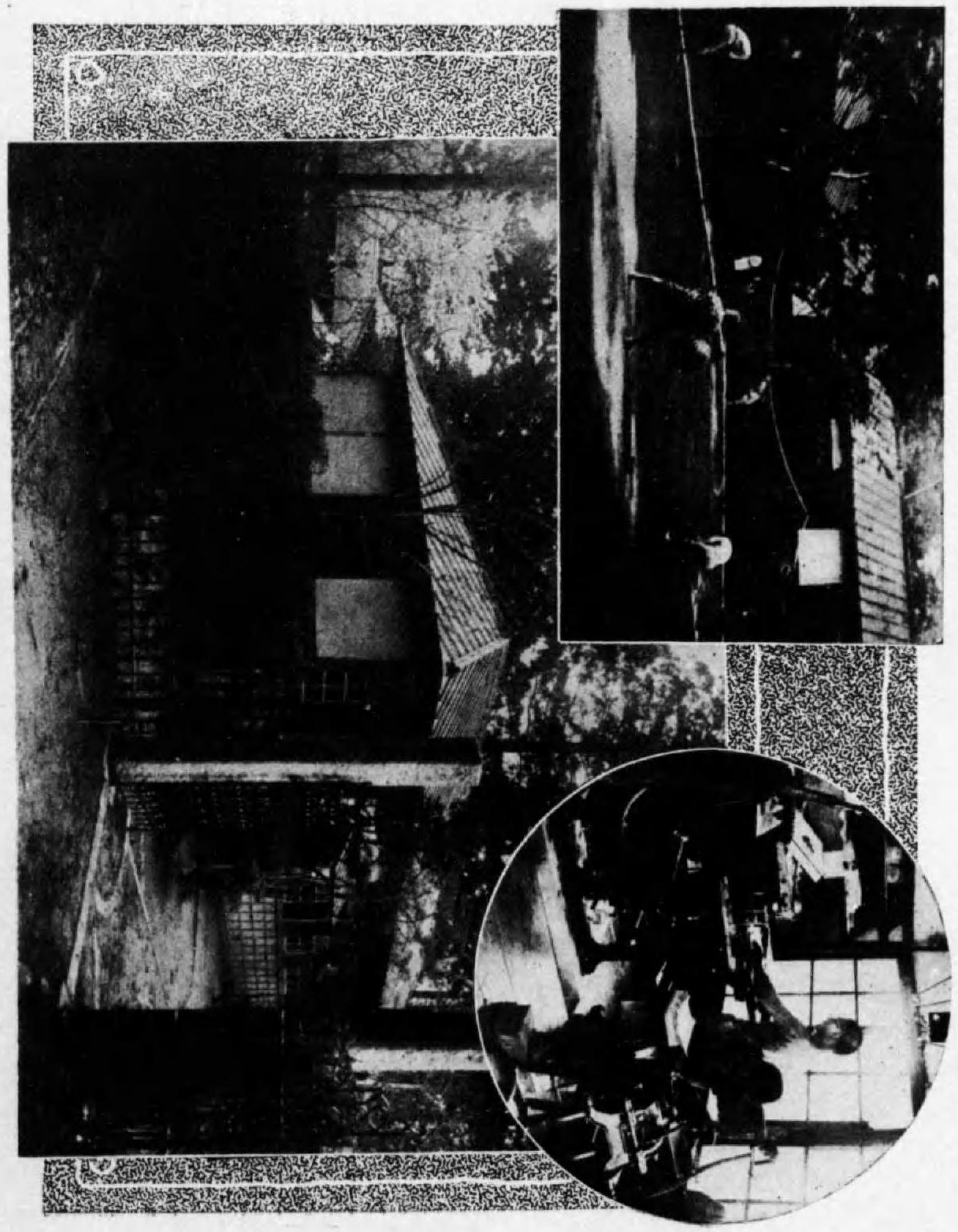
今日一日の務

一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
五、今日一日常に正直を旨とし決して虚偽を言はぬ事
六、今日一日能く勉學し能く仕事を働く事
七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
九、今日一日腹を立てぬ事
十、今日一日仕事に倦きない事
十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
十五、今日一日出來る丈多く善行を積む事
右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし



園内運動場
園内印刷工場
成田學園正門

露光量違いの為重複撮影



園内運動場

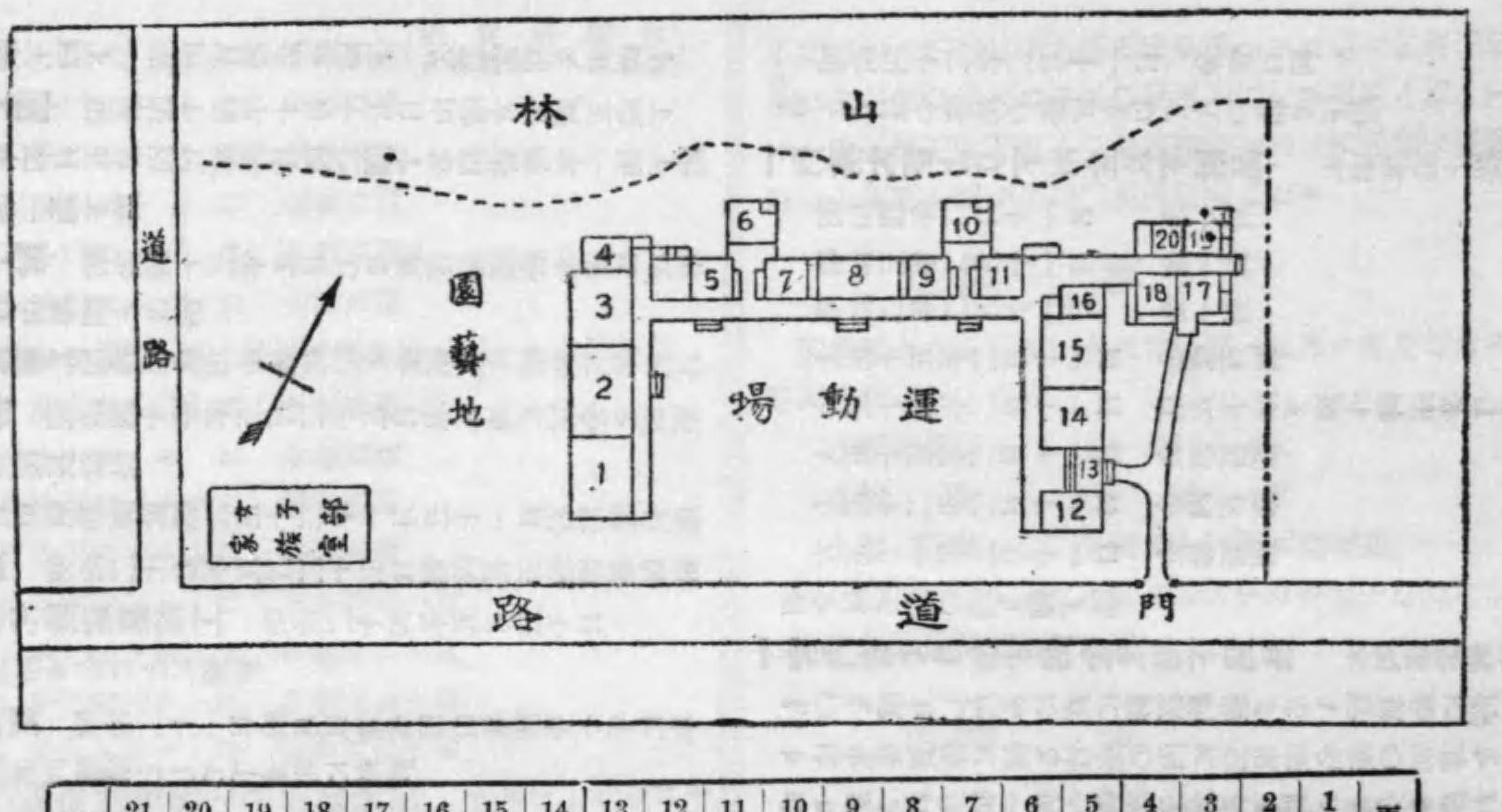
園内印刷工場

成田學園正門

今日一日の務

一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
五、今日一日常に正直を旨とし決して虚僞を言はぬ事
六、今日一日能く勉學し能く仕事を働く事
七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
九、今日一日腹を立てぬ事
十、今日一日仕事に倦きない事
十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
十五、今日一日出來る丈多く善行を積む事
右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

私立成田山學園全圖



面積千百二十五坪		
1	講堂	
2	圖書室	
3	教室	
4	生徒室	
5	生徒室	
6	教師室	
7	生徒室	
8	手工場	
9	生徒室	
10	教師室	
11	生徒室	
12	應接室	事務室
13	昇降口	
14	食堂	
15	炊事場	
16	風呂場	洗面場
17	主任室	
18	同家族室	
19	病室	
20	新入生徒室	
21	物置	
總建坪二百坪		

私立成田學園一覽

（昭和四年三月三十一日現在）

◎沿革要項

一**創立**　明治十九年十一月二十八日千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設

一**組織の變更**　明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更

一**舊千葉感化院建築竣工**　明治二十四年五月三十日

一**園長更迭**　明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現園長就職

一**移轉改稱**　明治四十一年三月二十五日現在地に院舍を新築して之に移轉し同時に成田山感化院と改稱更に昭和三年三月二十五日成田學園と改稱

一**御膳本下附**　明治四十三年九月七日教育勅語膳本並に戊申詔書膳本各一通下附

大正十三年四月五日國民精神作興に關する詔書膳本一通下附

一**皇族御來園**　明治四十四年十月十七日山階宮芳麿王殿下

久邇宮朝融王殿下　華頂宮博忠王殿下　久邇宮邦久王殿下

山階宮藤麿王殿下本園へ御成り被遊尚同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫宮安子女王殿下を御伴はせられ本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本園よりは生徒製作に係る竹籠の内に三里塚名產の初茸を入れたるものを獻上したるに直に御嘉納遊さるゝ旨恩命に浴したり

一**宮內省より御下賜金及御下賜品**　本園事業御奬勵の思召を以て左の通り御下賜

大正十一年二月十一日　金參百圓

大正十二年二月十一日　金四百圓

大正十三年二月十一日　金四百圓

大正十四年二月十一日　皇太子殿下海外御巡遊日誌一部

大正十五年二月十一日　金壹百圓

昭和二年二月十一日　金一封

昭和三年二月十一日　金一封

昭和四年二月十一日　金一封

一**內務大臣より下附金及下附品**　本園事業上從來功績ありとし且つ奬勵の趣旨を以て左の通り下附

明治四十二年二月十一日　金壹百圓

大正四年二月十一日　花瓶壹對（市岡素雲作 青銅製松上ノ鶴模樣）

大正十一年二月十一日　金貳百圓

大正十二年二月十一日　金參百圓

大正十三年二月十一日　金壹百圓

昭和三年二月十一日　金壹百圓

昭和四年二月十一日　金壹百圓

一**本縣知事より奬勵金**　本園事業奬勵として左の通下附

大正十一年一月十三日　金壹百圓

大正十二年三月九日　金壹百圓

大正十三年三月二十五日　金壹百圓

大正十四年三月二十七日　金壹百圓

大正十五年三月三十一日　金壹百五十圓

昭和二年三月三十一日　金壹百五十圓

昭和三年三月三十一日　金壹百五十圓

昭和四年三月三十一日　金壹百五十圓

一**平和記念東京博覽會より銅牌受領**　大正十一年七月十日先に出陳したる本園一覽に對し銅牌を送らる

◎位置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一（**電話成田百三番**）にして成田山境內に在り前面我田町幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約九町成田山不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約一丁にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白堊の一家屋を見るべし、本園即是れなり

◎建物

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

一敷地面積　一千百二十五坪

一建坪　二百坪

一建築費　一萬八十二圓九錢九厘

但し別に女子部家族室を有するも此中に算入せず敷地建物明細圖は前頁に揭ぐ

◎職員

一園主兼園長　成田山新勝寺住職　荒木照定

一主任　正八位　大友惟誠

一會計主任　淺井照次

一敎諭　寺西茂樹

一敎諭　大友强哉

一授業師　千葉利一
一教諭兼保姆　大友靜
一保姆見習　波川あき
一農業雇　小川忠三郎

一篤志園醫　關川博道
一篤志齒科園醫　久保田章
一篤志整骨園醫　小倉桂

職員中園内常住のもの左の如し

一主任　大友惟誠
一教諭　寺西茂樹
一教諭　大友强哉
一授業師　千葉利一
一教諭兼保姆　大友靜
一保姆見習　波川あき

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論能く園長の精神と感化院職員たるの自覺とにより職務に從ふの外現在としては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし而かも此範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり

凡そ斯種事業に於て最も困難を感ずる所のものは職員其人を得るにあり就中醫的方面に於ては何れも苦心しつゝあるの實情なるに當園は殆んど各科とも而かも篤志を以てせらるゝ高德の士を有す何たる幸福ぞや

關川博道氏は本園の當地に移轉以來引續き其職に在り其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を小倉整骨醫院小倉氏兄弟は整骨外科を擔任し下さる事となれりされば入園し來る兒童は精神狀態薄弱なると共に身體亦强健ならざるもの多きにも係らず日を經るに從て健康狀態良好となり稀に疾病負傷あるも後害を遺せし者なきは本園の最も欣幸とし最も誇りとする所にして前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所以なり

◎昭和三年度主要事項

一、園生入退園の狀況

前年度繰越園生　十七名　入園生　十三名
退園生　十名　現在生　二十名

一、本年度退園生狀況一覽

稱號略	生育府縣名	家庭ノ職業	生計	生育	不良ノ主原因	退園年月日	退園事由	退園後成績	現在ノ職業
イ	東京	會社員	上	實父繼母	家庭愛ノ不足	六月七日	改善退園	良	理髪屋
ロ	愛媛	植木屋	下	實父母	遺傳	九月十一日	事故退園	良	他家ヨリ通學
ハ	滿洲東京	會社員	中	實父母	過嚴	十一月廿四日	改善退園	良	他家ヨリ機工
ニ	東京	寫眞屋	中	實父繼母	病的興奮	九月十三日	改善退園	良	自宅通職工
ホ	大阪東京	會社員	上	實父母	放逸型輕佻症	九月卅日	改善退園	良	自宅通職工
ヘ	東京	商社員	上	實父母	意志薄弱	十二月廿八日	改善退園	良	他家ヨリ通學
ト	東京	生命保險勸誘員	中	實父母	生來性變質	四月二十日	事故退園	未定	他ノ教育所
チ	東京	商人	下	實父母	精神薄弱	七月十二日	事故退園	未定	他ノ教育所
リ	神奈川	電工	下	叔父母	放任	七月十二日	逃亡	不詳	不詳
ヌ	東京	商社員	中	實父繼母	意志薄弱	十二月一日	事故退園	未定	他ノ教育所

一、現在生狀況一覽

稱號略	生育府縣名	現在ノ學力	入園ノ年月日	家庭ノ生計	家庭ノ職業	生育	不良ノ主原因	性行	現在年齡
イ	東京	尋四	昭和三年二月一日	下	大工	繼父實母	低能	浮浪盜癖	十九
ロ	栃木東京	尋二	大正十五年十二月廿二日	下	職工	實父ノミ	低能	盜癖	十八
ハ	東京	中三	昭和二年十月廿二日	中	會社員	實母義兄	放逸型性格異常	虚言詐欺	十八
ニ	東京	尋六	大正十四年五月三日	下	○	準孤兒	供給不十分	虚言盜癖	十三
ホ	千葉	尋五	昭和二年一月十九日	下	植木屋	實父ノミ	遺傳	盜癖	十四
ヘ	東京	尋三	昭和三年六月十一日	下	駄菓子屋	實父母	低能	浮浪盜癖	十三
ト	佐賀東京	尋六	大正十五年一月二十日	中	會社員	實父繼母	精神異狀	浮浪盜癖	十五
チ	千葉	尋三	昭和三年八月廿四日	下	傭ノ小使	實父ノミ	極貧	浮浪盜癖	十一
リ	東京	尋三	昭和三年十一月卅日	中	職工	養父母	遺傳	盜癖	十一
ヌ	東京	尋六	昭和三年十一月卅日	中	呉服仲買商	實父母	低格・者	盜癖	十四
ル	神奈川	尋一	昭和三年十二月廿二日	下	○	準孤兒	低能放任	浮浪盜癖	十二
ヲ	群馬東京	尋四	昭和三年十二月十日	下	鐵道雇員	實父繼母	偏頗ノ躾	浮浪盜癖	十三
ワ	東京	尋六	昭和三年十二月廿一日	下	女髪結	繼父實母	過嚴ノ躾	盜癖	十二
カ	東京	尋一	昭和四年二月廿三日	下	商社員	實父繼母	偏頗ノ躾	浮浪盜癖	九
ヨ	埼玉	尋六	昭和四年二月廿一日	中	金物商	實母	精神異常	虚言浮浪盜癖	十六
タ	神奈川	尋二	昭和三年十月十六日	下	○	準孤兒	放任發育不良	浮浪盜癖	十六
レ	千葉	尋二	昭和四年二月十八日	下	農	實母	低能放任	浮浪盜癖	十二
ソ	千葉東京	尋三	昭和四年三月十五日	下	野菜行商	實母	主人ノ虐待	放火殺人未遂	十六
ツ	長野東京	高一	昭和二年六月十三日	中	元妾	實母	意志薄弱	盜癖	十六
ネ	千葉	尋五	昭和三年四月七日	下	農兼土工	實父繼母	偏頗ノ躾	浮浪盜癖	十三

一、園生の健康狀態

本年度に於ける園生の健康狀態は篤志園醫諸賢の留意により割合に良好なるを得たり左記は本年度に於ける園生の疾病なるがその多くは新入生にして治療を要すべき疾病をもち來り入園當初已に治療を受け長く御厄介をかけたる者少からず、現にトラホームにより毎日治療を受けつゝあるものあり、故

に實際在園生としては本年は甚だ疾病少かりき左記の內一名は操行已に改善せられたるも喘息のため退園せしむることを得ず强壯なる身體として然る後に退園せしめんと目下千葉醫科大學附屬醫院に乞ひて入院治療中の者一名あり
又一名は近く歸川閑醫の御盡力により之亦同院に入院治療せしむ可き豫定の者あり

稱號	病名	治療日
絕四	齒痛	自一月廿二日 至一月廿四日
成樂	同	一月廿四日
絕四	同	自三月廿一日 至三月廿五日
不求	腫物切開	自四月十六日 至四月廿三日
卓爾	關節ノ痛	四月廿四日
成樂	耳疾	自五月九日 至五月十四日
絕四	齒痛	自六月八日 至六月十日
遠鄙	胃病	自七月九日 至七月十一日
不求	同	自七月十日 至七月十三日
立禮	脚氣	自七月十日 至七月卅日
循誘	喘息	自七月十七日 至七月廿二日

稱號	病名	治療日
立禮	腫物	自九月七日 至九月十一日
弘儀	足痛	自八月廿二日 至八月廿三日
遠鄙	氣管支加答兒	自九月廿五日 至九月廿七日
卓爾	肋間神經	自九月七日 至九月十五日
不憂	トビヒ	自十月十九日 至十二月廿七日
絕四	齒痛	十一月廿八日
循誘	喘息	自十二月八日 至十二月十一日
絕四	齒痛	十二月十九日
恂如	胃病	自二月二日 至二月五日
謹爾	トラホーム	二月十九日 治療中
恂如	凍傷	二月廿五日
不感	同	仝
立禮	咽喉	二月廿五日

一、御下賜金及奬勵金等拜受
　一、宮內省より御下賜金參百圓
　一、內務省より奬勵金壹百圓
　一、本縣知事より奬勵金壹百五十圓
右の外諸方よりの本年度寄附金合計貳拾七圓也
外に半馬力モーター並附屬具一式の寄附あり

一、設備事項
　(イ)梅苗の植樹
　(ロ)井戸ポンプの電化、並園內水道工事
　(ハ)教室內のストーブ設置
　(ニ)學園印刷部の新設

◎園內生活

本園の生活は普通一般に於ける溫き家庭生活と毫も異る所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躾をなすと共に信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神と爲すが故に此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れざる樣最も注意せり然れ共本園家庭內の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらず常に便宜を主とし溫き家風自然の慣例等により之を訓練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

日課及其說明を擧ぐれば左の如し

午前五時　起床二十分間の自彊術を終りて直に掃除
午前七時　朝拜式
　一、皇室の萬歲を奉祝す　二、大廟遙拜
　三、成田山不動尊禮拜　四、各自先祖敬拜
午前八時　朝食
自午前九時至正午　學科
正午　晝食
自午後一時至四時　實科
午後五時　夕食
自午後六時至同七時三十分　自習
自午後七時三十分至同八時　自彊術
午後八時　就寢
以上の如く定むると雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更することあり

起床　朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

自彊術　自彊術なる一種の體操は健康增進上甚良好なるを聞き職員先之が實地研究を試むる事數月然後大正九年十二月一日より從來の徒手體操に更へ朝夕二回之を行ふ事として今日に及べり確に效果を認む

清潔　清潔は本園の最も努むる所也每朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の淸潔整頓を檢査す

冷水摩擦　冷水摩擦は每朝洗面の時職員生徒一緒に之を行ふ水浴は自由に任せ置けり

衣類　普通の衣類を用ゆ曾ては制服ありしも今は之を定めず但每朝禮拜の時及學科授業の際は袴を着用せしむ

朝拜式　每朝講堂に於て之を行ひ兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員先特に敬虔的態度を持し最も嚴肅を旨とし之を行ふ

本園修身教育の大本として教育勅語戊申詔書並に國民精神作興に關する詔書の聖旨を奉戴する事勿論にして之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信ず本園の特色として成田山不動尊を信仰せしむる所以即是なり

訓話 一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就寢前不動尊禮拜の時之をなせ共平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何となれば職員は生徒と起臥を同うし行住座臥の間之が師たり父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなりされど個人に對しては機會を捕へ之に投じて其兒童に適切に徹底的に訓話をなす

食事 常に兒童の營養狀態に留意し滋養に富める物を選み居るを以て中流家庭に劣る事なし而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本院の生活は總てに於て「**共に**」といふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

學科 概ね小學校令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後に及ぶ事あり)の授業をなす但特に重きを讀方書方綴方算術珠算等の實用學科に置けり尋常科を卒業せし後猶ほ向上の見込ある兒童にして且品行最早差支なしと認めらるゝ時は中學へ通學せしむる事あり然らざる者には園内に於て高等科及補習科教育を授く又特に進歩の見込あるものには午前の學科とは別に夜間特殊の學科を授く例へば其兒童の將來に於ける職業を見込み論語英語實業講習錄等を敎ゆる是なり

實科 一農業を主とし外に印刷業及簡易なる手工を課す但多期は農業を行はず耕地は目下三段歩を有し追々擴張の見込なり印刷部は前掲の如く本年度の創設にかゝり未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し主として新勝寺關係の印刷物を以て其實習材料に充て生徒中嗜好性能之に適せる者二三を撰びて習得せしめつゝあり園内に於ける實科に對しては生産的職業的技能を與へ實社會に出で直に夫に依て自活し得るものを選ばざる可らずと論ずる者あり本園固より考量したる事にして今回印刷部の創設の如きも其一端なるが三四の業務を設備したりとて到底全生徒の個性嗜好に悉く適合せしむる事至難にして強て職業を狹き範圍に押込むる嫌あり殊に感化院に適する授業師たる人物を得る事困難にして施設繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり依て本院は教育終局の目的を主眼とし身體の鍛錬精神の訓練特に勤勞性の養成を目的とし單に以上の三課を設くるのみ尤も年齢其の他の關係よりして在園中職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み之に委託して本園より通勤其職業を見習はしむることあり

娯樂 兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に敎化の目的を遂げんとし娯樂には相當の意を用ふ

一、**庭球フツトボール及少年野球** 娯樂に供する外體力の養成にも資せんと之等を設けたるに一同は喜びて之を遊び晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり

一、**圍球盤** ピンポン、カロム雨天の日には之にて遊ぶ

一、**蓄音機 ラヂオ** 祝祭日及日曜日の夜間又は談話會其他の會の際に之をなさしむラヂオはその子供の時間を生徒の時間となしをれり

一、**生徒圖書室** 此所に有益なるお伽噺雜誌、寫眞、繪畫等を置き兒童の閱覽に供す

一、**自由園藝** 一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、箱庭作り等自由に園藝の樂を味はしむ

一、**散歩、遠足及旅行** 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜をなさしめ同時に散歩せしむ又附近神社佛閣の參拜水泳船遊魚釣蕨狩芹狩栗拾或は單なる山遊び等にて數々山野を跋渉し郊外に遠足し娯樂に兼て體力の養成をはかり或は臨時に汽車電車等に乘りて遠方への修學旅行をなす

一、**三大節及本園記念日** 當日は祝賀式後種々なる餘興をなして一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂となし居れり

一、**角力** 園内に土俵を設け夏期は殊に盛にとらしむ尚毎年九月に於て成田素人大角力あり生徒も出場せしむるを習とす

一、**誕生祝** 園長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團欒し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ早朝先不動尊に參詣其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又特に御馳走を供す

一、**五月節句** 講堂に幟を飾り柏餅にて茶話會を開く

一、**降誕會及義士祭** 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行いたる後園生の相談になる趣向によりて餘興をなす

一、鸚鵡、鶏、山羊を飼育す

右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戲例へば輪廻し獨樂歌留多双六障取鬼事將棊五目(其他種々)等は大抵自由に任かし徒に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常とす

賞罰 總て普通の家庭生活と狀態を同うせしむる希望なるが故に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本園の記念日にして當日は多くの賞與を與ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場合の外賞與を實行せず

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員の意見を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

雜件 一、**祭日** 生徒中若し父母死したる者ある時は勿論其他最も近き先祖の命日に於て特に祭壇を設け香花供物を献じ一日の休暇を與へ祖先に敬拜の意を表せしめ終日謹愼せしむ

一、**稱號** 生徒在園中は特殊の稱號を用ひ本名は嚴に之を秘して呼ばしめず例へば志道サン爲德さん好學サンと名稱するが

如し生徒よりして園長は御前樣主任は先生主任妻女は奥サン他の職員は誰だれ先生と其姓を頭にして先生と呼べり生徒に稱號を用ゐるは其依頼者に於て自已の住所氏名及其子供の氏名とは公然世上に發表せらるゝを好まざるの希望あるを知ると共に本園としては生徒入園の際に於て改めて新なる道德的の名稱を附するは本人の改善上一種の大いなる暗示の力あるものと認めたるに由れり

一、間食 初は日曜日及每月一日のみ之を與ふるの定めなりしも特志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せらるゝことあり又園長手許より生徒を慰めよとて特に珍菓水菓子等送り來ること數々なるのみならず園敎師へ他より贈られたる菓子等を總て生徒に分與するを以て實際に於ては間食の度數割合に多き方にして是等の方法は總て一般家庭の兒童生活と異ることなし

◎入　園

一、年齡 滿七才以上十六才未滿（何れの地何れの家庭より依頼せらるるも差支なし）

一、謝絕 一、白痴　二、不具者　三、非常に不健康なる者　四、不良程度のあまりに深き者

一、手續 本園の敎育を依頼せんとするときは學校の通信簿を携へ保護者來園のこと　但し遠隔の地に在る方は郵送相談するも差支なし而して愈々入園の節は當園所定の書式（別に印刷せる用紙あり、それに記入のこと）による書類と戶籍謄本を差出さるべし

一在園費 在園中は食費として左記の通り每月三日までに前納するを要す

但し家計の都合上左記の金額を納め得ざる方には其一部若しくは全部を本園に於て補助す

一金拾　圓　滿七歲より十歲まで
一金拾貳圓　滿十一歲より十三歲まで
一金拾參圓　滿十四歲より十六歲まで

以　上

一備　考 入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり又前記の書類と雖も依頼人の希望によりては本園に於て代書するも差支なし

入園の際は書籍　文具　衣類　夜具等新調に及ばず現に所有するものを持參の事

保證人は戶主にして身元確實なるものを撰定せられたし而して可成親戚中より撰ぶ方よし

新に入園生ある時は先づ入園前の非行に對し懇篤訓誡を加へたる後本園生活の要項を知らしめ最早不動明王の惠により全く生れ更りたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを諭し講堂に於て命名式を行ひ本園生活の人とならしむ

◎退　園

生徒の改良を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度第二園外に使に出し時々金錢を携帶せしめ毫も不都合なきとき及日常の操行右半年以上乃至一年間同樣に持續するときを以て改良生と認め退園せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得て本園より直に本人の性行に適する職業見習の家へ紹介し就業せしむることになし居れり此場合に於ても其家庭及周圍に十分の注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり

本園の最も心勞するは實に此の退園後の成績效果なり何となれば入園中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとするも退園後の境遇若しくは動機により動もすれば逆戾りをなし其效果を破壞せらるゝ恐あればなり故に本園に於ては退園後の成績效果に對し周到なる注意をなすと共に油斷なく左記の保護觀察をなせり

第一本園職員の觀察　第二本園と書面の往復

就中書面の往復は本園の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる效果あり尙事情の許す限り退園者とは親戚樣の關係を持續し行く事に努力し居れり

◎敎育成績

明治十九年本園創業以來昭和四年三月末に至る入園生百九十一人

内

改善者　百三十一人
逃　走　三人　不　詳　二十九人
不成績　五人　現在生　二十人
成績未定　三人

自明治三十四年・至昭和四年　二十八年間生徒狀況一覽

（昭和四年三月末日調）

一、成　績

改善者	一〇六	成績未定	三
不詳	五	現在生	二〇
逃走	三	計	一四二
不成績	五		

二、入園時敎育程度と年齡

程度＼年齡	九歲	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	計
不就學	1	4	2	5	3	2	1	1	19

尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六	高一	高二以上	計
5	2	2						10
2	2	3	1					12
1	1	2	2	1				9
1	1	1	6	3	1			13
	3	3	3	8	4			24
	3	3	4	2	3	3		20
2	2	2	4	1	3	2	1	18
		1	3	5	3	8	10	31
11	14	17	23	20	14	13	11	142

三、入園時保護者と年齢

年齡／保護者	實父母	實父	實母	繼父實母	實父繼母
九	1		1		1
十	1	2			5
十一	2		2	1	1
十二	6	3	2	1	5
十三	11	1	1	2	4
十四	7	1	5	2	4
十五	8	2	2	2	3
十六	12		6	1	6
計	48	9	19	9	29

養父母	祖母	其の他家族	保護者なき者	計
1	2	3	1	10
	2		2	12
2			1	9
1			1	19
1		2		22
1				20
1			2	20
2		3		30
9	4	8	7	142

四、保護者の職業

農業	二六
商業	一八
古物商	二
諸職人	二〇
官公吏	一〇
會社員	一八
飲食業	四
荷馬車業	二
車夫	三
被傭人	七
山芋掘	二
墓守	一
姿場	二
相師	一
下宿業	二
産婆	一
教育家	一
漁夫	一
無職	三
金貸業	二
植木業	三
醫者	一
寫眞師	一
不詳	一一
計	一四二

五、改善退園者現況

農業	二〇
商業	七
菓子屋	八
會社員	五
軍人	四
大工	四
豆腐屋	三
學生	六
製米業	二
印刷屋	二
電工	二
家庭にある者	三
鐵道省傭員	一
市電從業員	一
船具屋	一
提灯屋	一
活動辯士	一
按摩	一
海員	一
製洞職	一
染物屋	一
機械職	四
塗物屋	一
給仕	一
棒屋	一
靴屋	一
鼻緒職	一
ブリキヤ	一
植木屋	一
左官	一
理髮	一
折工	一
電球屋	一
履人	一
硝子屋	一
鍍金職	一
洋服屋	二
死亡	九
不詳	二
計	一〇六

六、改善退園者入院時の年齢と在院期間

年齡／期間	一年未滿	二年未滿	三年未滿	四年未滿	五年未滿	五年以上	計
九歳	1		2	1	1	1	6
十	3	2	3	1			9
十一	2	1	1	2	3		9
十二	3			3	2	3	11
十三	5	6	6	1	1		19
十四	2	9	5	1			17
十五	3	8	1	2			14
十六	8	9	2	2			21
計	27	35	20	13	7	4	106

◎經費

本園には嚴密なる豫算なしと云ふ方事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし嚴に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況んや錢厘に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりとて必要なき費途を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信頼を與へて濫りに細小の監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は慥に豫算を限定する以上にありて更に頗る便利を極め居れり左に記載するは本園移轉後の決算なり

明治四十一年度	金千六百十圓九十錢
明治四十二年度	金千九百五十九圓四十八錢
明治四十三年度	金二千百八十五圓四錢
明治四十四年度	金二千三百二十一圓八錢
大正元年度	金二千六百七十五圓六十七錢
大正二年度	金二千三百四十五圓六十三錢
大正三年度	金二千三百十二圓七十四錢
大正四年度	金二千八百三十一圓五十七錢
大正五年度	金二千七百八十六圓五十九錢
大正六年度	金三千〇二十五圓八十八錢
大正七年度	金二千六百〇八圓三十四錢

金三千六百四十圓三十七錢　大正八年度
金四千三百九十圓十三錢　大正九年度
金三千九百三十九圓一錢　大正十年度
金四千六百八十七圓八十七錢　大正十一年度
金四千七百二十一圓四十八錢　大正十二年度
金五千五百四十七圓二十七錢　大正十三年度
金六千九百二圓三十八錢　大正十四年度
金五千九百九十一圓二十錢　昭和元年度
金五千五百〇五圓二十五錢　昭和二年度
金六千〇五十三圓〇五錢　昭和三年度
合計金七萬八千〇四十圓九十三錢

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮奬勵も茲に存するを知れるも本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金七千七百八十三圓〇九錢と勸業債券十圓券六十七枚五圓券二枚（三月三十一日調）を有するに至る殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらることとなり尙ほ此基金蓄積の外本園は銀行預金壹千百三十三圓十一錢を貯蓄せり右は本山御開帳の折該御開帳を記念すべく右施設費として本山主より寄附せられたる金員及特に此内へと寄附せられたる金員となり從來本園は此預金を以て園附屬の果樹園建設の見込を有したりしが種々研究の末如何にも思はしからず且園附近に適當の場所も無きを以て此計畫を中止し前記の印刷部を以て之が施設に更ふる事とし目下着々進涉中なり

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す（但し各團体より寄贈せらるゝ雜誌等は之を略せり）

一金參圓也　石井文雄殿（成田）
一金拾圓也　渡邊要藏殿（成田）
一金貳圓也　田中進殿（成田）
一金貳圓也　行木粂吉殿（成田）
一金五圓也　福田雅實殿（成田）
一金五圓也　京増廣殿（成田）

一半馬力電動機並附屬品一式　後藤松五郎殿（東京）
一金四圓也（生徒菓子料）　堀江桑次郎殿（東京）
一御菓子澤山數回　若松分店殿（成田）
一御菓子澤山　藤木三郎殿（成田）
一理髮（每月一回以上）　平澤晃殿（成田）

以上

成田圖書館一覽

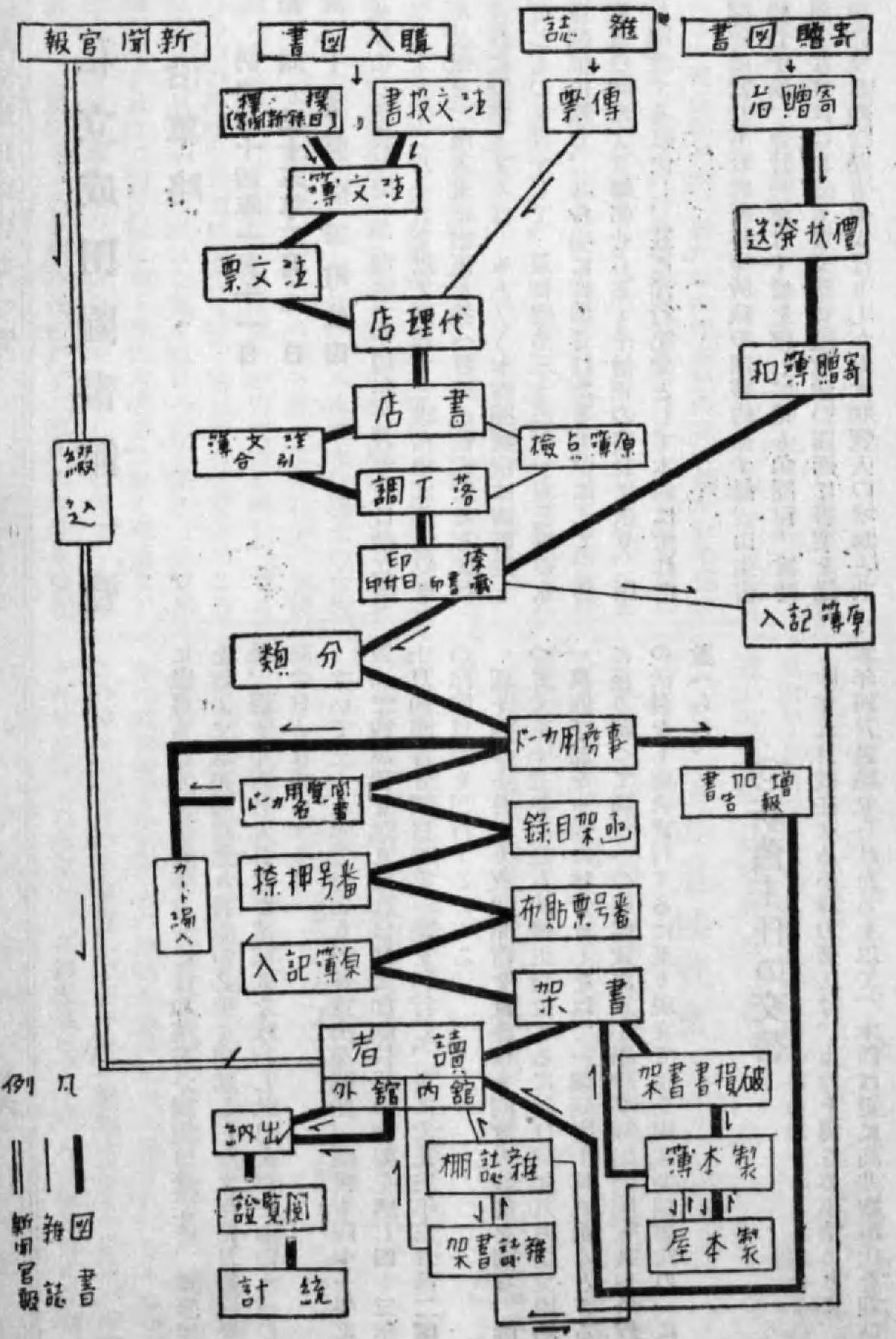
圖書館事務體系……
沿革略……九六
本館主事の更迭……九六
書道展覽會……九七
圖書館と小學校との連絡……九七
建物及敷地……九八
經　費……九八
職　員……九九
藏　書……九九
閲覽人員及貸付圖書……一〇〇
圖書帶出一覽……一〇一
閲覽狀況一覽表……一〇二
規　則……一〇三
館外帶出規則……一〇四
圖書寄贈者芳名……一〇五
雜誌新聞寄贈者芳名……一〇六

書道展覽會

成田圖書館

圖書館事務體系

（一冊の本が圖書館へ來るとかうした經路をとります）



私立成田圖書館一覽

◎沿革略

創立　明治三十四年一月十一日
開館　同　三十五年二月　一　日
位置　千葉縣成田町成田

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す、現在地は本堂の東に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑はず、されど玆に遺憾とするは、もと〳〵本館閲覽室は圖書館として建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水產物品評會開催に際し、其會場に貸與されたるものにして、其後故石川貫首の歐米より歸朝せらるゝや僧正の發意に依り、斷然圖書館を開設するに決し、玆に洋行記念として本館は生れたり。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書齋のもの約七千餘、合計一萬五千冊を移して兎も角開館。當時は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閲覽室の四圍に書架を羅列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閲覽人の增加と共に職員も增し三十五年六月には和漢書分類假目錄完成、爾來年を逐ふて藏書增嵩愈々書庫の必要を痛感し三十九年三月書庫新築、四十年六月九日之が落成式を擧行し此日を以て本館永遠の記念日となすに至る。

次いで三十八年二月より館外貸出を開始、藏書も四十一年に及んで四萬冊を越えたれば玆に印刷目錄の切要を感じ四十三年十月和漢書分類目錄第一編を刊行し、更に大正三年三月第二編の印刷目錄を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閲覽人の便を圖る、降つて大正十三年館長石川僧正物故するに及び同年八月遺文庫約一萬四千冊を本館に移管せしを以て一躍藏書十萬に垂んとするに至り從つて隣村への團體貸出及小學校學級出張閲覽其他各般の活動をも逐次實行するに至り現在では全國主要圖書館の一に數へらる。

◎新舊主任の交替

昨年五月就任せる小林力彌氏は、止むを得ざる事情ありて、本年四月退職せられたるを以て、本館は更に高井観海氏を迎ひ

て主任の重職に新補したり。

新主任高井氏は、多年智山大學勸學院教頭の職に在りて、佛教學界に於ける一方の權威者として、內外倶許の篤學者である。今回同大學が專門學校として、東京府下へ移轉せる機會に於て、稍やく自他の都合相調ひ、新たに本館主任の職に就かれる運びとなつたことは、高井氏自身の學業完成の爲にも、本館所藏の佛教書類を整理し活用する上に於ても、倶に喜ばしき極みである。但智山專門學校の方も、全然同氏の解職を許さゞる事情にあるを以て、目下の處何れか一方を兼任とせねばならぬ都合に在ることを遺憾とする。

元來成田山所屬の智山派は、我國に於ける佛教學者の淵藪であつて、元和偃武以來、根嶺新義の法燈を復興し、碩學巨匠雲の如く起り、殊に性相學に於て天下第一の稱を擅にした。維新前後京都は志士横行の衢と化し、殊に我本山は土佐藩士の舍衞する所となり、學徒四散、一時講學の聲を絕つに至れり。其後慶寮を緝めて在學し、又明治十年東京に智山東黌を興し、更に智豐兩山合同の學校を音羽に樹つる等、當局者の苦慮容易ならざるものありしが、一方世間の文運は旭日の如く進み、佛教界は大打擊の後を承けて頗る振はず。玆に老學者は漸く凋落し、新學者は未だ現はれ來らす、學山を以て誇りし智山派も、轉た寂寥を感ずるに至れり。此中間時代に於て、宗門の學統を繼紹するものは、實に數指を屈するに過ぎず。本館は幸に顯密諸部事教兩相に亙り、比較的多くの良書を藏せり。本館が高井氏を招聘せる所以のもの、高井氏が本館の招き應じたる所以のもの、蓋し其間無限の妙趣あるか。否歟。

◎書道展覽會

年中行事たる『讀書週間』の催しとして、十一月廿三日より廿五日まで三日間、東京書道會の後援を得て、書道展覽會を開催せり。

書道は繪畫と異り、興味本位のものに非ずして比較的高尙幽雅に過ぐるの觀ある爲か、連日滿員とまでは行かざりしも、三日間にて約六百名の入覽者ありたるは蓋し盛況の部ならん。寫眞は即ち當日の狀況を撮りたるものなり。

◎圖書館と小學校との連絡

讀書の鼓吹といふ點については、成人間に之を力むるよりも寧ろ幼少年の時代より書物に親しむの慣習と精神を胚胎せしむる要あるは、今更言を俟たない事柄である。それについては、先づ圖書館と小學校との連絡を第一に考へなければならない。この點を本館は深く考慮し、先年來小學校と協定の結果、差當り五年級以上の學童を、各級交替にて、殆んど隔日位に登館せ

しめ、一時間乃至二時間自由讀書の良習を養成し、一方智識を涵養する傍ら、圖書館の實際智識を體得せしむるの方法を講じつゝあるが、その結果成績頗る良好である。
歐米諸國にては、既に實行し居る處も多々ある模樣なるが、我國としては未だその例罕にして、小學校圖書館の極めて幼弱なる現今、大いに各地通俗圖書館の進んで實行すべき性質のものであらうと思ふ。

◎建物及敷地

本館	木造	延百十五坪餘
書庫	煉瓦造	延九十坪
附屬建物	木造、煉瓦造	延百十四坪餘
敷地		千二十八坪

前記の如く、現在としては相當の敷地を有し、庭球コートの一ツ位は設置し得る程なるが、これとても漸次狹隘を感ずるに至るべきことは必然である。
建物は沿革中に述べた如く、所謂舊物利用のものにて、決して誇り得べき態のものではない。勿論、改造を要する時機に到達してゐるものであるが、圖書館は衆知の如く學校と異つて、年々收容人員の滿喫を來し現實に必要を感ずるものに非れば、痛感が痛感にならぬ憾みがある。然し書庫に至つては、學校に於ける教室のそれよりも遙かに增加率の甚しいもので、切實に增設の要を痛感して居る。現在では、本館の書庫も一升の書架に一升の書物が溢れて、殘餘は日に〳〵床上にまで羅列するの狀態となつてゐる。
次に、本館は附屬家として、休憩室、宿直室及使丁室等の外三棟の館員住宅を設けてある。住宅を構內に設くる事は、四六時中、館の警衛機關となるは勿論、夜間勤務の便、缺勤防止、遠距離通勤難、住宅難の緩和等、其他無形の利益多大なるものがある。

◎經費

○昭和三年度決算額

(一)	職員給、雜給	六、七〇三、九五円
(二)	需用費其他	二、〇四一、四八
(三)	圖書費(新聞、雜誌、製本費等)	四、五八九、四七
(四)	營繕費	九二八、一九
	計	一四、二六三、〇九

○昭和四年度豫算額

(一)	職員給、雜給	七、〇七四、〇〇円
(二)	需用費其他	二、〇三〇、〇〇
(三)	圖書費	四、五〇〇、〇〇
(四)	營修費	八五〇、〇〇
	計	一四、四五四、〇〇

本館の經費も逐年累進しあるが。蓋し何れの圖書館に於ても亦他の教育事業に於ても、免れ能はぬ趨勢なるべし。

◎職員

館主兼館長	荒木照定
顧問	高津親義
主任	高井觀海
司書	成田善亮
同	高田定吉
司書補	小川益藏
事務員	海瀨健示
助手	武士田文哉
同	大木登

事務に對する從業員の安定といふ事は、何れの事業につけても緊要の事ながら、分けてもこの圖書館事業に於ては事務の統一上極めて大切な事と云はねばならない。それが近時、我が圖書館にもこうした恨事を見る樣になつたが、是れ時流の致すところ止むを得ない事であらう。
客年も報道した通り、前主事高津氏が、勤續二十六年の後勇退顧問となり、後繼主事として、舊成田中學校長小林力彌氏來任、本年三月まで約一年、館務を鞅掌したるも惜しい哉辭職、更に代るに現智山專門學校教頭高井觀海氏を以てするに至つた同氏は、博學溫情の士で、殊に佛教の蘊蓄深き人格者であり、比較的佛教書に富む本館にとつては好個の主任といふべきであらう。
次に、事務員石橋廣は、現山主の新事業たる新更會館へ轉勤することゝなり、尙昨年來、委託生として圖書館講習所に勉學中の海瀨健示は、本年三月を以て修業歸館し、更に新智識一點を加へ、向後は會心の活動も出來得べきコースに入つた譯である。

◎藏書

○昭和參年度增加書

和漢書	壹千八十冊
洋書	十二冊
計	壹千九十二冊

○昭和四年三月末日現在圖書數

和漢書	九萬貳千五百七十一冊
洋書	四千九百二十三冊
合計	九萬七千四百九十四冊

全世界に於ても、日本の出版率は依然頭角を抜き、けに洪水の觀を呈し、なほ底止する所を知らざる狀勢にある。剰へ近時圓本の流行は特筆すべきもので、これ等の叢書の殆んど凡てが編輯物であり、單に裝釘を更めて出したに過ぎない程度のものであるが、これとて大衆に歡迎される以上は、或程度まで圖書館としても購入せねばならない。隨つてこの洪水は波及して我書庫の洪水ともなる。加ふるに、年々雜誌の保存上、合册製本の上入藏するのであるから、その增加率は想像しても思ひ餘るものがある。この圓本は、何處でも中以上の圖書館では、既刊書とダブる關係上相當厄介視するものであるが、飜つて小圖書館の立場から見れば、これ程都合のいゝものはない。つまり小額の購入費を以て古來の名著を一通り揃へる事が能るからである。

本館は、斯うした通俗的のキワ物も置く必要があると同時に悠久性を有つた所謂學術書も購入せねばならぬ立場にある。隨つて、藏書加重の速やかなるは、寧ろ當然の歸趨である。加ふるに、この間大小蒐書の寄贈あり、各册の寄贈ある爲め、進行極めて早く、遂に今日では、藏書概約十萬と呼ぶに至つたのである。

◎閲覽人員及貸付圖書

年度	開館日數	閲覽人員	貸付圖書
明治三十五年	三一五	二、四五二	三、九二三
同三十六年	三三三	二、四四八	五、八六三
同三十七年	三三五	三、四三七	六、五九〇
同三十八年	三四一	四、一三五	五、九三八
同三十九年	三二六	四、四三七	九、四九二
同四十年	二七七	六、二二八	一一、二九七
同四十一年	三二六	六、五八九	一二、〇三八
同四十二年	三二八	六、九一七	一二、六五七
同四十三年	三二六	一四、六四八	三二、八五八
同四十四年	三二七	一八、六四三	四二、八一〇
大正元年	三二六	二〇、〇六四	五四、四〇二
同二年	三二四	二〇、〇九八	七五、八二八
同三年	三二三	二四、二二五	九五、九七六
同四年	三二八	三一、五五四	一〇四、一六六
同五年	三一二	二九、六二一	八八、七九六
同六年	三二三	三四、一八六	九〇、一〇四
同七年	三二三	三一、一五一	七三、八一九
同八年	三二〇	三二、四六一	六六、二〇一
同九年	三二九	三三、三一五	六六、五七八
同十年	三二三	三四、八六六	六三、九四四
同十一年	三二五	三五、六三〇	六一、一〇二
同十二年	三二六	三七、四六二	六三、五七五
同十三年	三二五	三九、三四四	六五、八三五
同十四年	三一四	三九、七〇四	六六、二四九
昭和元年	三一二	四〇、四九一	六七、五八〇
同二年	三〇九	四一、二〇二	七〇、六三九
同三年	三一九	四一、五九九	七一、二七〇
合計	八、六九五	六三七、九〇一	一、三八九、五七〇

昨年度一日平均　人員一三〇人　書册　二二三册

◎圖書帶出一覽

明治三十八年度	一一〇八回	
明治三十九年度	一二八八回	二九一五册
明治四十年度	一三五三回	三〇二〇册
明治四十一年度	一四二一回	三一七一册
明治四十二年度	一四九二回	三三二九册
明治四十三年度	三四四〇回	五九八五册
明治四十四年度	七〇二〇回	一一九七四册
大正元年度	八八四六回	二〇〇六四册
同二年度	八〇三八回	二二八六〇册
同三年度	九一八〇回	二〇五五六册
同四年度	一六二一六回	三〇二〇六册
同五年度	一四六一〇回	二五〇九八册
同六年度	一六七一〇回	二八〇五四册
同七年度	一六五八四回	二九四六九册
同八年度	一七三四六回	三二四六一册
同九年度	一七九七二回	二八一一〇册
同十年度	一九五八六回	二九〇六八册
同十一年度	二〇七八〇回	三〇七三六册
同十二年度	二一九二四回	三七四六二册
同十三年度	二三〇二〇回	三三七四八册
同十四年度	二四二八三回	三四六九一册
昭和元年度	二四七六八回	三五三八四册
同二年度	二四六九八回	三六〇九一册
同三年度	二四九三五回	三六四五一册
合計	三二六六二三回	四七三九二五册

◎昭和三年度閲覽狀況一覽表

種別＼月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	合計	百分比例
開館日數	二九	三〇	二七	三〇	三〇	一七	二六	二五	二六	二三	二六	三〇	三一九	—
宗教	三七三	四五八	三七四	四七五	三〇一	二五九	三六七	三七六	一六三	三二四	一七一	一一一	三七四一	五・二
哲學・教育	五〇七	四二五	七五一	三九一	五三二	三八二	四七二	五三二	三三五	九八八	四三〇	五七四	六一七七	八・六
文學・語學	二六九〇	二八一六	二八四三	三三〇九	四一三九	二五五九	二三六〇	二四〇四	二六八九	二三五一	一八八一	二八二二	三二八六三	四六・一
歷史・傳記、地誌・紀行	八四一	六五八	六五三	六四一	九八九	六五三	七三六	六八一	八〇九	四九六	五八二	七三七	八四六五	一一・八
法制・經濟、社會・統計	七〇九	四一四	三九五	三八三	三七六	三〇五	三〇五	四七五	三八六	四二〇	三六三	四三三	四八八五	六・七
數學・理學、醫學	四六二	三九一	四二九	三五四	三九四	四九三	五八八	三三七	六二七	三八八	三三五	四三二	五四〇七	七・六
工學・兵事、諸藝・産業	五〇六	四八一	四六五	四六八	六七七	三四七	三三七	五四四	四五一	四五六	四七七	六九九	五八七六	八・四
類書・叢書、隨筆	四八一	三六五	二〇一	三二七	四五八	二三四	一九八	三九一	三五八	三二一	二六二	五〇一	三九九七	五・六
合計	六五六八	六〇〇八	六一一一	六二四八	七八四五	五二三二	五三六三	五六九九	五四〇八	五八四二	四五八〇	六三二六	七一三三〇	一〇〇・〇
一日平均	二二五・一	二〇〇・三	二二六・三	二〇八・二	二六一・五	三〇七・七	二〇六・二	二二七・九	二〇八・〇	二五四・〇	一七六・二	二一〇・五	二二三・二	—
閲覽人員 館內	一六三五	一五九八	一二一三	一五八七	二二二九	八六三	一三三二	一一五四	一一七〇	一二三九	一三六〇	一五八六	一六六六四	—
閲覽人員 館外	二〇九六	一九八七	二八四〇	二二二九	二一七八	一一六六	二二三一	二一五八	二〇五三	二〇三三	一八八七	二〇九六	二四九三五	—
合計	三七三一	三五八五	四〇五三	三八一六	四四〇七	二〇二九	三五六三	三三一二	三二二三	三二七二	三二四七	三六八二	四一五九九	—
一日平均	一二八・六	一一九・五	一五〇・一	一二七・二	一四六・九	一一九・三	一三九・〇	一三二・四	一二三・一	一四二・三	一二一・〇	一二二・七	一三〇・四	—

◎私立成田圖書館規則

第一條　本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閲覽ニ供シ社會ノ智德啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス

第二條　何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得

第三條　本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

	開館時限	閉館時限
四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月	午前八時	午後九時
十一月 十二月 一月 二月 三月	午前九時	午後八時

第四條　本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス

歳首　自一月一日　至同七日	館內掃除　毎月末日
紀元節　二月十一日	天長節　四月廿九日
記念日　六月九日	明治節　十一月三日
曝書期　九、十月中　凡十日內外	歳末　自十二月廿八日　至同三十一日

第五條　本館ノ圖書閲覽ハ總テ無料トス

第六條　圖書閲覽希望者ハ圖書閲覽證ヘ求需ノ書名册數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ書册ヲ借受クベシ

第七條　貸附圖書ノ員數ハ求覽人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二册洋裝書ハ二種二册ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過グルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス

第八條　借受ノ圖書ハ閲覽室外ヘ携帶スルコトヲ得ズ

第九條　過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ケ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條　本館ノ規則ニ違背シ又ハ本館臨時ノ揭示ニ從ハズ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ一ケ月乃至一ケ年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條　閲覽席ヲ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席ヲ侵スベカラズ

第十二條　閲覽所內ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ

第十三條　何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラルヽトキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添ヘテ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ之ヲ支辨ス

第十四條　凡ソ公衆ノ閲覽ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ

委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ

委託ノ圖書ハ厚ク保藏スト雖モ不幸火難盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任ゼズ

第十五條　館外圖書貸出特許規則ハ別ニ之ヲ定ム

以上

成田圖書館圖書貸出規則

第一條　本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ
一　圖書帶出願書ヲ差出スベシ
二　圖書帶出願書ハ保證人ヲ要ス
三　圖書帶出願書ノ保證人ハ一應本館ノ承諾ヲ經タル者ニ限ル
四　保證金五圓ヲ預納スベシ
五　成田中學校、成田高等女學校、成田幼稚園、成田學園教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
六　新勝寺徒弟及詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同校長保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
七　五、六項ノ場合ニハ四項ノ保證金ヲ要セス
第二條　本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス
第三條　貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ二種十册以內洋裝ハ二種二册以內トス和洋併借ノ時ハ各半數以內トス
第四條　貸出期間ハ一週間以上三週間以內ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
第五條　期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
但他ニ同書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絕スルコトアルベシ
第六條　特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戾セシムルコトアルベシ
第七條　帶出權ヲ得タル者ニシテ他所ヘ轉居スルカ其他事故アリテ本館圖書ノ借覽ヲ要セザル時ハ其旨屆出ヅベシ
第八條　保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベジ
第九條　左記事項ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
一　大部ノ圖書
二　各學科ノ事彙、辭書、類書、書目、新聞
三　館內閱覽人ノ請求多キ圖書
四　貴重高價ナル圖書
五　新刊圖書ハ二ケ月乃至三ケ月後定期刊行書ハ裝釘ノ上ニアラザレバ貸出セズ
第十條　借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戾セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニ依リ再ビ之ヲ付與セザルベシ此場合ニ於テハ保證金ヲ以テ帶出圖書ノ代金及其費用ニ充テ尙不足ヲ生ズル時ハ保證人ニ辨償セシムベシ
第十一條　借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辯償ノ責ニ任ズ
第十二條　圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
第十三條　圖書帶出ヲ中止セントスル時ハ直ニ保證金ヲ還附スベシ

以上

昭和三年度　圖書寄贈者芳名

相川角太郎	一六
青野新兵衛	四九
淺井儀助	一二
淺井隆	一
安達一郎	四
荒木照定	二
安藤又三郎	一
飯田鴨水	一
石川縣立圖書館	二
石川順	一
石橋德	二
市川新松	一
一瀬粂吉	二
一德會事務所	二
茨城縣立圖書館	一
今井君記念會	一
潮田健二	一
梅澤健吉	一
大阪市役所產業部	一
大橋圖書館	二
押尾儀兵衛	一
海瀬勝藏	八
海瀬健示	二
外務省通商局	二
學習院圖書課	一
鹿兒島縣教育調查會	一
鹿兒島縣廳	一
鹿兒島縣立圖書館	一
加藤一三	五
角田誠造	二
鎌田共濟會	一
神木鷗津	二
樺太廳	一
簡易保險局	五
北村茂	一
岐阜市役所	一
岐阜日々新聞社	一
木村莊太	五
九州齒科醫學專門學校	一
協調會	四
京都市役所	一
京都帝國大學圖書館	一
金融研究會	一
日下義雄傳記編輯所	一
呉市立圖書館	一
啓明會	五
神戸高等工業學校	一
請川健藏	一
國民精神社	一
黒龍會出版部	一
黒龍會本部	一
五尊文庫	一
小沼義康	二
小林庸平	一
小林力彌	二
近藤記念海事財團	二
埼玉圖書館	二
酒井忠德公頌德會	一
佐瀬旭	一
澤田總清	一
鹽川八百熊	二
實業の世界社	二
島村治助	六
神宮皇學館	一
杉田正巳	一〇
鈴木懲太郎	一
鈴木亮	五八一
聖堂山人	二七
淺草寺社會部	一
相生院	一
外村新五郎	一
體育研究所	一
大雄閣書房	二
臺灣總督府圖書館	一
高津親義	一
高野豊治郎	一
高橋健吉	一
寶塚圖書館	一
長見小次郎	二
田中清一	一

玉名中學校	三
田村實	一
智山派宗務所	四
千葉醫科大學圖書館	一
千葉運輸事務所	一
千葉縣學務部	五
千葉縣知事官房	二
千葉縣廳	八
千葉郵便局	一
中央大學々員會	一
朝鮮總督府	六
朝鮮總督府博物館	一
貯金局	六
遞信省郵便局業務課	一
鐵道省運輸局貨物課	二
鐵道省運輸局國際課	四
東亞研究會	二
東京商工會議所	一
東京帝室博物館	一
東京天文臺	一
東北帝國大學	一
東北帝國大學圖書館	一
東洋協會	一
東洋文庫	三
土肥慶藏	一
富山市立圖書館	三
內閣統計局	二
內務省東京土木出張所	四
中田才司	四六
行方喜一	一
奈良女子高等師範學校	一
奈良圖書館	一
成田驛	四
成田郵便局	二
日米協會	一
日露協會	一〇
日本興業銀行	一三
日本赤十字社	一
日本赤十字社千葉支部	三
日本放送協會	二
函館圖書館	七
早川春吉	一
林靖一	三
林壽祐	二
原直三郎	五
半田鍵次郎	二
坂東宣雄	一
日比谷圖書館	三
福富泰藏	一
古川與一郎	二
防長俱樂部	一
北海道帝國大學圖書館	一
前田愁靖	一
前田林外	一
增田正直	一
松尾謙三	一
松川清	一
松波仁一郎	一
丸寬二	三
御園生咲郎	一
宮島友心	一
陸奧廣吉	二
村井伊兵衛	一
諸岡薰	五
文部省	六
文部省普通學務局	三
山口圖書館	二
山田豐	二
大和通伸	一
山中文庫	二
林業試驗場	四
隣人の友社	一

昭和三年度 雜誌新聞寄贈者芳名（毎號寄贈者のみを掲ぐ）

荒木照定
　アサヒ、グラフ
大阪朝日新聞
　中外日報
石川縣立圖書館
　石川縣立圖書館報
石川甚兵衛
　外交時報
　國家學會雜誌
　實業
　昭和日日新聞
　新愛知
　內觀
　日本及日本人
　三田評論
　三越
石川富士雄
　富山房讀書界
石橋新聞店
　日本
　二六新報
伊藤汎
　大正公論
潮田健司
　土上
牛込新報社
　牛込新報
運輸時報社
　運輸時報
英語青年社
　英語青年
大阪出版社
　英文大阪毎日學習號
大阪商船株式會社
　海
大竹又次郎
　事業と廣告
　新聞及新聞記者
　萬朝報
小川保
　科學畫報
義勇財團海防義會
　海防
鎌田共濟會
　鎌田共濟會雜誌
河村泰太郎
　禪宗
關西藝術社
　露
木村莊太
　文藝時報
鄕土樂園社
　鄕土樂園
久保田章
　齒科醫報
　齒科學報
　齒科新報
　日本口腔衛生
　日本之齒界
研究社
　研究社月報
甲子社書房
　佛教
高野山時報社
　高野山時報
高野山大學密教研究會
　密教研究
小林力彌
　英文東京日日新聞
佐倉中學校
　校友會雜誌
時事新報成田專賣所
　時事新報
而眞會
　密宗學報
詩神社
　詩神
史談會
　史談會速記錄
十善會
　十善寶窟
淨化會
　淨化
新興社
　清觀
　新興
新勝寺
　日本勸業銀行月報
神變社
　神變
須田寬治
　週刊朝日
生活社
　凡人の力
正民新報社
　正民新報
淺草寺
　淺草寺時報
關川博道
　結核

細菌學雜誌
兒科雜誌
社會醫學雜誌
千葉醫學會雜誌
東京醫事新誌
日本消化機病學會雜誌
皮膚科及泌尿器科雜誌
大成會
大成會々報
臺灣總督府鐵道部
統計月報
高田定吉
東京每夕新聞
高田好枝
婦人倶樂部
高津かな
富士
千葉縣教育會
千葉教育
千葉縣消防新聞社
消防新聞
千葉縣圖書館協會
千葉縣圖書館協會報

千葉縣農會
愛土
千葉高等女學校
松籟
千葉庶民新報社
千葉庶民新報
千葉每日新聞社
千葉每日新聞
千葉民友新聞社
千葉民友新聞
智山公論社
智山公論
智山派宗務所
智山派宗報
帝國軍人後援會千葉支部
後援
帝國水難救濟會
海
帝國圖書館
帝國圖書館報
鐵道省運輸局
外國鐵道調査資料
主要貨物情報

鐵道新報社
鐵道新報
東京金物新報社
東京金物新報
東京市政調査會
圖書室月報
東京市養育院
東京市養育院月報
東京堂
東京堂月報
同人社
同人
東洋協會
東洋
特許局
特許公報
內閣統計局
統計時報
長崎縣立圖書館
長崎縣立圖書館報
中田オ司
キング
奈良縣立圖書館

奈良縣立圖書館月報
成田高等女學校
校友會雜誌
成田中學校
校友會雜誌
日新時報社
日新時報
日本弘道會
弘道
日本赤十字社
博愛
日本圖書館協會
圖書館雜誌
日本佛教新聞社
日本佛教新聞
野田町圖書館
砂丘
野村教育研究所
教育パンフレット
ばんだれ社
十醉
日比谷圖書館
市立圖書館と其事業

藤崎公道
實驗治療
治療及處方
治療藥報
日本婦人科學會雜誌
ミユンヘンネルメヂチニツシエナツヘンシユリフ
臨床醫學
佛教聯合會
正教新論
奉公會
奉公
菩提樹社
我
法華會
法華
前橋市立圖書館
前橋市立圖書館報
松田芳郎
隣人の友
松戸高等女學校
校友會雜誌
丸善株式會社

學燈
新刊月報
マルセンス
アナウンスメンツ
滿鐵社員會
協和
者溪會
教育
無水庵
日本思想
森江書店
三寶
諸岡叢
アサヒスポーツ
謠曲界發行所
謠曲界
六大新報社
六大新報
早稲田大學
早稲田學報

新更會館一覽

新更會の意義本質……一一一
事業報告……一一三
職員……一一四

陳列品の鑑賞の心境に入る入館者
←（新更會館內近代名士書畫展覽會にて）

教育映畫大會（新更會館右側の廣場にて）→

新更會館入口の雜踏 →

新更會館樓上に於ける思想講演會の盛況（檀上は新渡戸稻造先生）←

臨海圖書館の實況（房州北條にて）←

『新更會』の意義本質 附 事業報告

新更會は成田山現貫主の純意を體して、客年六月成立した處の修養團體であることは、社會人の既に知る處である。筆者は、本會の意義本質に就いて、私見を開陳し、以て職務上に於ける、責の一端を、剿がんと、念願する次第である。

凡そ、現代の社會に視線を投ずる時、社會相は常に動搖變化止むことなし。勿論、宇宙間に存在するものは、夫れが物質的と精神的のいづれを問はず、常に流轉變化するは、毫も不思議とする所に非ざれども、一歩は、一歩より、より、よき方へと、秩序的に、共同的に、進化せしめ、以て理想的社會を設定する樣努力することが、人類の使命である。然るに、日本人現下の狀態を見るに、誠に緊張を缺いてゐる此日本の弛緩狀態は、何時頃から、始まりしやを、究明するに、それは日露戰後に始まり、歐洲大戰の好景氣時代に至つて、最絕頂に達し、然かも、全く慢性的になつてしまつた。夫れ故、大正九年の恐慌、十二年の大震災、昭和二年の銀行の大破綻、等打續く大事件に遭遇しても、國民の間には、一向に緊張の樣子は見られないで、今日に至つてゐる。國民の此の弊風を今にして、一新更始せずんば、國家の前途實に憂慮に堪へないのである。總裁荒木照定氏が本會を起したるも、全く倦怠し切つた、此の人心に、注射を施し、更始一新を計り民心を復興せんが爲めである。然し、本會の更始一新は、徒らに、時流を追ふものではなくして、飽迄も、人心の改造忠行無比の國民性の復活である。孔子の所謂『溫故知新』で舊文明の美點は、何處迄も、之れを保持し、更に是れより、長所を調和融合して、新日本文明を創造せんとするものである。更に換言すると、書經に、ある所の『德日新萬邦惟懷』といふ意味で一日〳〵と、舊道德より、新道德を創造し、時勢に適したる、新道德により、自らを律し、社會全體の發展、向上を計るのである。

吾人は此の人心刻々の改造、國民精神の更始一新の實を、廣義の教育に依て、達成せんとするのである。教育の定義は色々ある、が要は人間二人以上寄りて、導き導かれ、又、研き研かれる作用であると、言ふてよい。それ故、教育は學校に於てのみ、行はるゝものではない。人間の接觸に依りて、行はれてゐる。社會一切の現象は、研き研かれる、關係にあるので、廣義に於ける、教育と見て差支はない。只、之れに關係する　人々に明確に意識する人が至つて、乏しいのであるから、本會は社會一切の運行を、教育關係と意識し、以て、何事も教育的に取扱ふ樣に世人の注意を喚起したい。本會の人心の更始一新とは此の點を指すのである。此の樣な意味の教育を、在來の學校教育と、區別する爲めに、特に成人教育と呼ぶことゝする。

本會の目的とする、成人教育は、上述の意味で行ふのであるから、此の教育に於ては、社會に發生する、凡百の人爲の現象、並に、自然現象を、自由に捕へて、教材となし、人々相互が、師となり、弟子となり、人々の知識を增し、考へ方を豐にし、趣味を向上せしめ、品性陶冶をなすのである。斯樣にして、刻々に個人完成を期すると共に、

社會成員相互の理解を深くし、以て國家社會全體の向上、充實發展を計り、吾々の生存する、社會を此儘の樂土に化するが、本旨の昇達せんとする、理想點である。

◎事業報告

一、臨海圖書館（昭和三年七月）

成人教育事業の一として圖書館を運用し社會人に直接に間接に便宜を與へると言ふことは眞に圖書館を有効化したものである。從來も夏期に臨海圖書館、林間圖書館、其他移動的圖書館の必要なることを論ずるを業とする者極めて多し。されど是が實現の伴はざる事を常に遺憾とせしが、今回荒木成田山主歸朝後、社會教育事業たる新更會を組織し、同會主催のもとに、房州北條海岸にて昭和三年七月二十日より三十日間、臨海圖書館を開設し此處に雲集する避暑客の無聊を慰むる事となれり、本會としては初めての試みなるを以て書籍の選擇、目錄の調製、館員の執務、閲覽場の設備等に關し多少の考慮を拂ひたれどそれが果して豫期の收穫を得るや否やは試金石なりしが、開館に際し其の結果を見るに豫期の迷雲は一掃され、巍然と聳ゆる好結果を得た事は誠に斯界の爲め欣幸とする所である。今後本會は該事業の爲め更に規模も種類も擴張して圖書館の民衆化に努力せんとの希望を有するものなり。

今回選擇せし書籍は凡そ六百部にして、外に東京及び地方の諸新聞並に月刊雜誌數十種の寄贈を受けて之を閲覽に供することゝせり。閲覽席は約三百坪の公園内に六坪のテントを三ヶ所に設けて書籍部、新聞雜誌部に分ち、常任館員は二名宛、十日間交替とし、これに臨時應援の派遣員及開設地に於て一名の傭員を加へたり。

之れが閲覽狀況は左記統計表を掲げて斯界研究者の參考に供す。

二、講演會

會名	日月	場所	聽講者數	講師	演題
思想大講演會	昭和三年七月二十六日	房州北條町小學校	二四〇	中島德藏 高島米峰 兒玉九十	眞我とは何ぞや 婦人問題及婦人運動の意義 極東問題に對する史的考察
思想講演會	昭和四年五月二十六日	新更會館	六五〇	新渡戸稻造	人類の第一要求に就て

臨海圖書館開設中ニ於ケル日々讀者一覽表

開館日數二十九日

閲覽人員

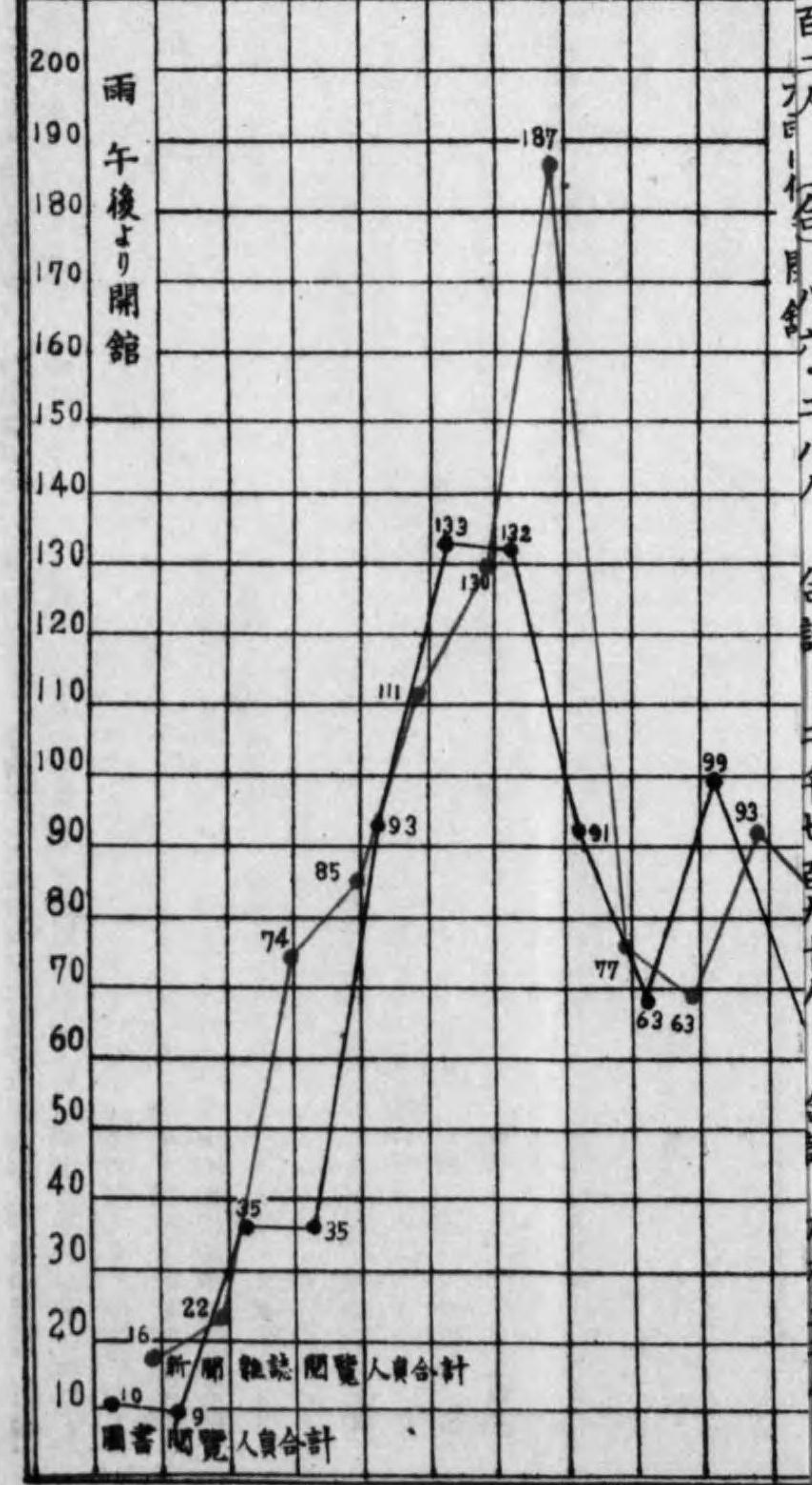
圖書之部

男子　七百五十三人　一日平均（男）二五・九九人
女子　二百三十七人　（女）八・一九人
子供　一千五百十二人　（子）五二・一〇人
合計　二千五百二人　（合）八六・二八人

新聞雜誌之部

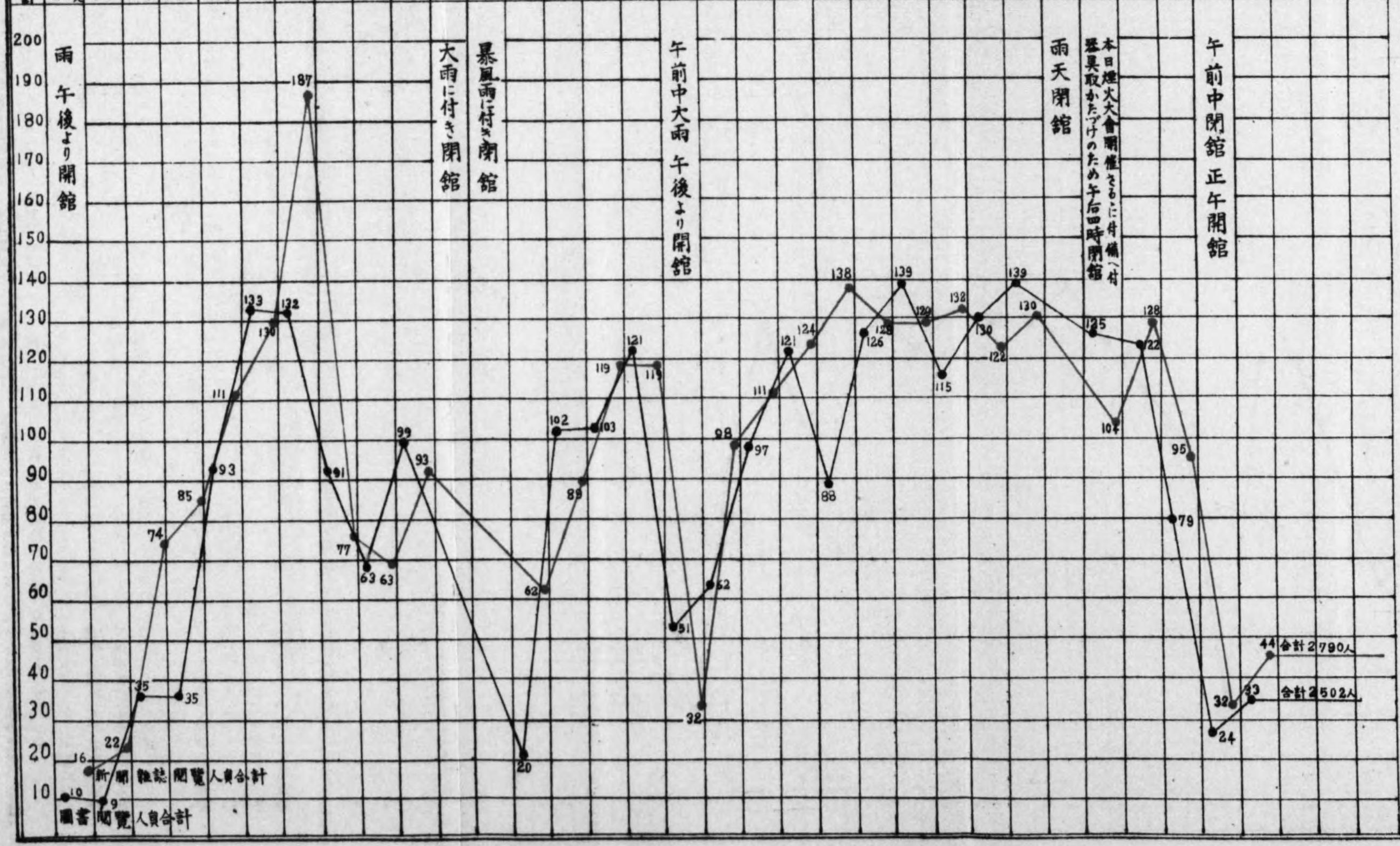
男子　八百五十一人　一日平均（男）二九・三五人
女子　三百七十六人　（女）一二・九七人
子供　一千五百六十三人　（子）五三・九〇人
合計　二千七百九十人　（合）九六・二二人

	人＼日	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	3
圖書	男	3	1	16	11	27	56	35	22	28	34	
	女	1		3	7	4	8	11	4	2	7	
	子	6	8	16	17	62	69	86	65	38	58	
	合計	10	9	35	35	93	133	132	91	68	99	
雜誌新聞	男	4	1	29	30	34	35	33	16	24	31	
	女	1		9	12	11	3	17	4	7	9	
	子	11	21	36	43	66	92	137	57	38	53	
	合計	16	22	74	85	111	130	187	77	69	93	
總計		26人	31	109	120	204	263	329	168	137	192	



臨海圖書館開設中ニ於ケル日々讀者一覽表

人＼日		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計		一日平均
圖書	男	3	1	16	11	27	56	35	22	28	34			13	37	41	53	15	13	42	22	21	21	35	32	37	35		31	32	25	6	9	753		25.97
	女	1		3	7	4	8	11	4	2	7				20	15	10	10	10	10	7	11	8	15	12	7	20		11	20	13	4	7	237		8.18
	子	6	8	16	17	62	69	86	65	38	58			7	45	47	58	26	39	45	92	56	97	89	71	86	84		83	70	41	14	17	1512		52.00
	合計	10	9	35	35	93	133	132	91	68	99			20	102	103	121	51	62	97	121	88	126	139	115	130	139		125	122	79	24	33	總計 2502人		86.28
雜誌新聞	男	4	1	29	30	34	35	33	16	24	31			22	37	50	43	15	41	45	39	29	27	40	25	31	46		30	35	29	11	19	851		29.35
	女	1		9	12	11	3	17	4	7	9			8	11	23	17	7	14	13	21	29	19	23	19	17	15		8	23	23	6	7	376		12.97
	子	11	21	36	43	66	92	137	57	38	53			32	41	46	59	10	43	53	64	80	82	66	78	74	69		66	70	43	15	18	1563		53.90
	合計	16	22	74	85	111	130	187	77	69	93			62	89	119	119	32	98	111	124	138	128	129	132	122	130		104	128	95	32	44	總計 2790		96.20
總計		26人	31	109	120	204	263	329	168	137	192			82	191	222	240	83	160	208	245	226	254	268	247	252	269		229	250	174	56	77	5292		182.49



開館日數二十九日

閲覽人員

圖書之部

男子 七百五十三人 一日平均（男）二五・九九人

女子 二百三十七人 （女）八・一九人

子供 一千五百十二人 （子）五二・一〇人

合計 二千五百二人 （合）八六・二八人

新聞雜誌之部

男子 八百五十一人 一日平均（男）二九・三五人

女子 三百七十六人 （女）一二・九七人

子供 一千五百六十三人 （子）五三・九〇人

合計 二千七百九十人 合計 九六・二二人

圖書新聞、雜誌 閲覽人員總計 五、二九二人 一日平均百八十二・四九人

二、講演會

會名	日月	場所	聽講者數	講師	演題
思想大講演會	昭和三年七月二十六日	房州北條町小學校	、二四〇	中島德藏	眞我とは何ぞや
				高島米峰	婦人問題及婦人運動の意義
				兒玉九十	極東問題に對する史的考察
思想講演會	昭和四年五月二十六日	新更會館	六五〇	新渡戸稻造	人類の第一要求に就て

三、映畫會

教育映畫會	昭和三年七月二十六日 二十七日	房州北條町小學校	八、〇〇〇	―	一般教育的映畫
教育映畫會	昭和四年五月二十六日	新更會館	五、〇〇〇	―	一般教育的映畫

四、書畫展覽會

現代名士書畫展覽會	昭和四年自四月十六日至六月十日	新更會館	一八、四四一	新更會
新日本畫展覽會	自五月廿三日至同月末日	新更會館	三、二六九	新更會

五、出版物

誌名	發行日	發行所	部數	發行責任者	法定種類
新更	臨時	新更會	二、四〇〇	佐々木祖門	學術
靈光	同	同	三〇、〇〇〇	同	同
成田山誌	同	同	三〇、〇〇〇	同	同

近代名士書畫展覽會入館者統計表

六、新更會夏期大學

講座	と	講師
最近の倫理思潮	東洋大學長	中島德藏先生
現代思想批判		高島米峰先生
町人文化	東洋大學教授 文學博士	笹川風先生
俳句の話		高濱虛子先生
金解禁と景氣	早稻田大學教授 經濟學博士	服部文四郎先生
青年の心理と修養	東洋大學教授	高島平三郎先生
現代の社會生活と自治	明星中學校長	兒玉九十先生
經濟政策の原理	日本大學教授	井上貞藏先生

鄉土資料並ニ雜誌寄贈者芳名

三橋重郎兵衛

物品	點數	著者名
色紙	三	神山魚貫等筆
短冊	十三	同人等筆
奉書	十四	伊能穎則等
扇子	二	神山魚貫
圖書	一	田中松月
書翰	六	椿仲輔等
軸	一	神山魚貫筆
合計	四十點	

石川甚兵衛

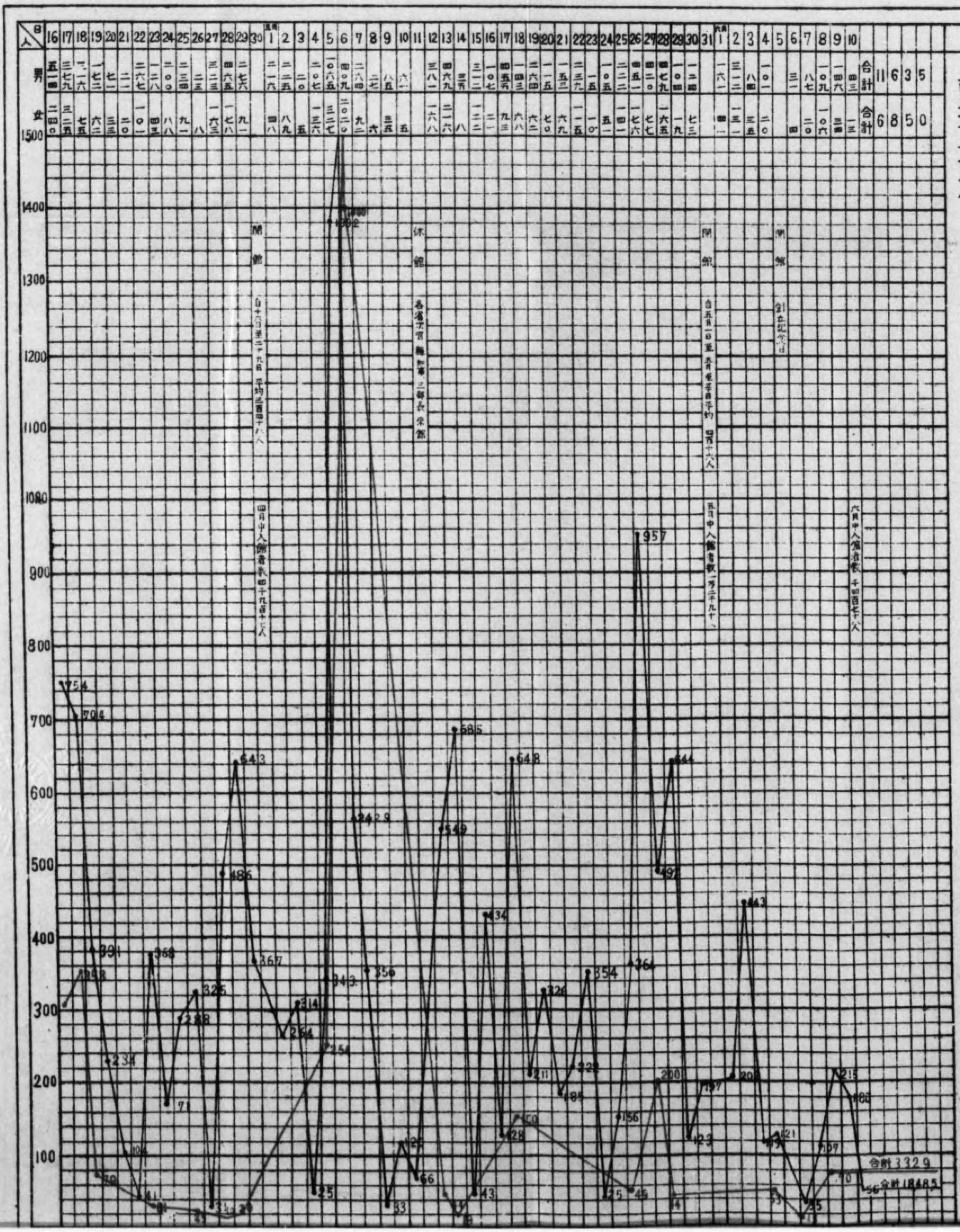
鄉土史料	一點

重田兼

雜誌	週間朝日（每號）

新更會館職員

總裁兼館長	荒木照定
主事	佐々木祖門
事務員	石橋廣
事務見習	林稜二
同	長竹勅子
同	松田たけ



近代名士 書画展覧會観覧人員数統計表

昭和四年自四月十六日
同　年至六月十日

總計 一万八千四百八十五人
男子 一万一千六百三十五人
女子 六千八百五十・人
一日平均 百三十六・七十三人
一日平均 男二百二十三・七十五人
一日平均 女 百三十一・七十三人
四月中 一日平均 三百四十八人
五月中 一日平均 四百十六人
六月中 一日平均 百六十四人
團体總計 三千三百二十九人
一日平均 六十四人

最近の倫理思潮	東洋大學長	中島徳藏先生
現代思想批判		高島米峰先生
町人文化	東洋大學教授 文學博士	笹川風先生
俳句の話		高浪虚子先生
金解禁と景氣	早稲田大學教授 經濟學博士	服部文四郎先生
青年の心理と修養	東洋大學教授	高島平三郎先生
現代の社會生活と自治	明星中學校長	兒玉九十先生
經濟政策の原理	日本大學教授	井上貞藏先生

鄉土資料並ニ雜誌寄贈者芳名

三橋重郎兵衛

物品	點數	著者名
色紙	三	神山魚貫等筆
短冊	十三	同人等筆
軸	一	神山魚貫筆
合計	四十點	

石川甚兵衛

鄉土史料	一點	

重田兼

雜誌	週間朝日（毎號）	

新更會館職員

總裁兼館長　荒木照

主　事　佐々木祖

事務員　石橋

事務見習　林　稜

同　長竹　勅

同　松田　た

最近の倫理思潮	東洋大學長	中島德藏先生
現代思想批判		高島米峰先生
町人文化	東洋大學教授 文學博士	笹川風先生
俳句の話		高浪虚子先生
金解禁と景氣	早稲田大學教授 經濟學博士	服部文四郎先生
青年の心理と修養	東洋大學教授	高島平三郎先生
現代の社會生活と自治	明星中學校長	兒玉九十先生
經濟政策の原理	日本大學教授	井上貞藏先生

郷土資料並ニ雑誌寄贈者芳名

三橋重郎兵衛

物品	點數	著者名
色紙	三	神山魚貫等筆
短冊	十三	同人等筆

軸	一	神山魚貫筆
合計	四十點	

石川甚兵衛

郷土史料	一點

重田兼

雑誌	週間朝日（毎號）

新更會館職員

總裁兼館長　荒木照定
主事　佐々木祖門
事務員　石橋廣
事務見習　林稜二
同　長竹勅子
同　松田たけ

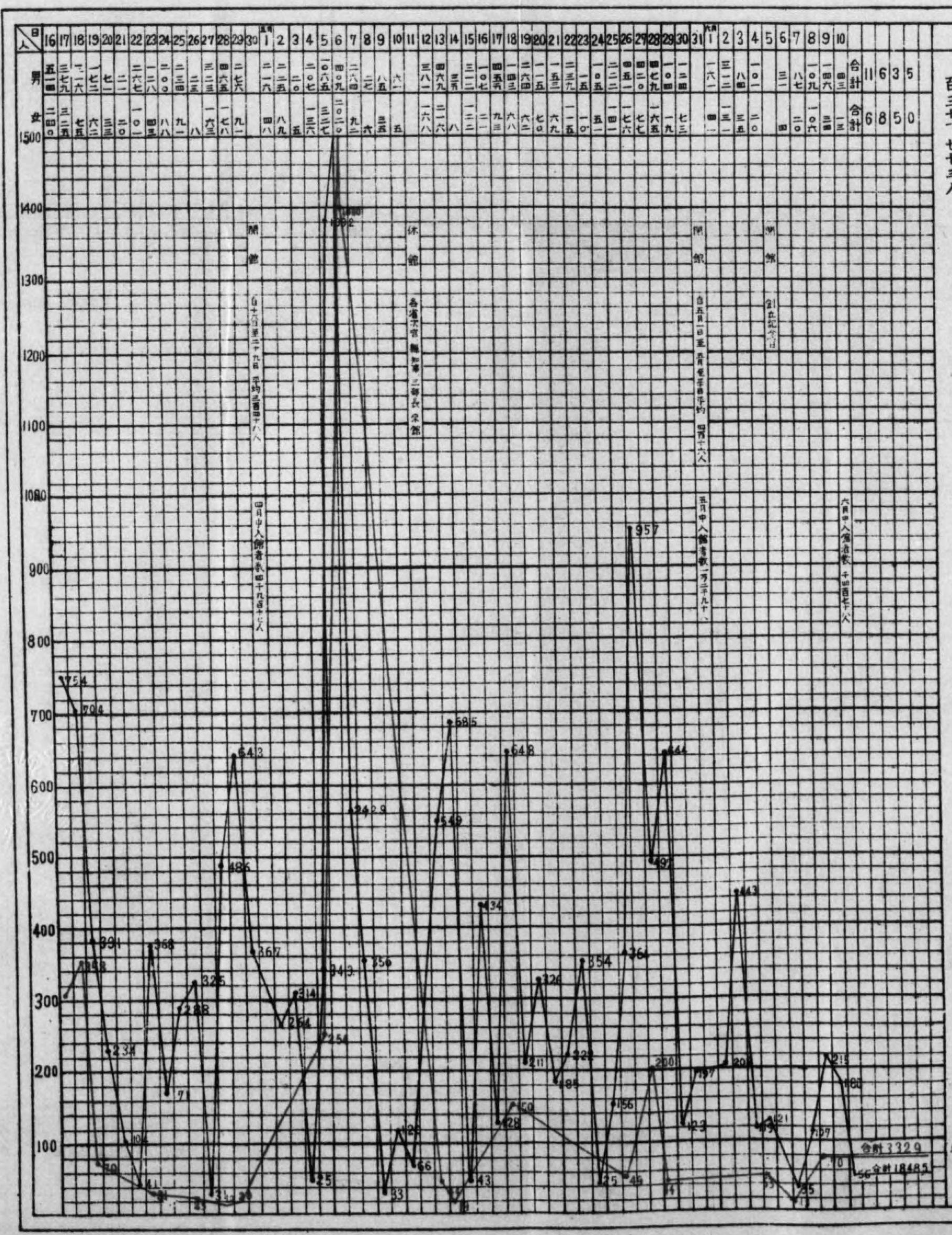
近代名士 書画展覧會觀覧人員数統計表

昭和四年自四月十六日
同　年至六月十日

總計 一万八千四百八十五人　男子 一万一千六百三十五人　女子 六千八百五十人
一日平均 三百三十七・七十三人　一日平均 男二百二十三・七十五人　一日平均 女 百三十一・七十三人

四月中 一日平均 三百四十八人
五月中 一日平均 四百十六人
六月中 一日平均 百六十四人

團体總計 三千三百二十九人　一日平均 六十四人



258 2
別置
101

昭和四年八月十日印刷
昭和四年八月十五日發行
（非賣品）

編輯兼發行人　淺井照次
千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人　森久一

印刷所　ぎんざ社印刷部
東京市深川區冬木町十番地

發行所　成田山新勝寺

파5N 74

終